

男女共同参画に関する住民意識調査結果

(1) 調査の目的

町民の男女共同参画に関する意識、意向等について把握し、施策の推進に役立てること、を目的とし、町民意識調査を実施しました。

(2) 調査対象者

長和町内在住の18歳から69歳までの住民のうち、以下の年代別、男女別に無作為抽出した600人

18歳～29歳：	82名（男性：45、女性：37）
30歳～39歳：	85名（男性：45、女性：40）
40歳～49歳：	113名（男性：62、女性：51）
50歳～59歳：	135名（男性：68、女性：67）
60歳～69歳：	185名（男性：98、女性：87）
計	600名（男性：318、女性：282）

(3) 調査方法

調査票による本人記述式とし、郵送により実施。
調査期間：令和5年7月18日～8月8日

(4) 回収結果

【回収数】253件 【回収率】42.1%

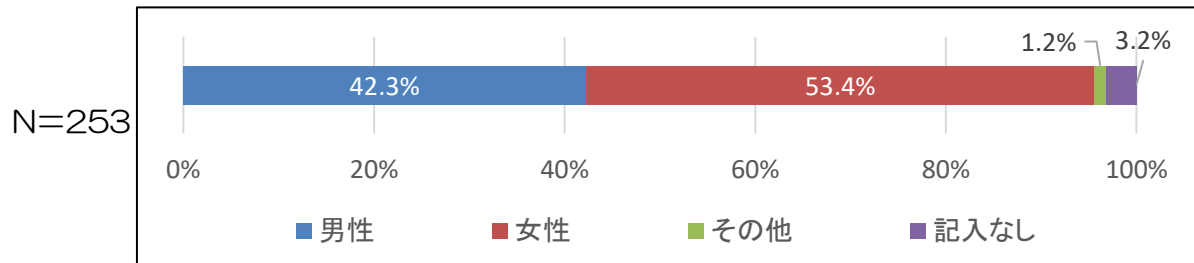
(5) 調査結果

※グラフについては、百分率（%）で示してあります。
※端数処理により、合計が100%にならない場合があります。

1. あなた自身のことについて

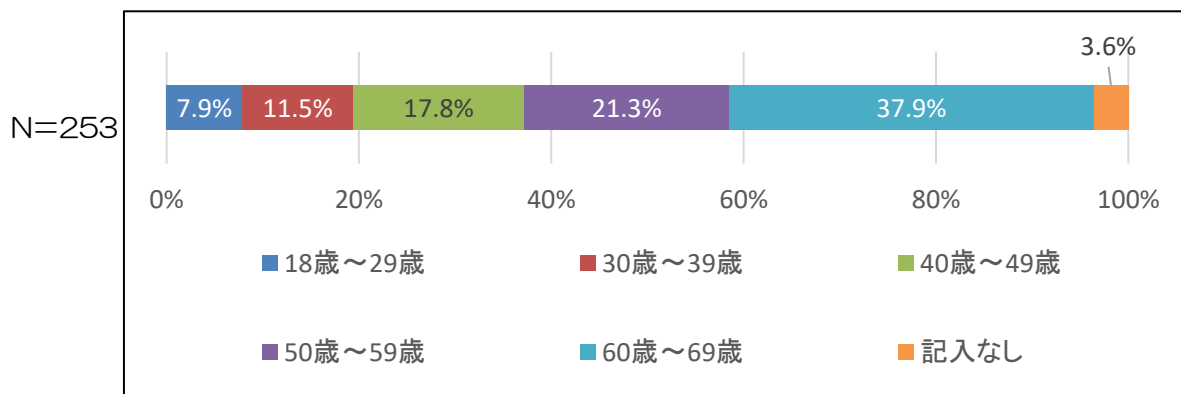
問1 あなたの性別を教えてください。（○は1つだけ）

(件数)	男性	107
	女性	135
	その他	3
	記入なし	8
	計	253



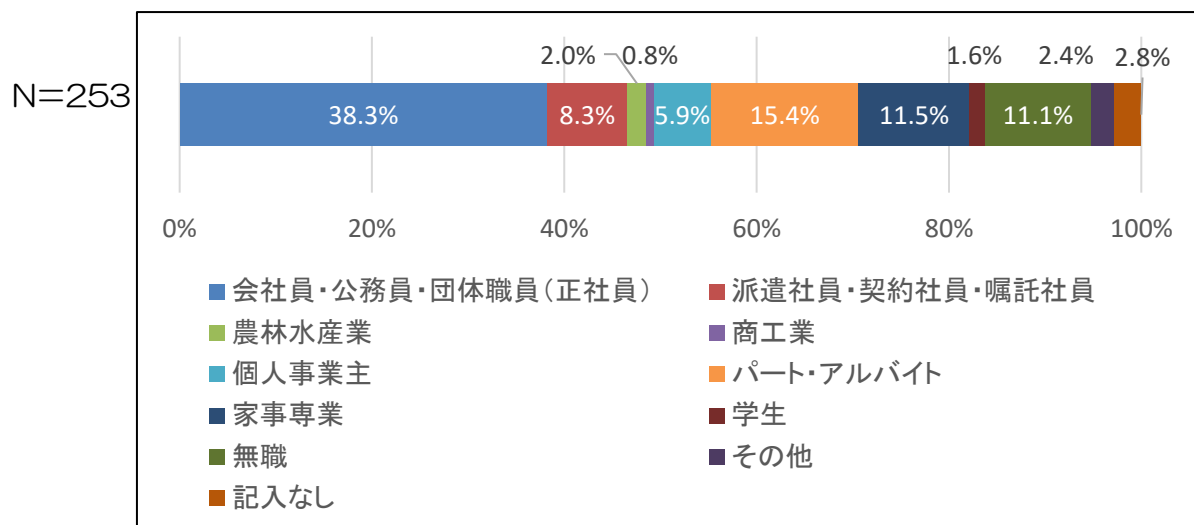
問2 あなたの現在の年齢を教えてください。（○は1つだけ）

	件数
18歳～29歳	20
30歳～39歳	29
40歳～49歳	45
50歳～59歳	54
60歳～69歳	96
記入なし	9
計	253



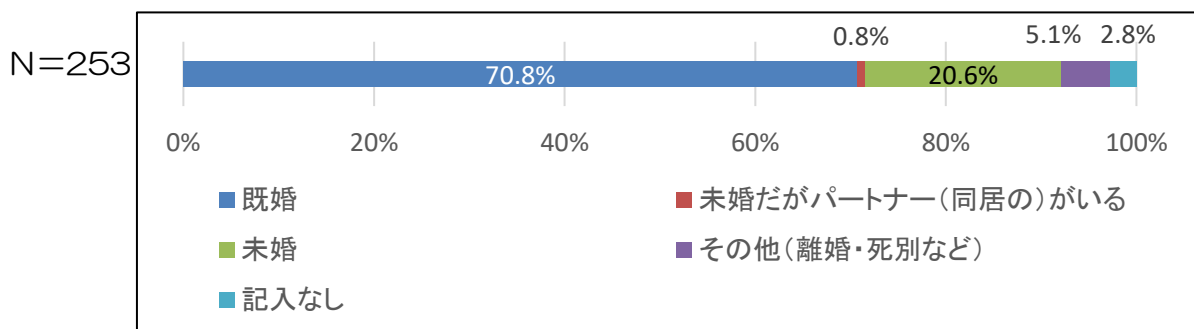
問3 あなたの主とする職業を教えてください。（〇は1つだけ）

	件数
会社員・公務員・団体職員（正社員）	97
派遣社員・契約社員・嘱託社員	21
農林水産業	5
商工業	2
個人事業主	15
パート・アルバイト	39
家事専業	29
学生	4
無職	28
その他	6
記入なし	7
計	253



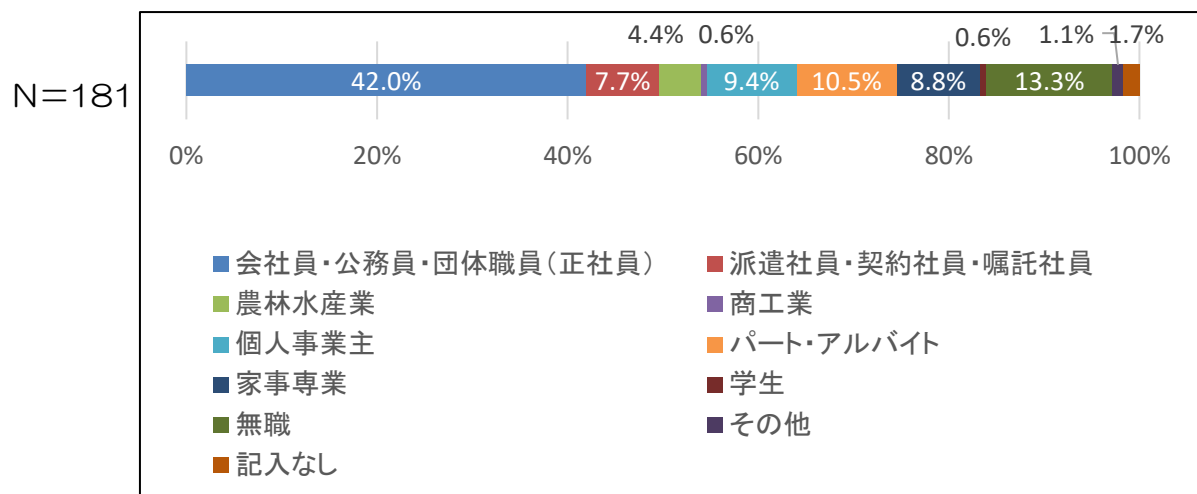
問4 あなたは結婚されていますか。（いずれか1つに〇）

	件数
既婚	179
未婚だがパートナー（同居の）がいる	2
未婚	52
その他（離婚・死別など）	13
記入なし	7
計	253



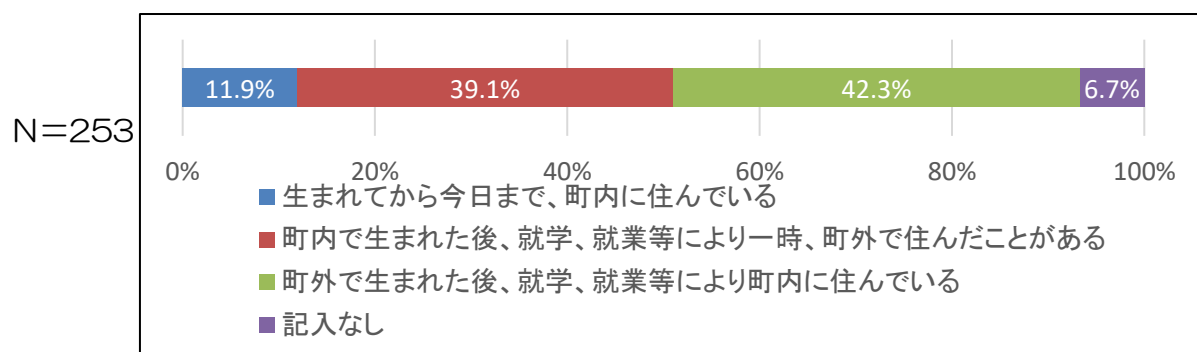
問5 あなたのパートナー（配偶者など）の主とする職業を教えてください。
（○は一つだけ）

	件数
会社員・公務員・団体職員（正社員）	76
派遣社員・契約社員・嘱託社員	14
農林水産業	8
商工業	1
個人事業主	17
パート・アルバイト	19
家事専業	16
学生	1
無職	24
その他	2
記入なし	3
計	181



問6 あなたは、長和町以外での在住経験がありますか

	件数
生まれてから今日まで、町内に住んでいる	30
町内で生まれた後、就学、就業等により一時、町外で住んだことがある	99
町外で生まれた後、就学、就業等により町内に住んでいる	107
記入なし	17
計	253



2. 男女共同参画に関することについて

問7 次の「1」から「8」の場面・分野における男女平等について、あなたの考えに最も近いものはどれですか（あてはまるものに○）

【分析結果】

男女が平等と思うものでは、「学校教育の場で」が最も多かった。

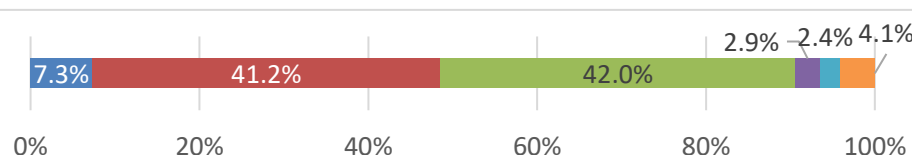
一方、「社会通念・慣習・しきたりで」、「政治・経済活動の場で」、「社会全体で」は、7割を超える方が、「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答していた。

性別では、女性回答者が多くの項目において「男性が優遇されている」と答える割合が多かった。

【全体】

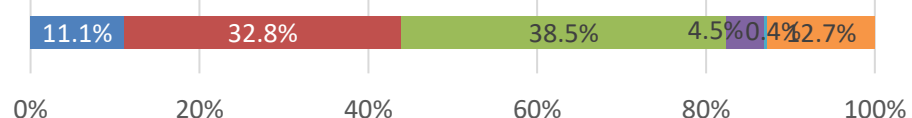
1. 家庭生活の中で

n=245



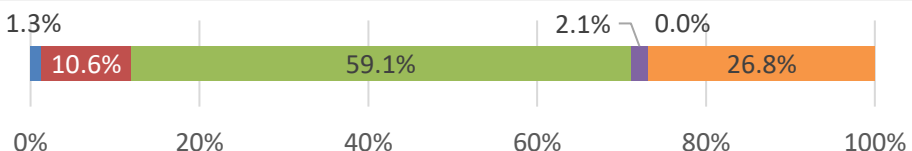
2. 職場の中で

n=244



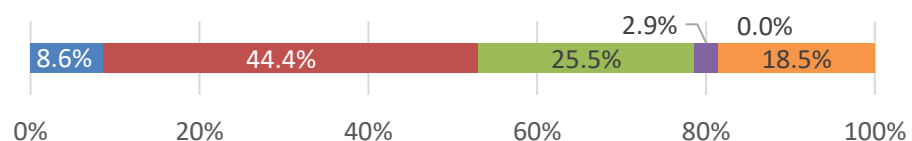
3. 学校教育の場で

n=235



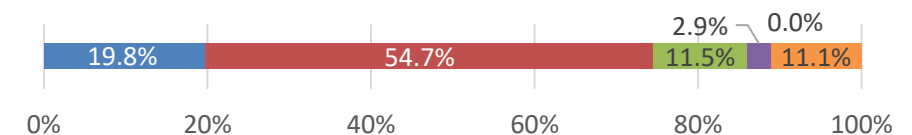
4. 地域社会の中で

n=243



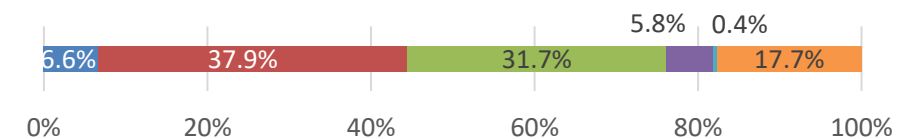
5. 社会通念・慣習・しきたりで

n=243



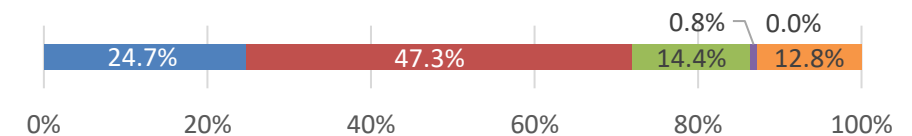
6. 法律や制度の面で

n=243



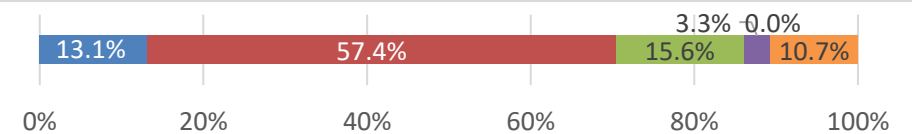
7. 政治・経済活動の場で

n=243



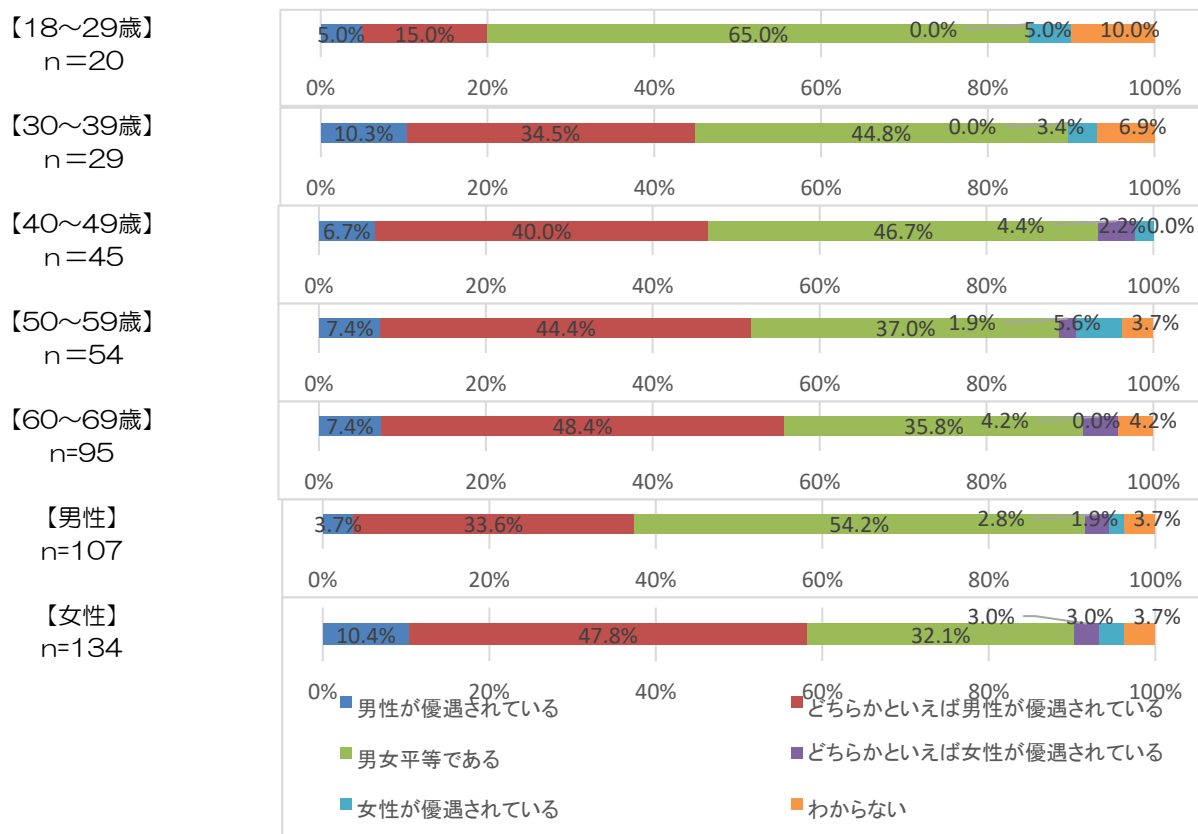
8. 社会全体として

n=244

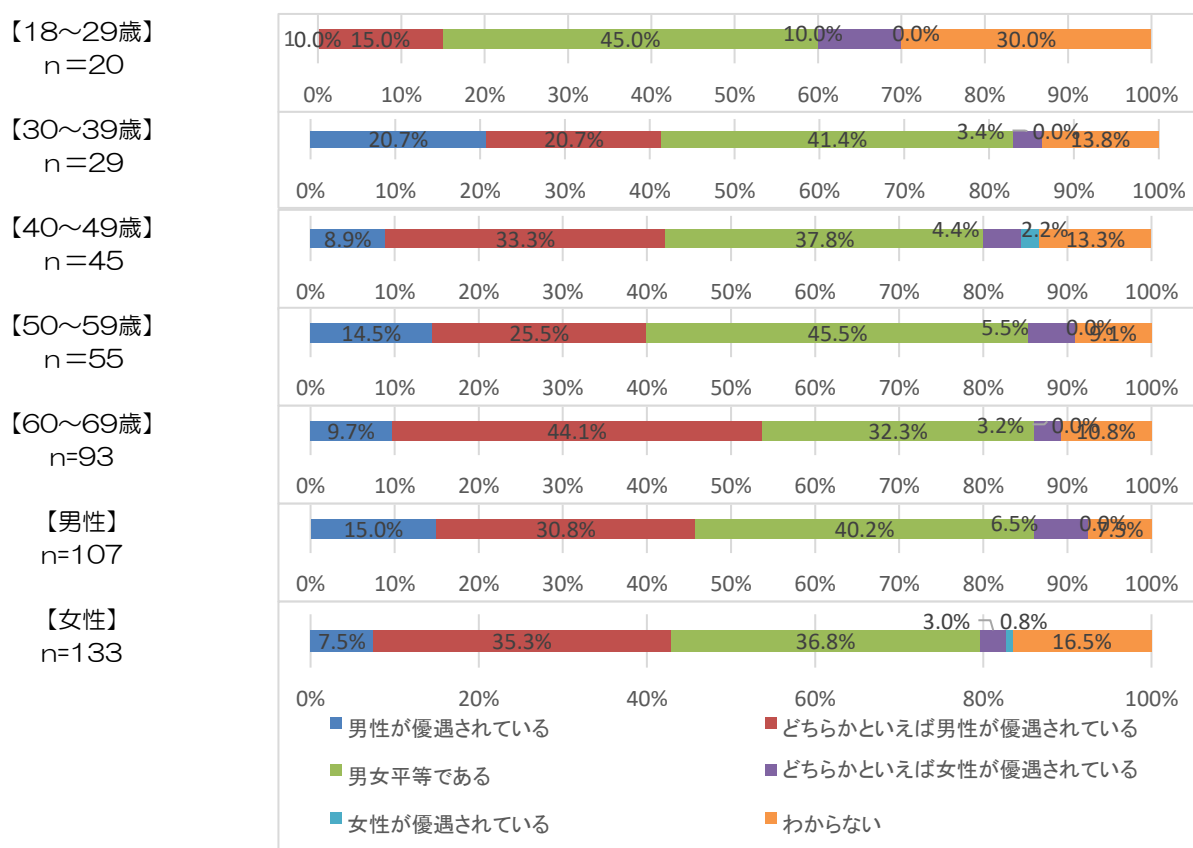


■ 男性が優遇されている ■ どちらかといえば男性が優遇されている
■ 男女平等である ■ どちらかといえば女性が優遇されている
■ 女性が優遇されている ■ わからない

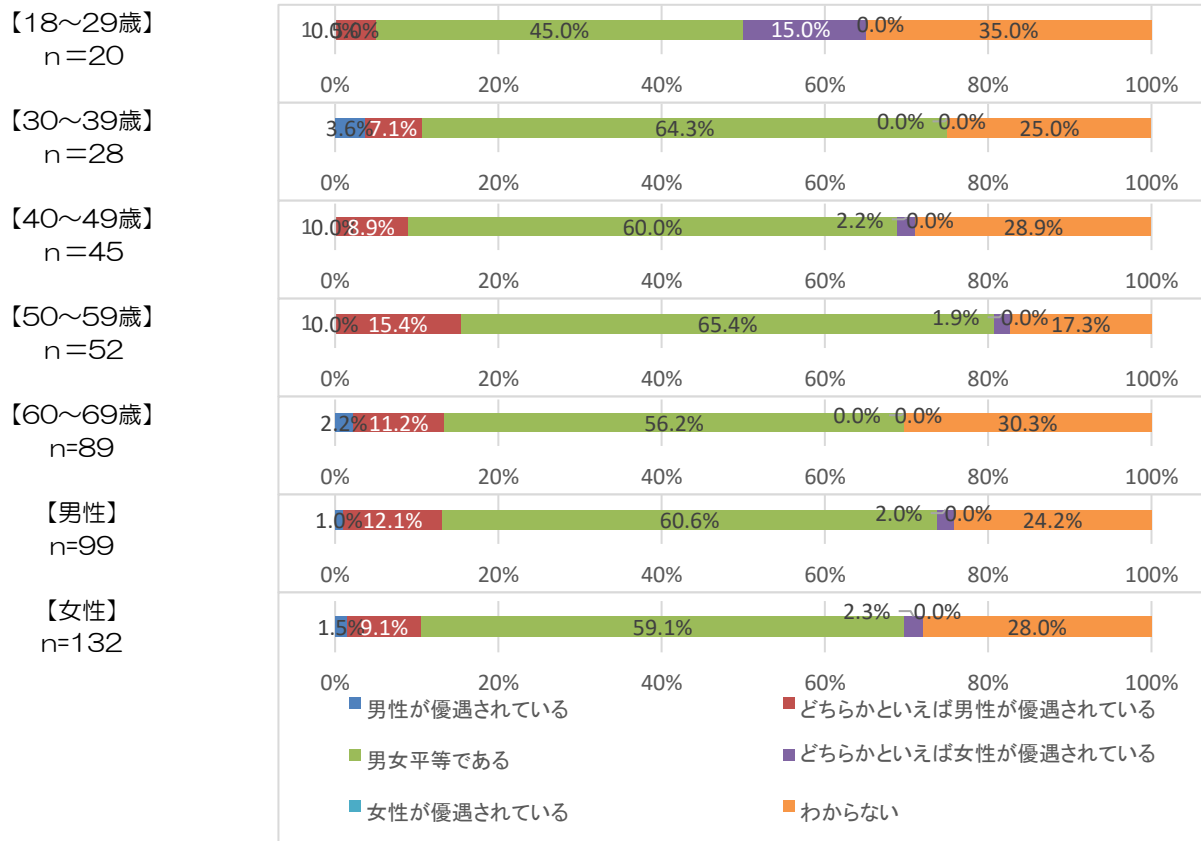
1. 家庭生活の中で



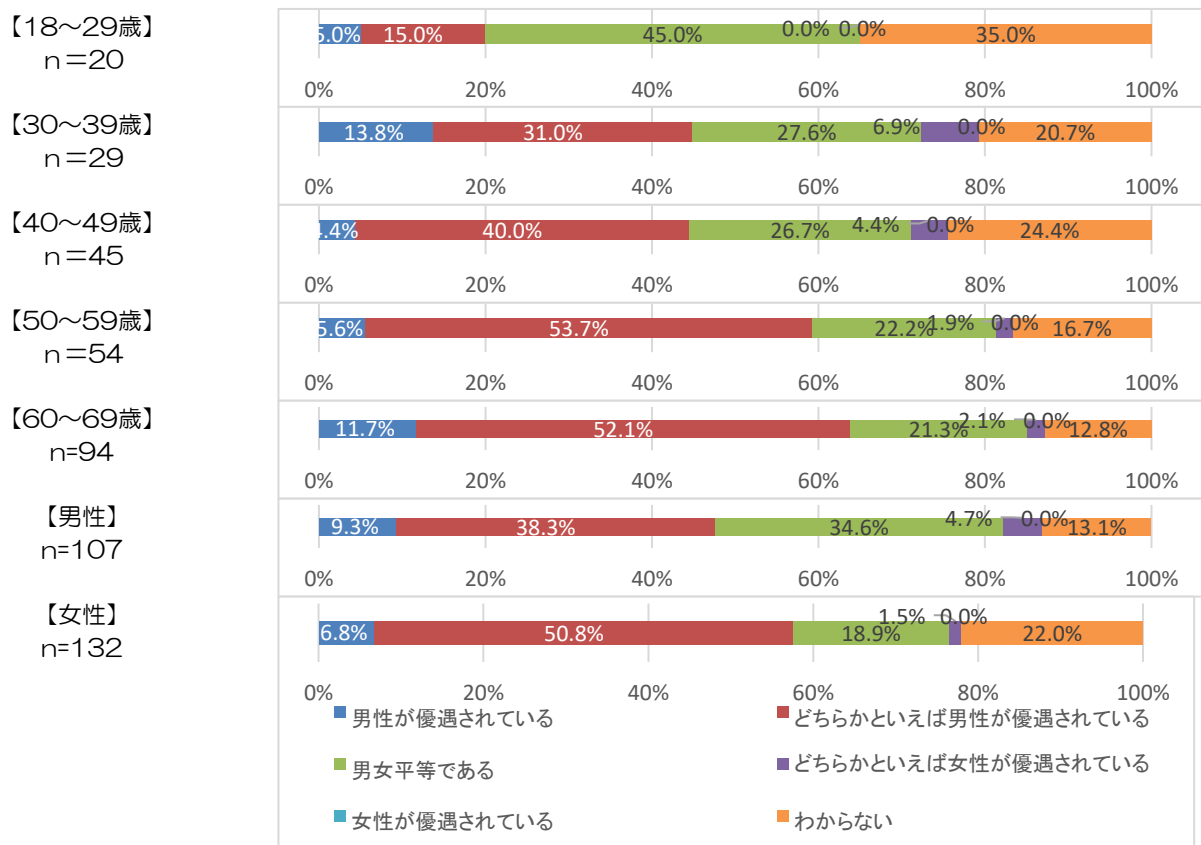
2. 職場の中で



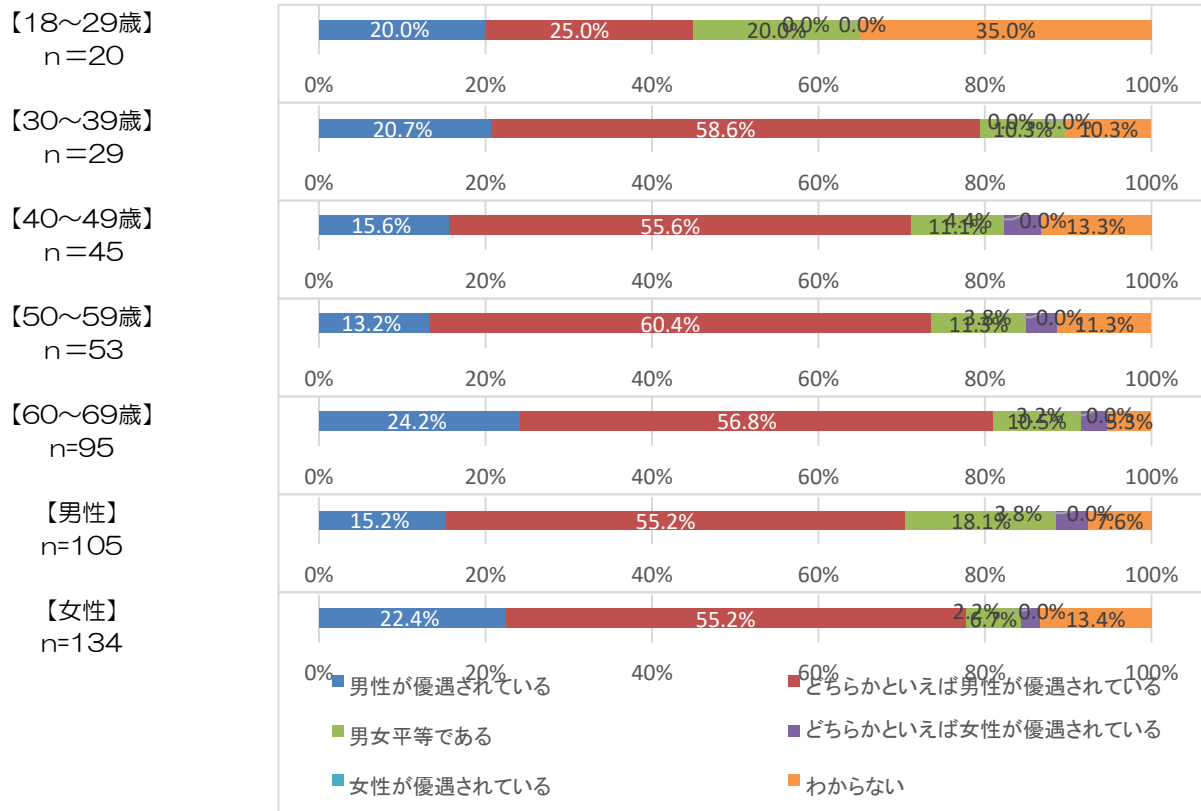
3. 学校教育の場で



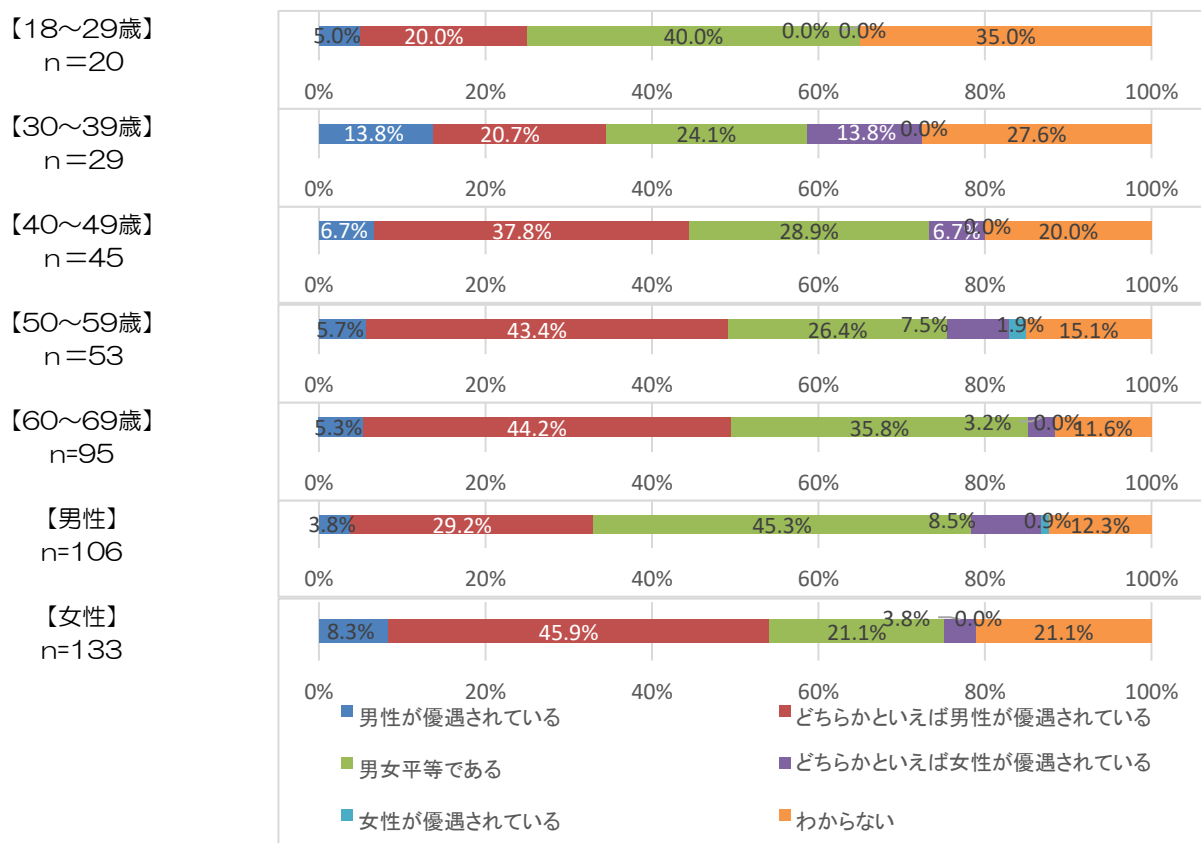
4. 地域社会の中で



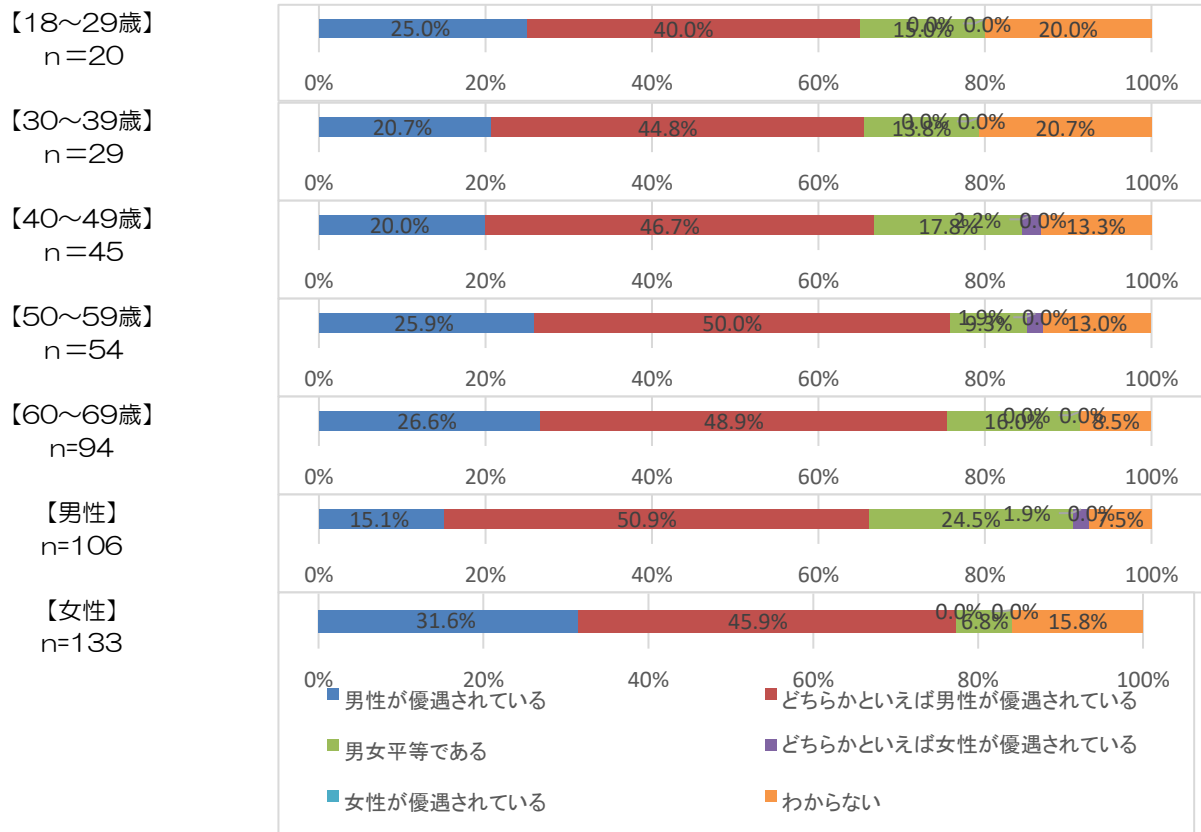
5. 社会通念・慣習・しきたりで



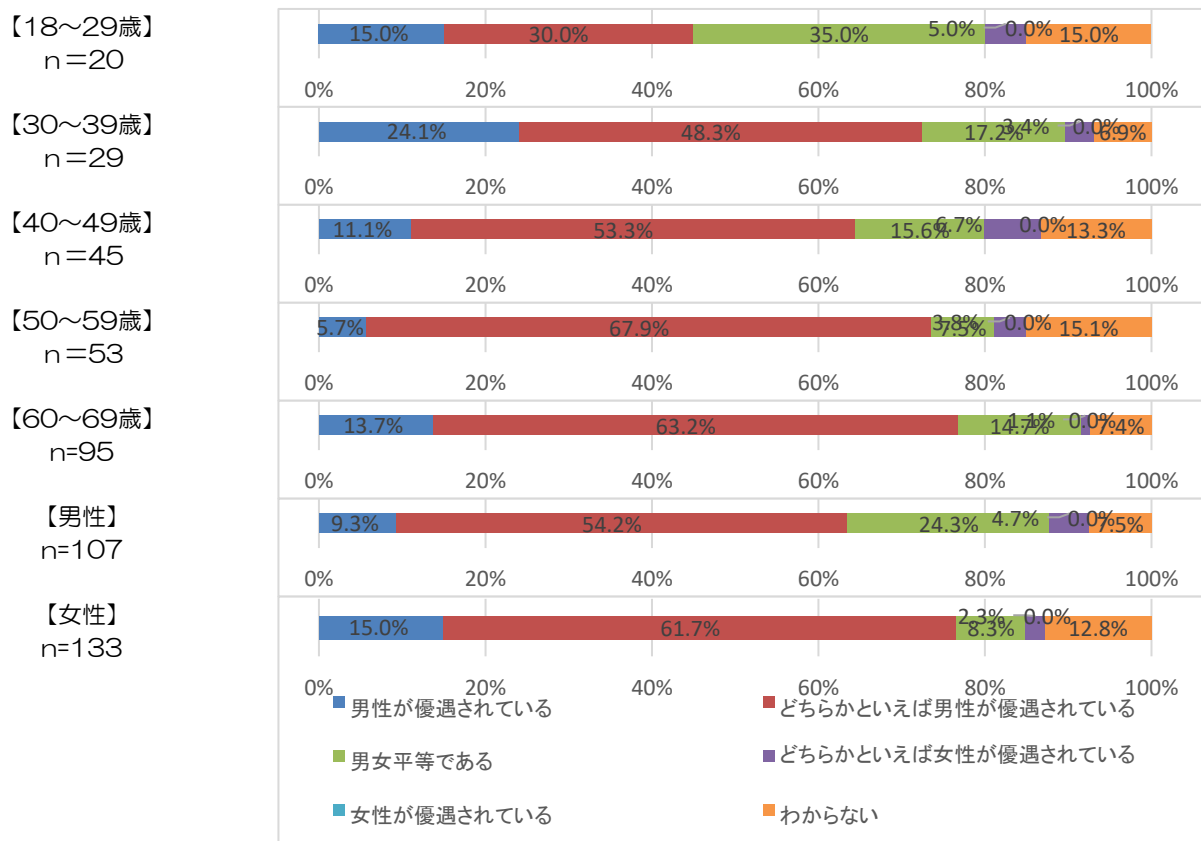
6. 法律や制度の面で



7. 政治・経済活動の場で



8. 社会全体として

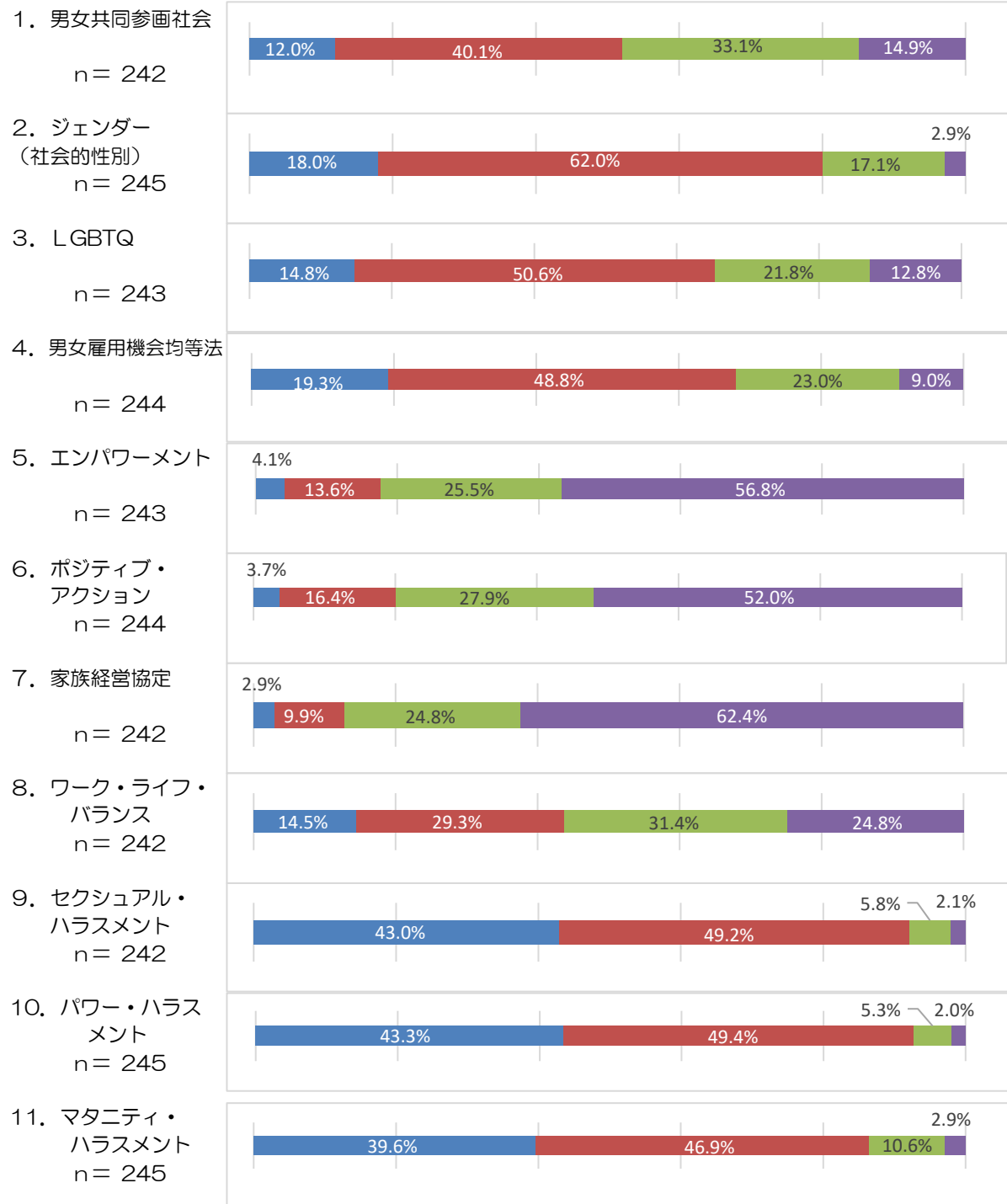


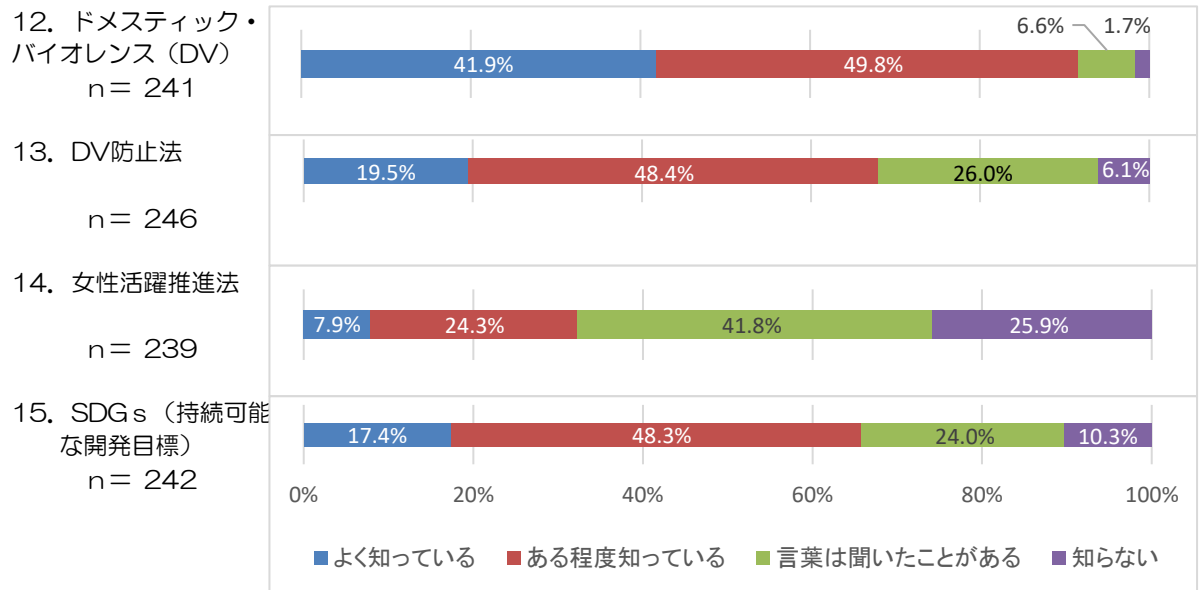
問8 次の「1」 から 「15」 の言葉をご存じですか。（あてはまるものに○）

【分析結果】

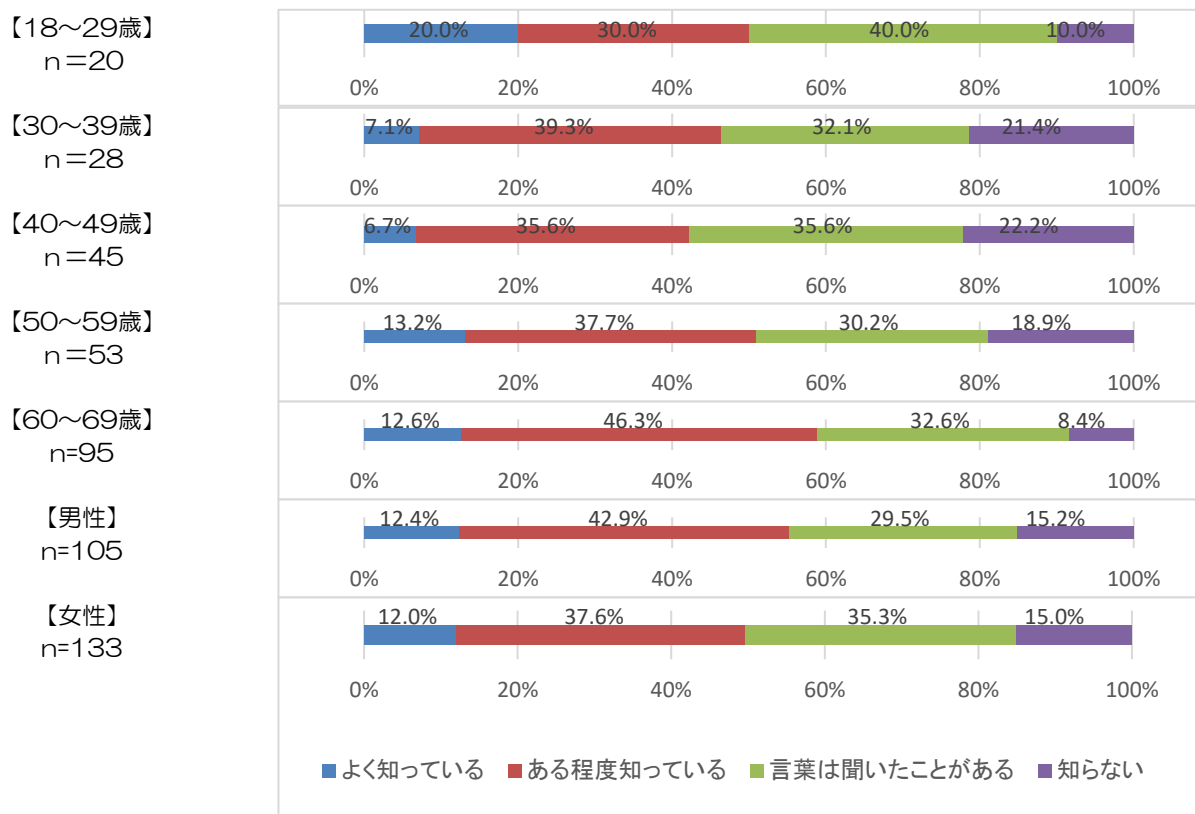
ほとんどの設問で「知っている」、「言葉は聞いたことがある」と回答した人が7割を超えたが、「エンパワーメント」、「ポジティブアクション」、「家族経営協定」については、5割を超える人が「知らない」と回答した。

特に「ジェンダー」「セクシャル・ハラスメント」「パワー・ハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス」「マタニティ・ハラスメント」については、全世代、全性別、に関わらず、「知っている」「言葉を聞いたことがある」と回答していた。

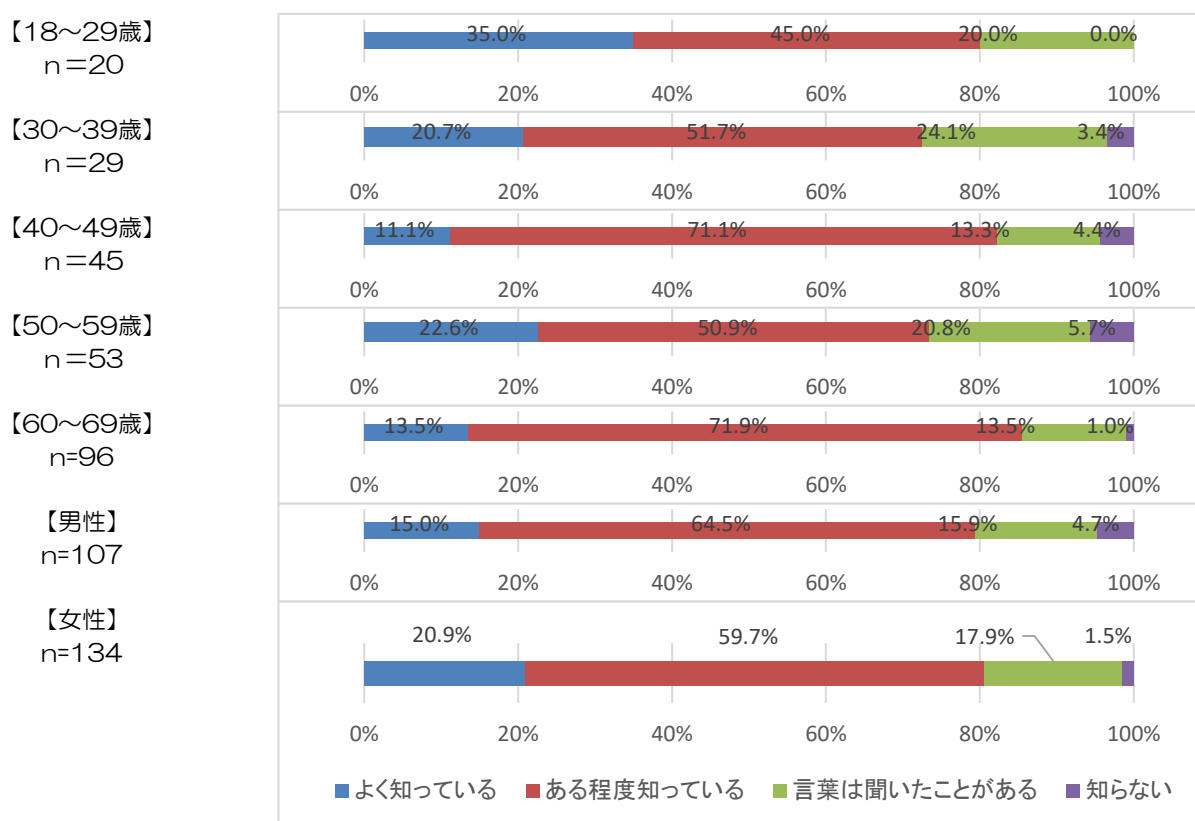




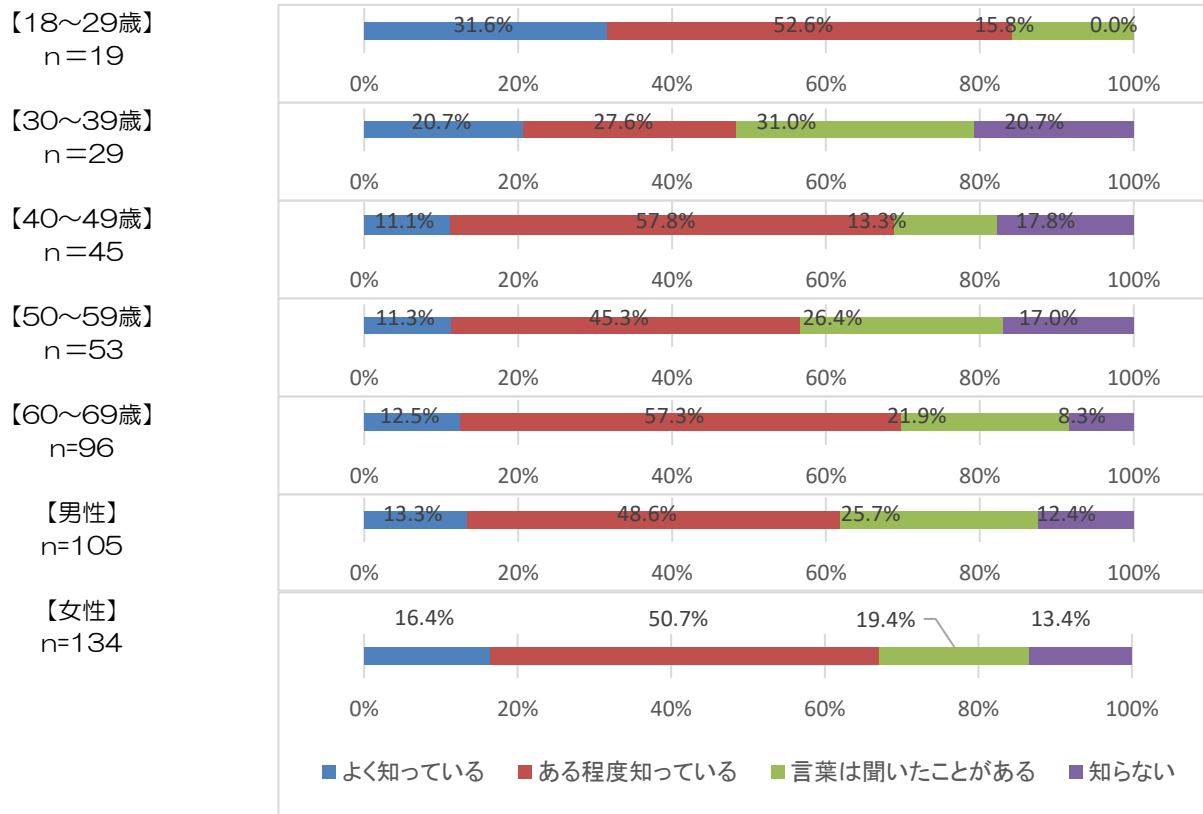
1. 男女共同参画社会



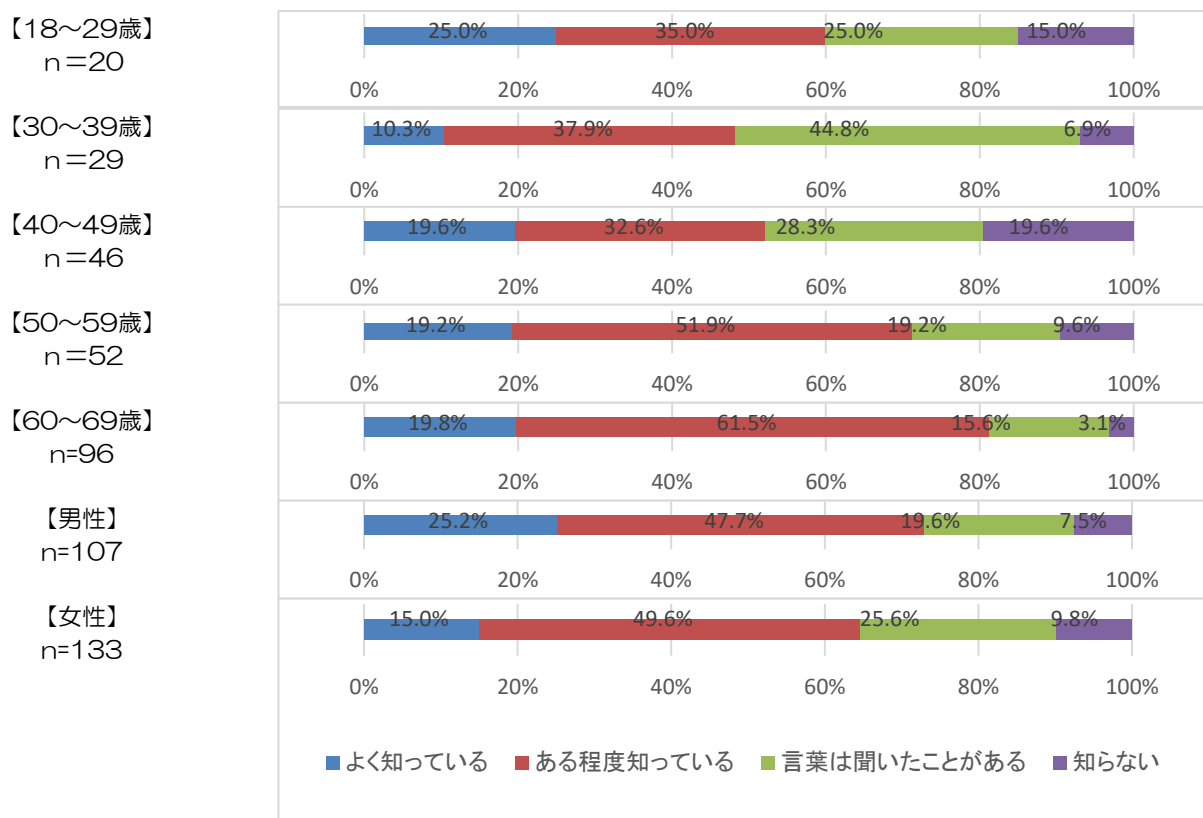
2. ジェンダー（社会的性別）



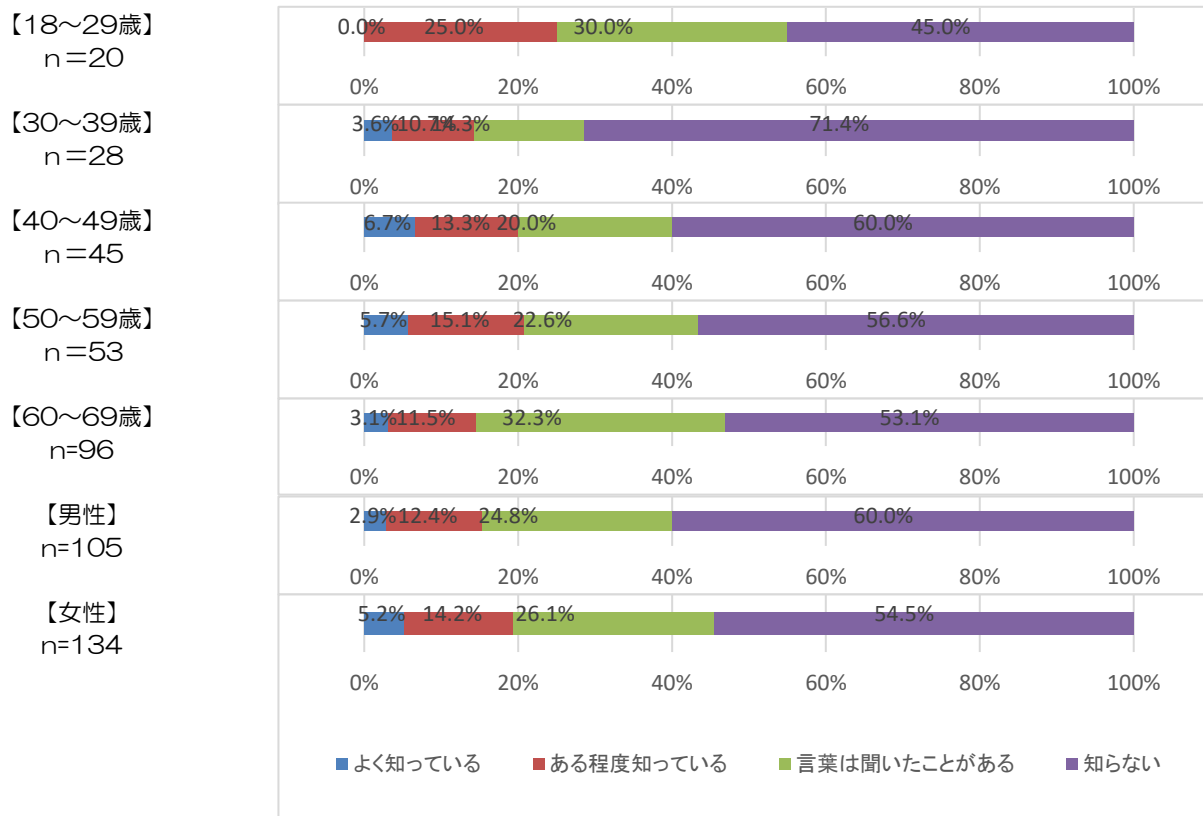
3. LGBTQ



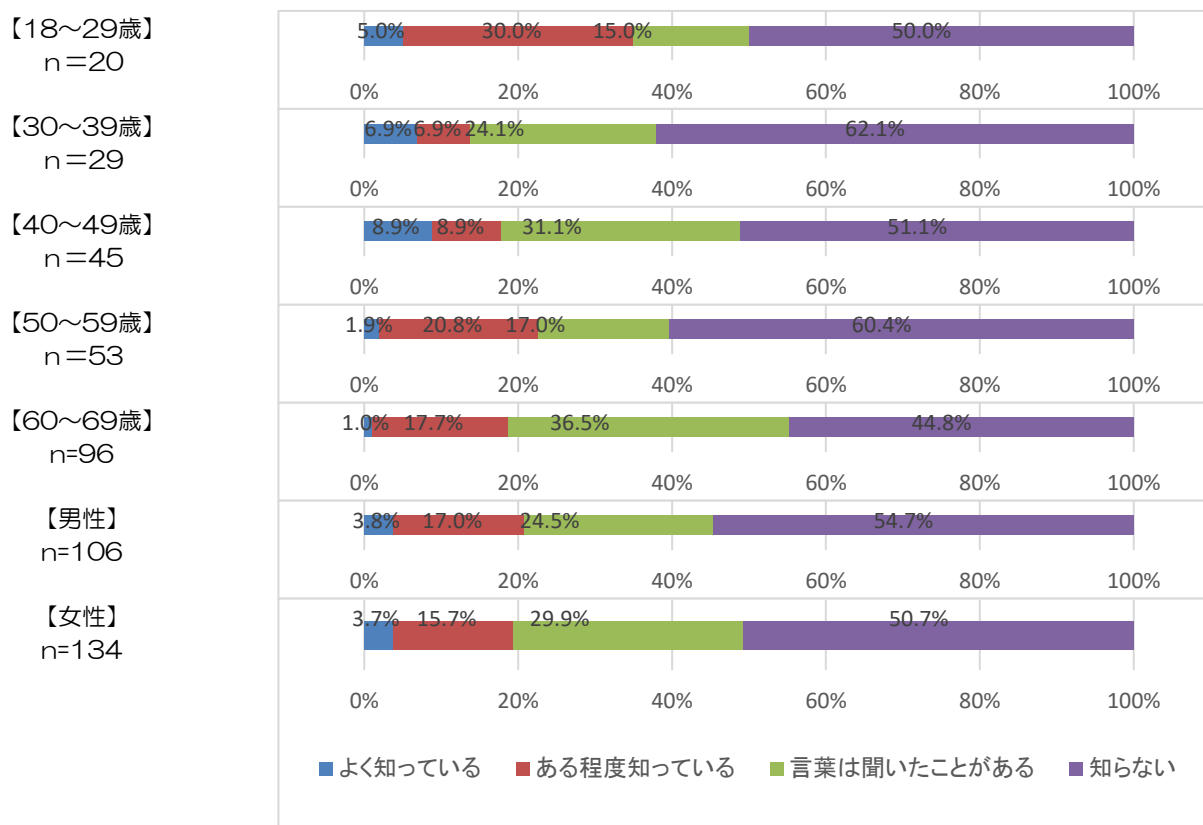
4. 男女雇用機会均等法



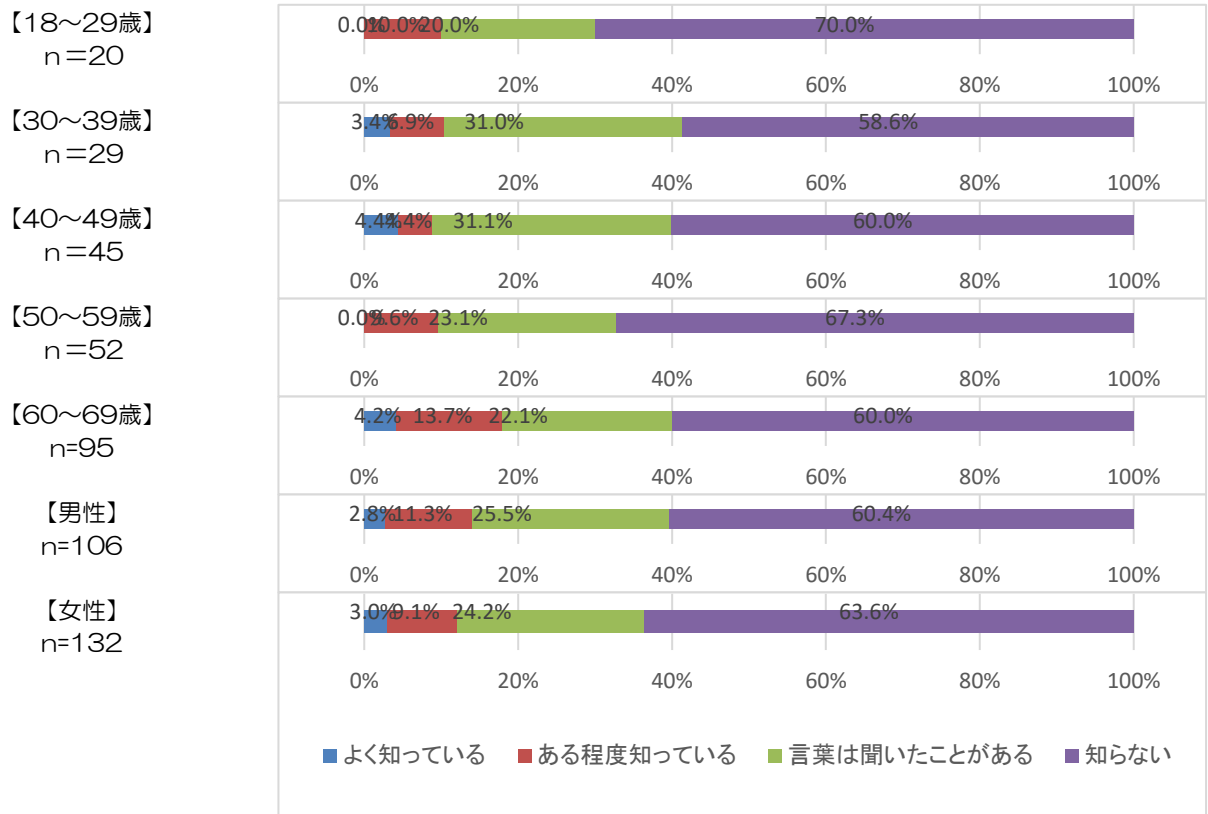
5. エンパワーメント



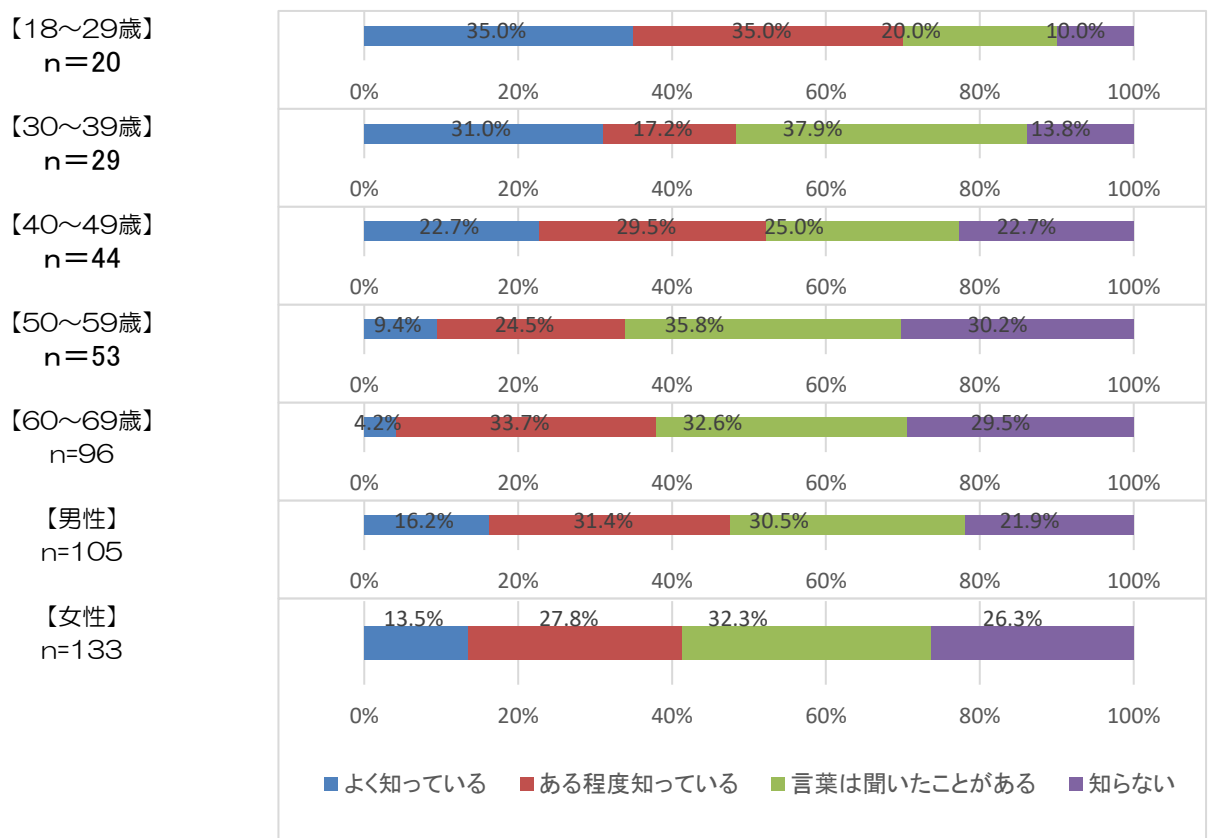
6. ポジティブ・アクション



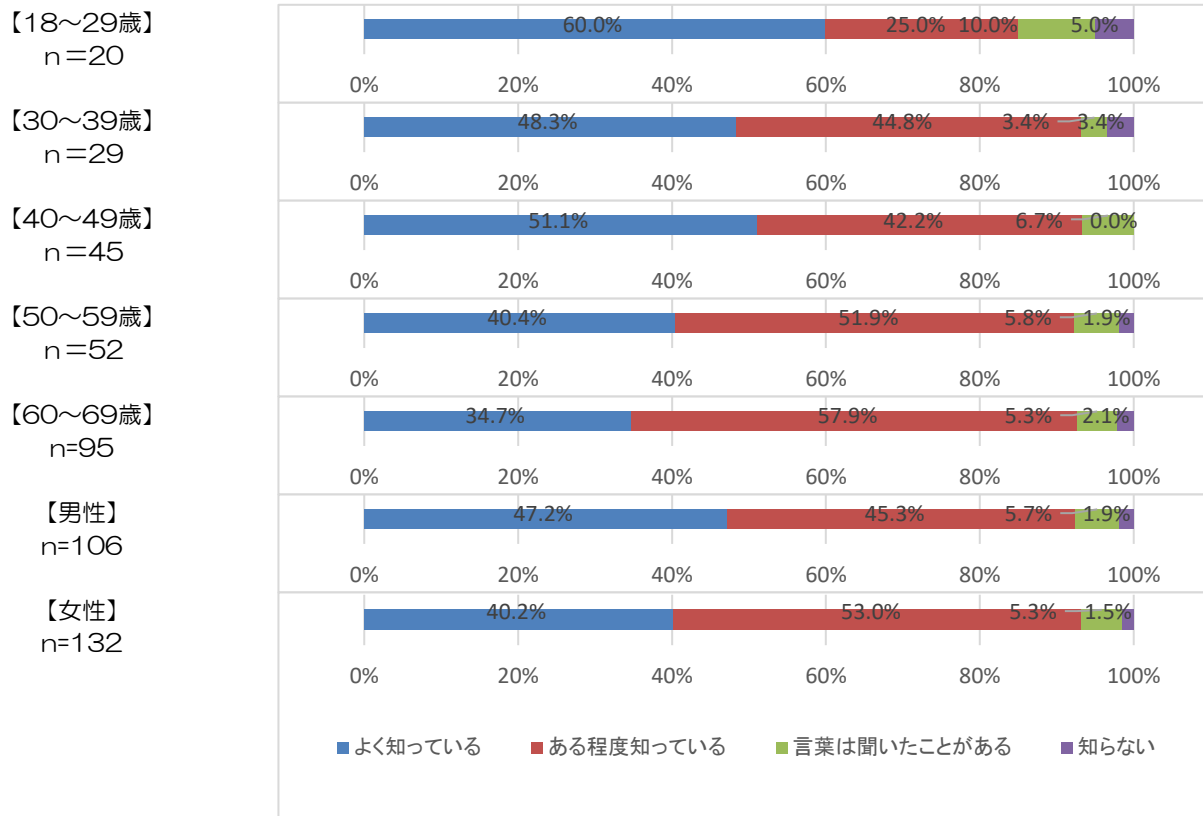
7. 家族経営協定



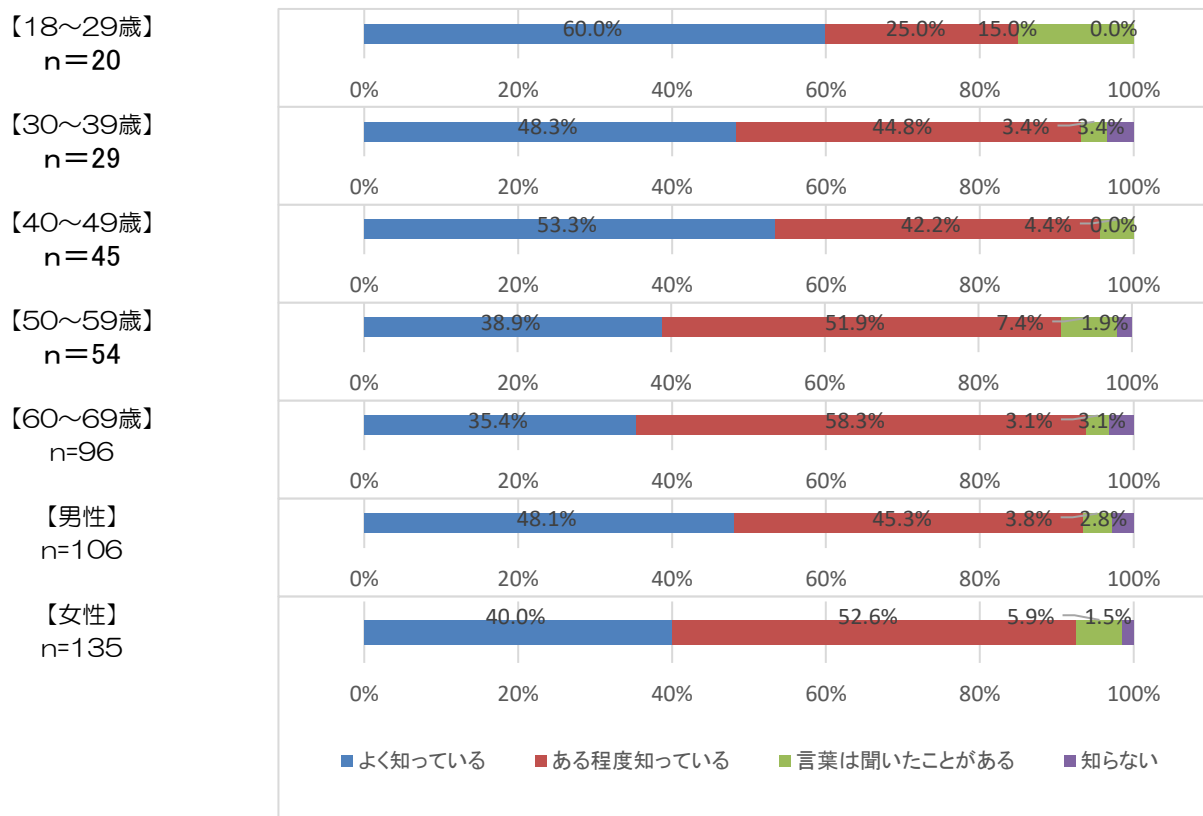
8. ワーク・ライフ・バランス



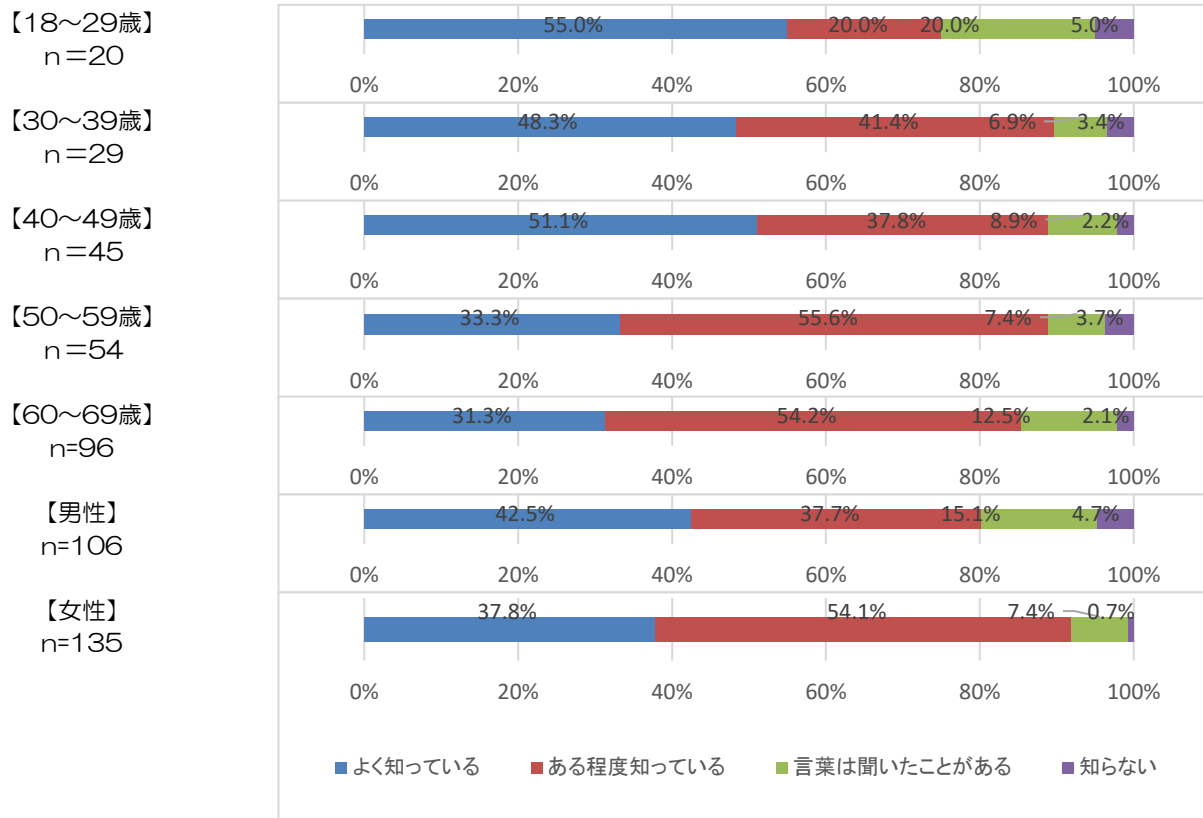
9. セクシュアル・ハラスメント



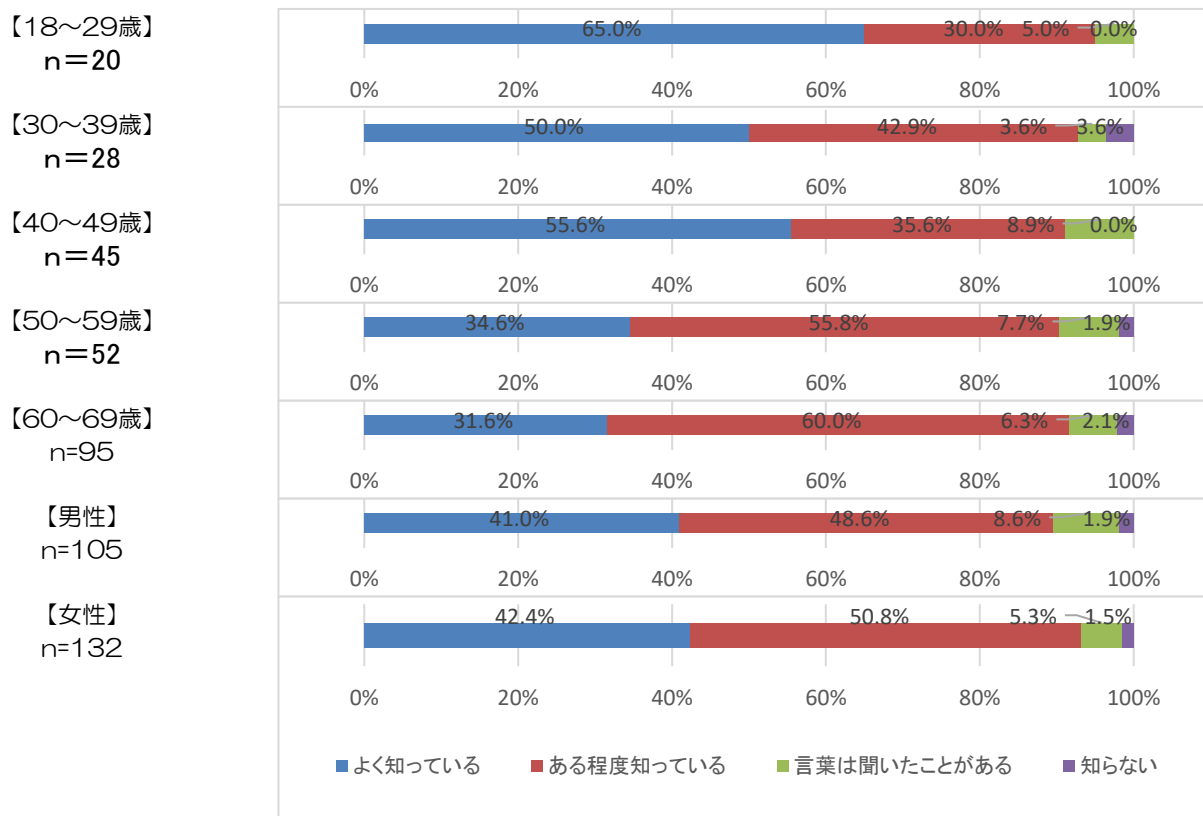
10. パワー・ハラスメント



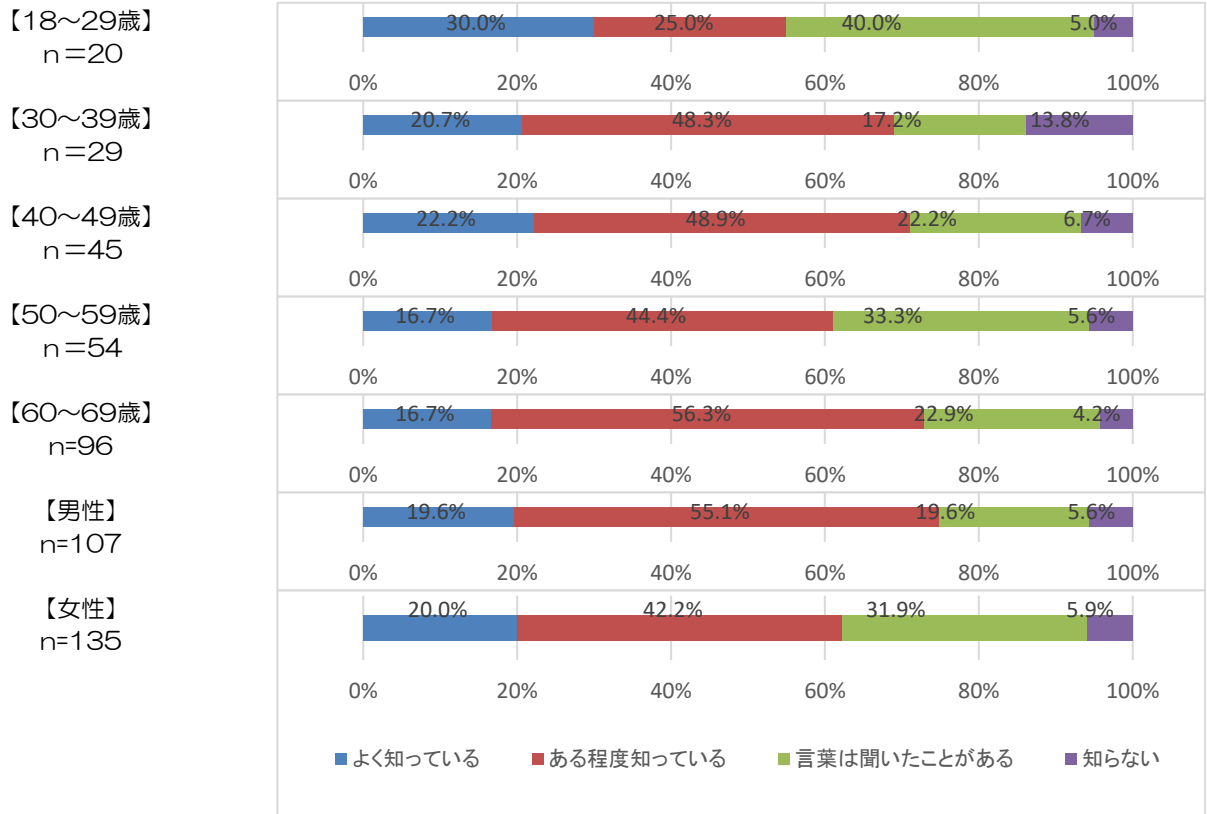
11. マタニティ・ハラスメント



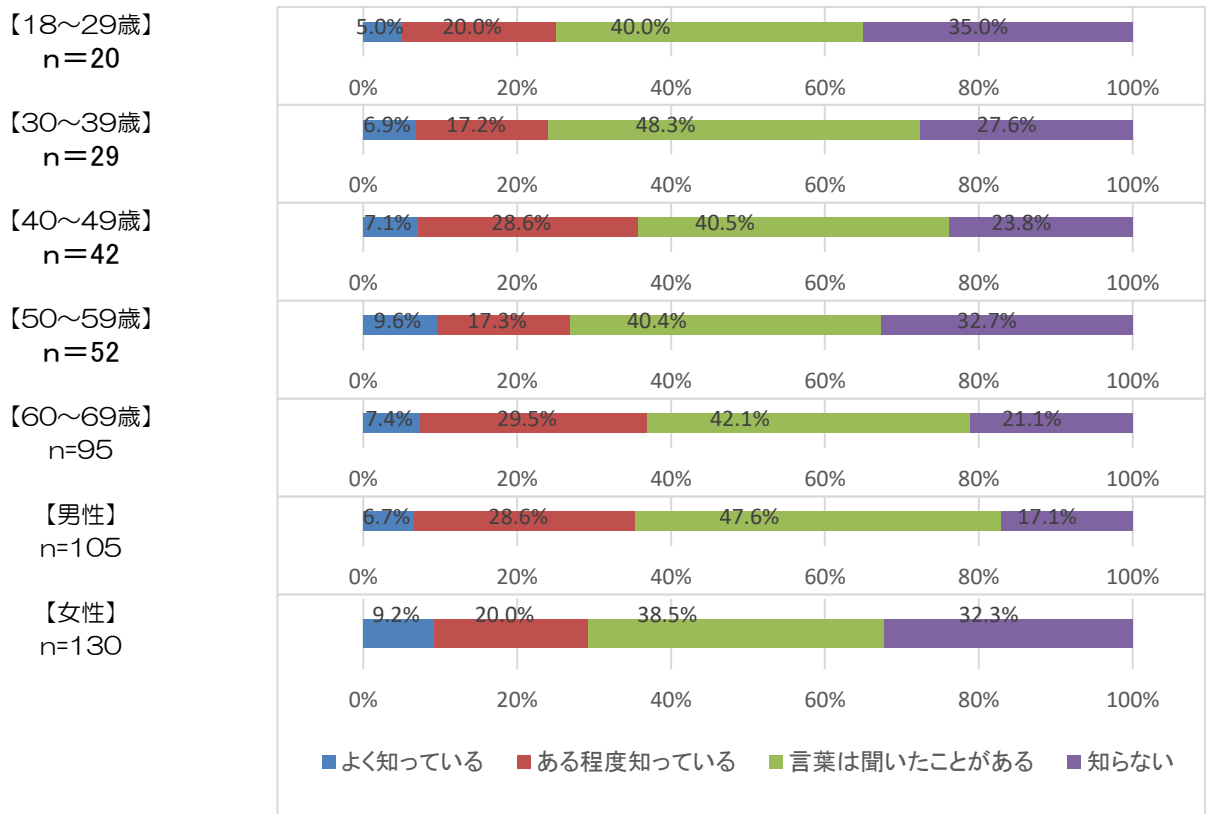
12. ドメスティック・バイオレンス (DV)



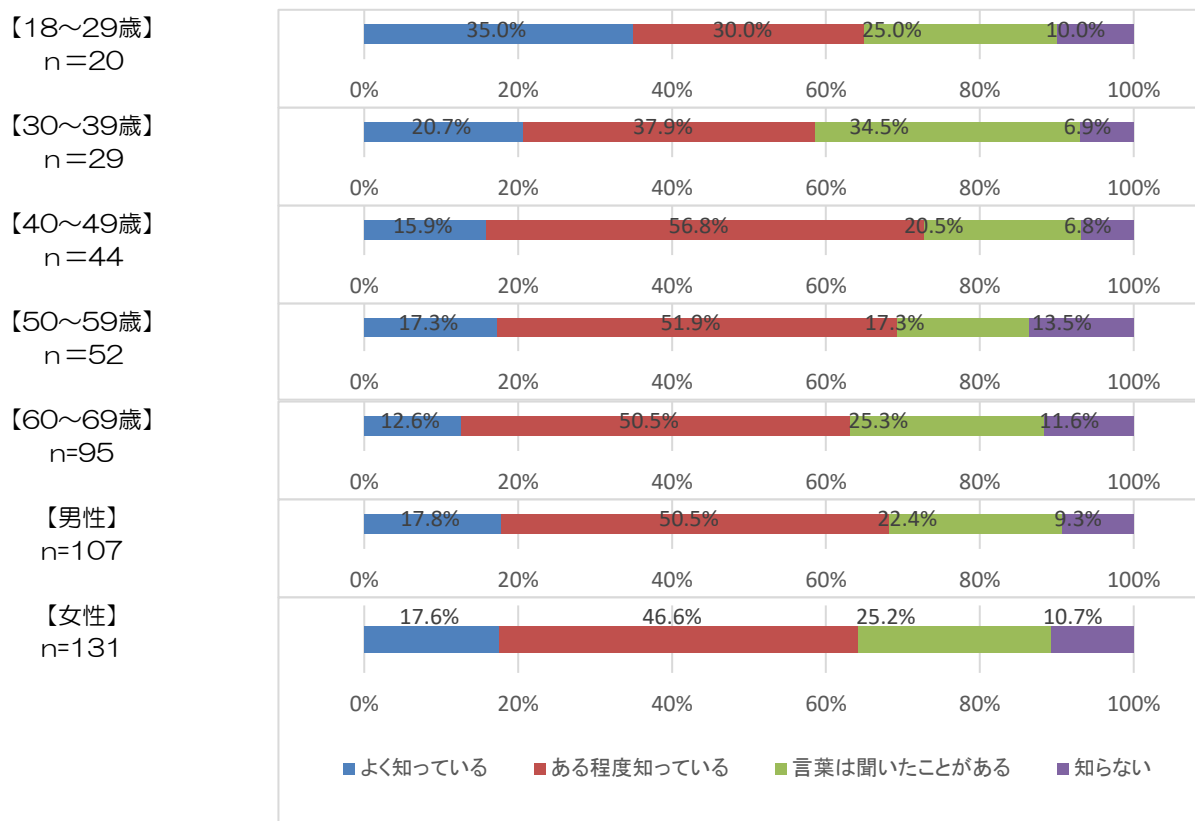
13. DV防止法



14. 女性活躍推進法



15. SDGs（持続可能な開発目標）



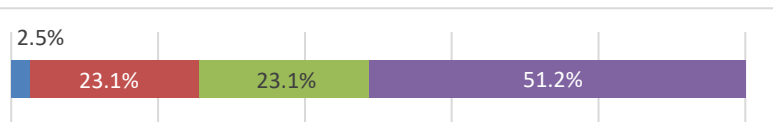
問9 あなたは、次の「1」から「4」までの考え方について、どのように思いますか。
あなたの考え方に最も近いものを選んで○をしてください。（○はそれぞれ1つだけ）

【分析結果】

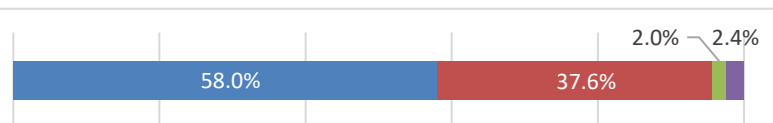
「男性も女性も、家事・育児・介護をする方がよい」の項目について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答が9割を超えた。一方、それ以外の項目については、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答が3割未満であった。

年代別では40代から50代が、男女別では男性が、「男性は仕事を、女性は家庭を中心にする方がよい」を選ぶ傾向が見られた。

1. 男性は仕事を、女性は家庭を中心にする方がよい
n = 242



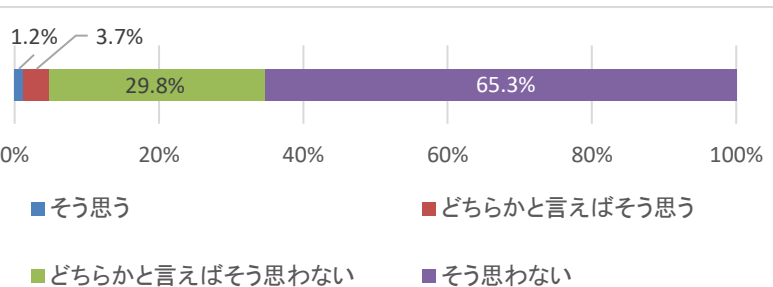
2. 男性も女性も、家事・育児・介護をする方がよい
n = 245



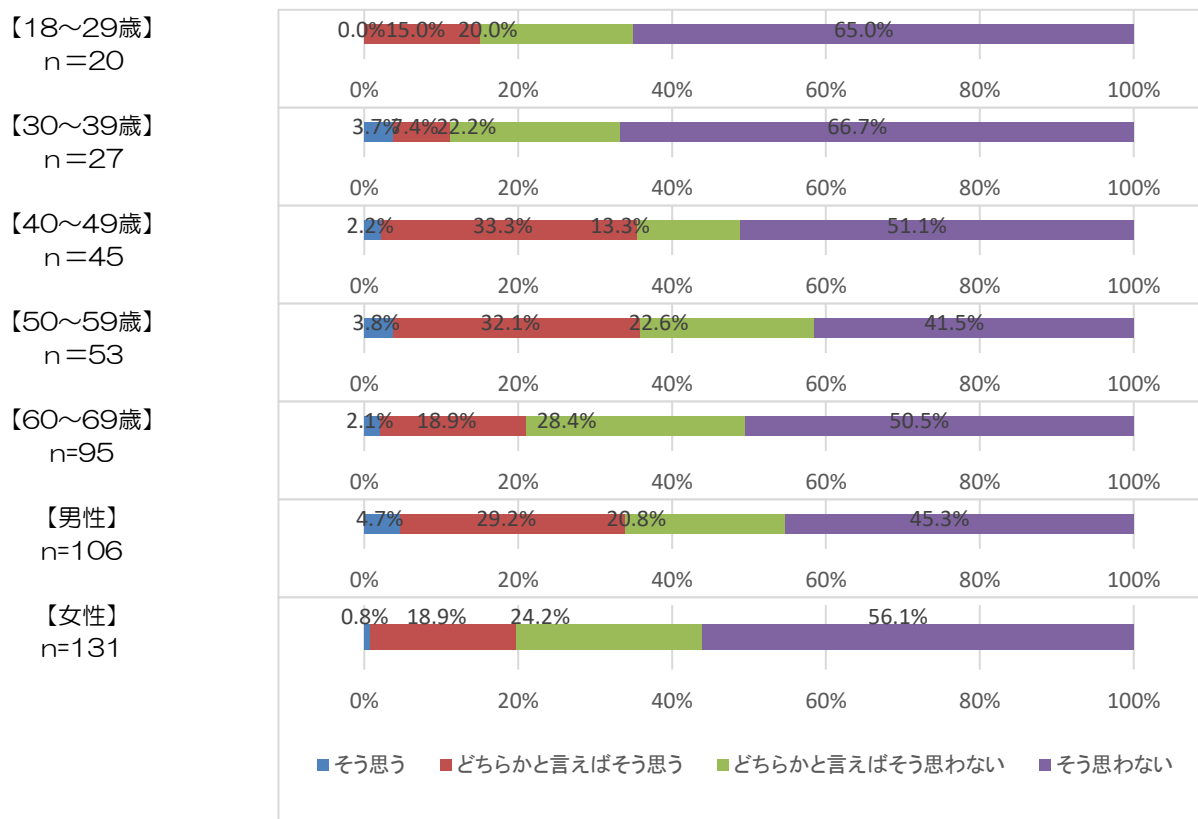
3. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は、主に女性が分担する方がよい
n = 242



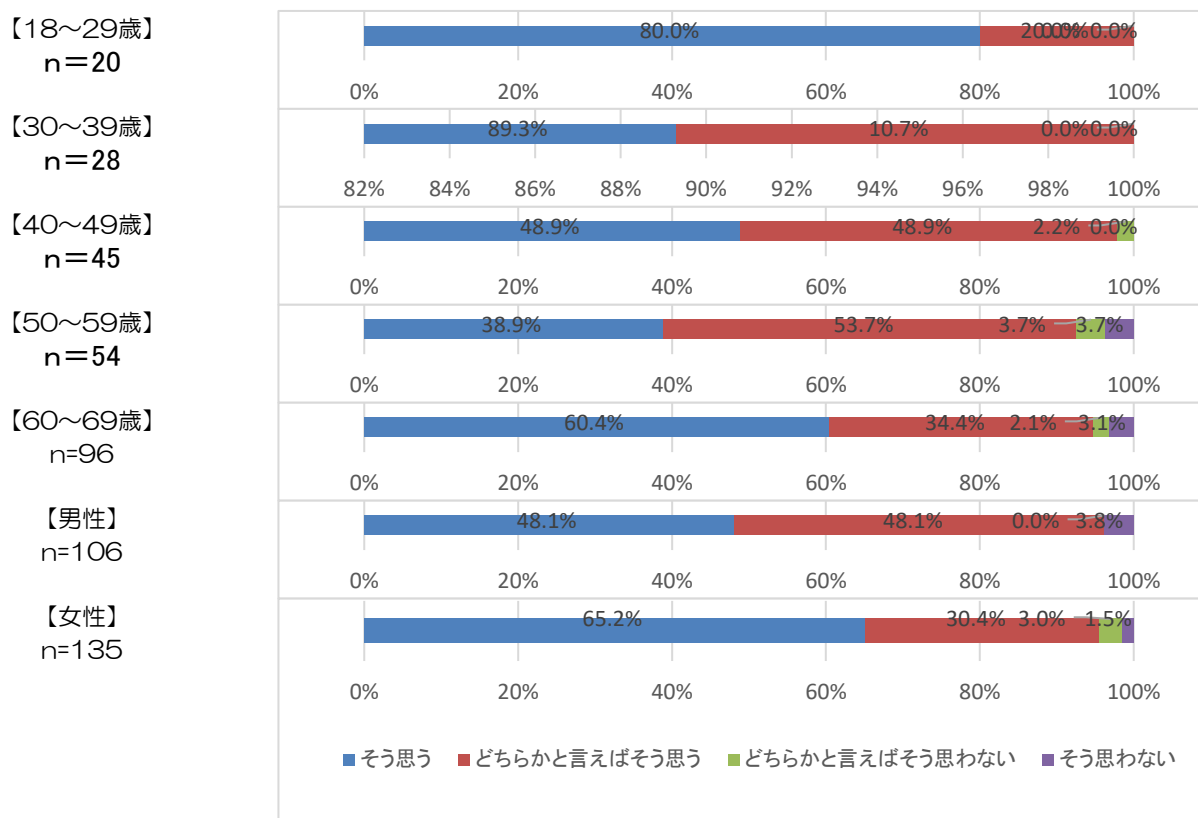
4. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は、主に男性が分担する方がよい
n = 242



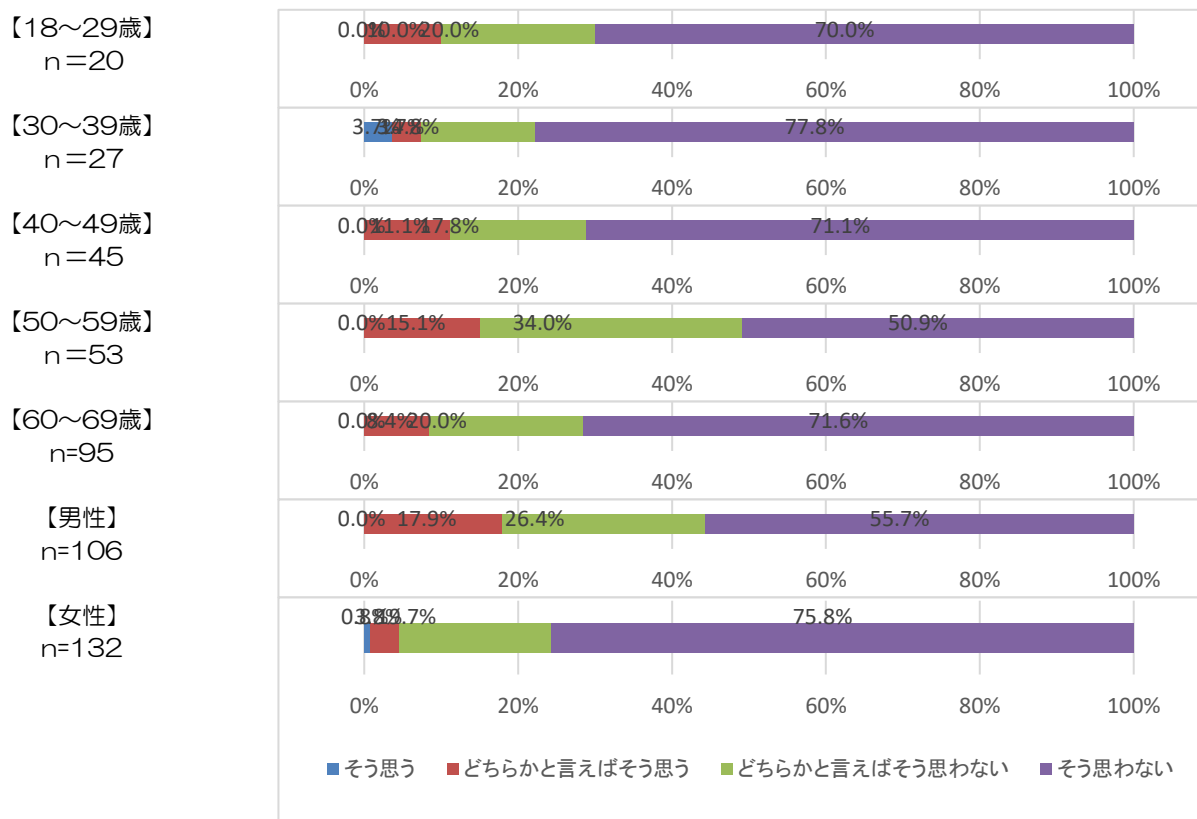
1. 男性は仕事を、女性は家庭を中心にする方がよい



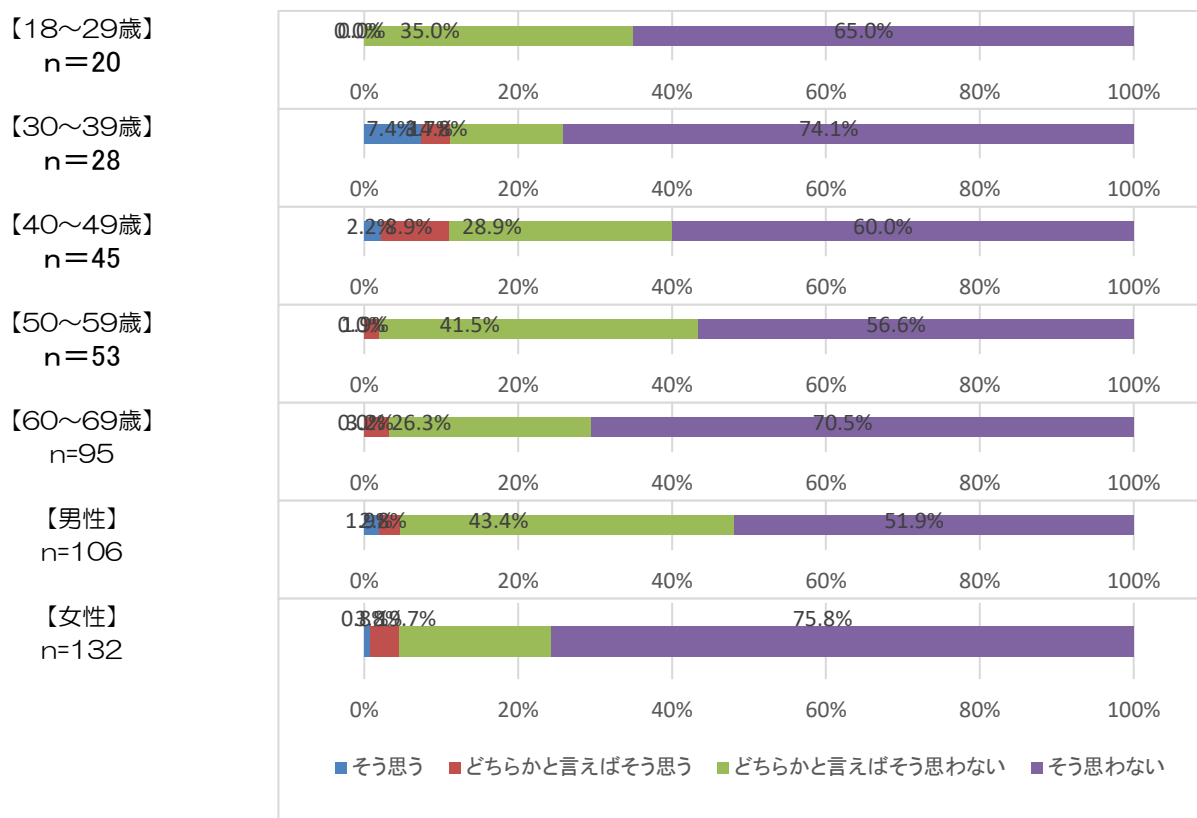
2. 男性も女性も、家事・育児・介護をする方がよい



3. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は、主に女性が分担する方がよい



4. 男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は、主に男性が分担する方がよい

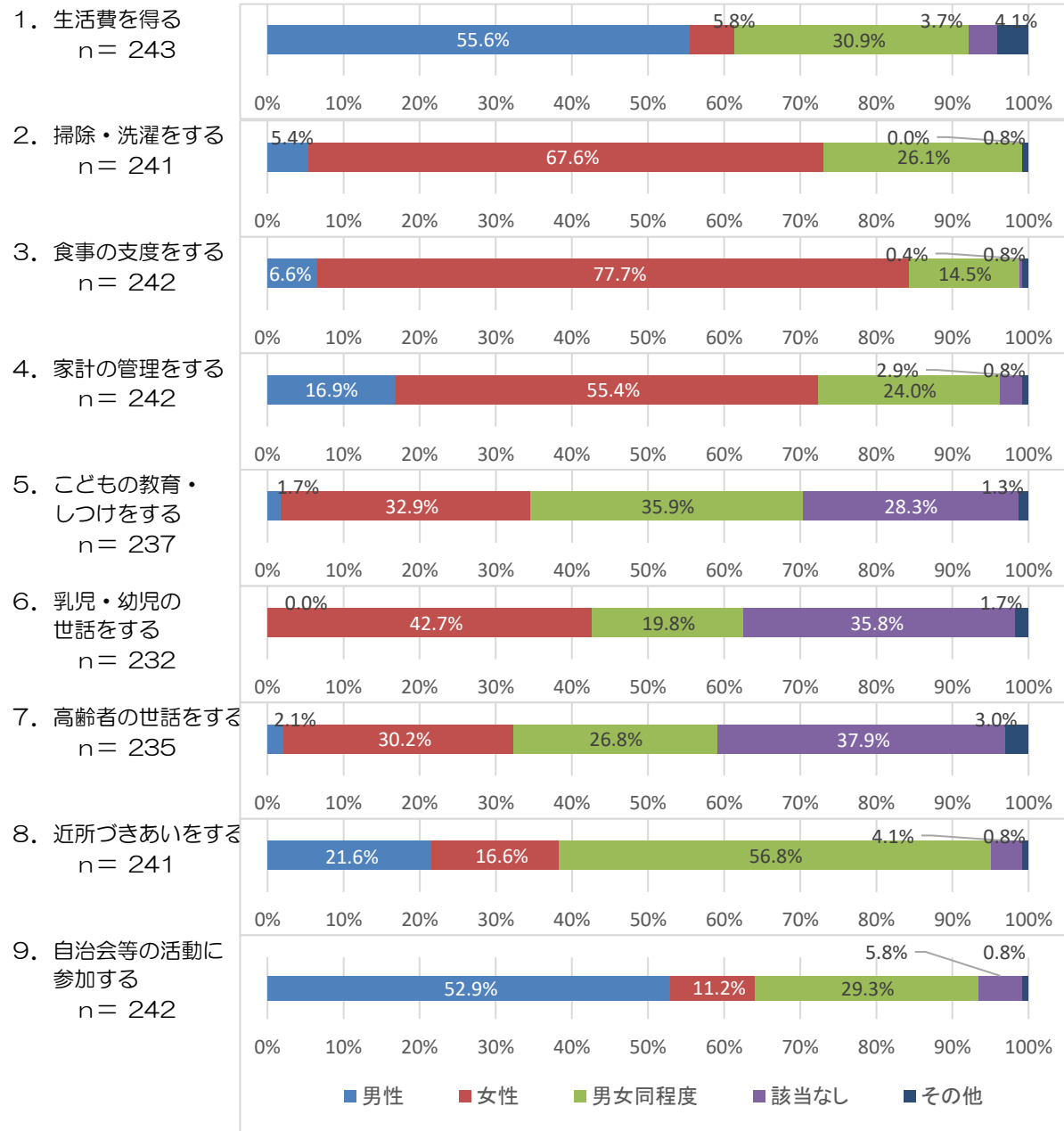


問10 あなたのご家庭で、次の「1」から「9」の役割を、どなたが主に担当されてま

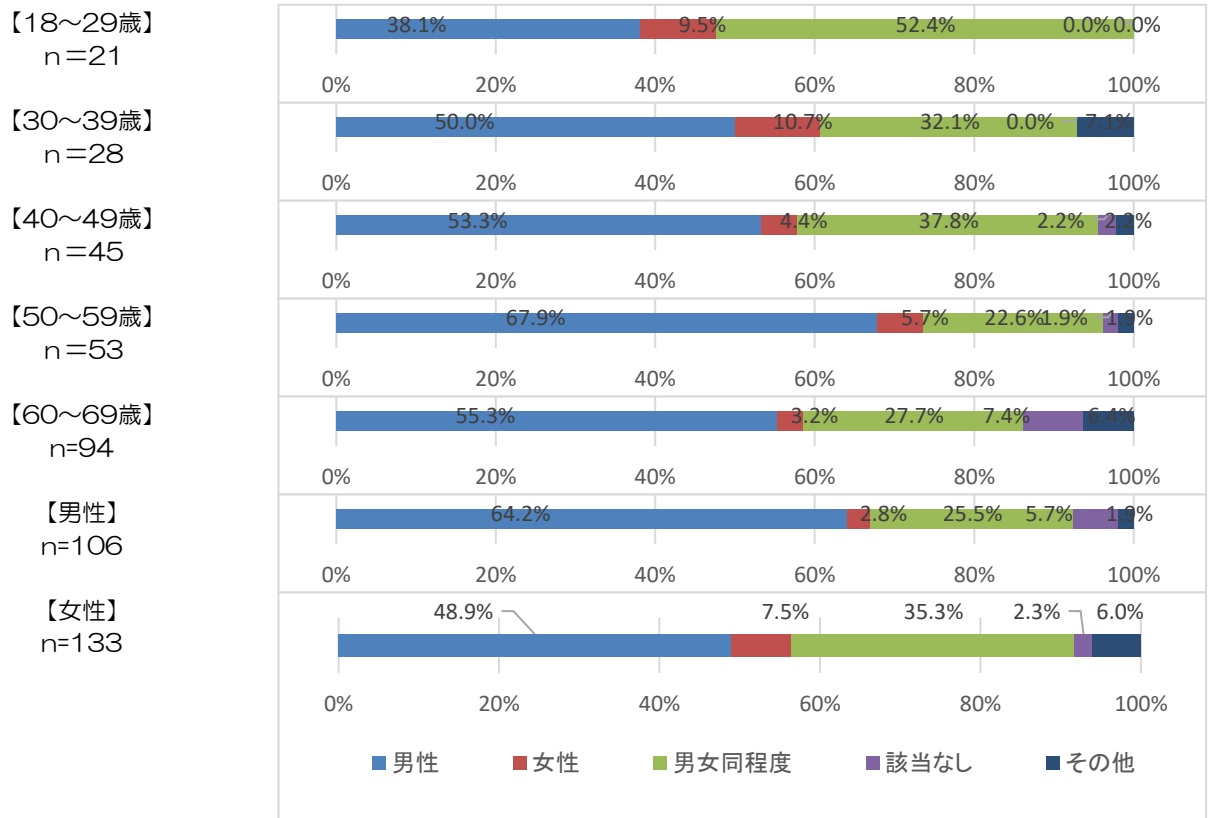
【分析結果】

「生活費を得る」「自治会等の活動に参加する」の項目では、「男性」の回答が5割を超え、「掃除・洗濯」「食事の支度」「家計の管理」では「女性」の回答が5割を超え、「こどもの教育・しつけ」「乳児・幼児の世話」でも「女性」の回答が多く見られた。また、「乳児・幼児の世話」では「女性」「男女同程度」が同程度である傾向が見られた。

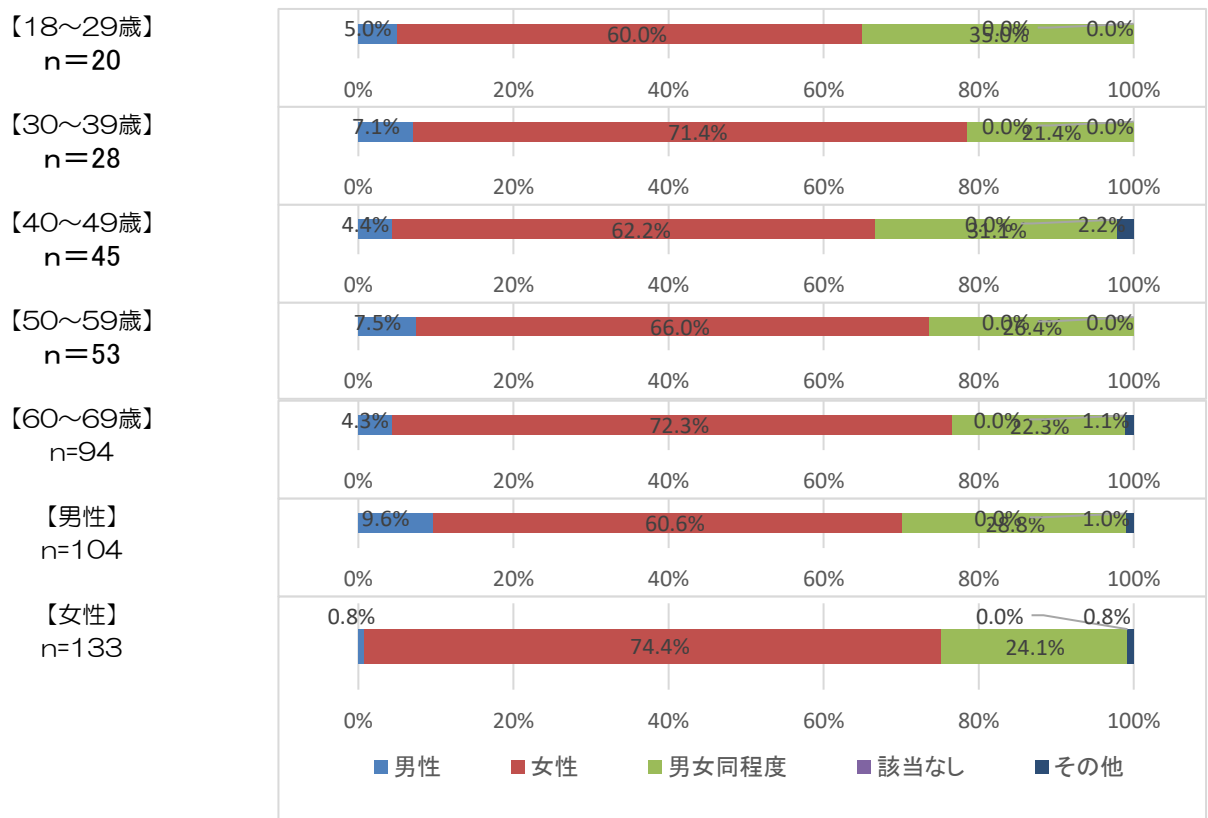
「近所づきあい」では「男女同程度」との回答が6割を超える結果となった。



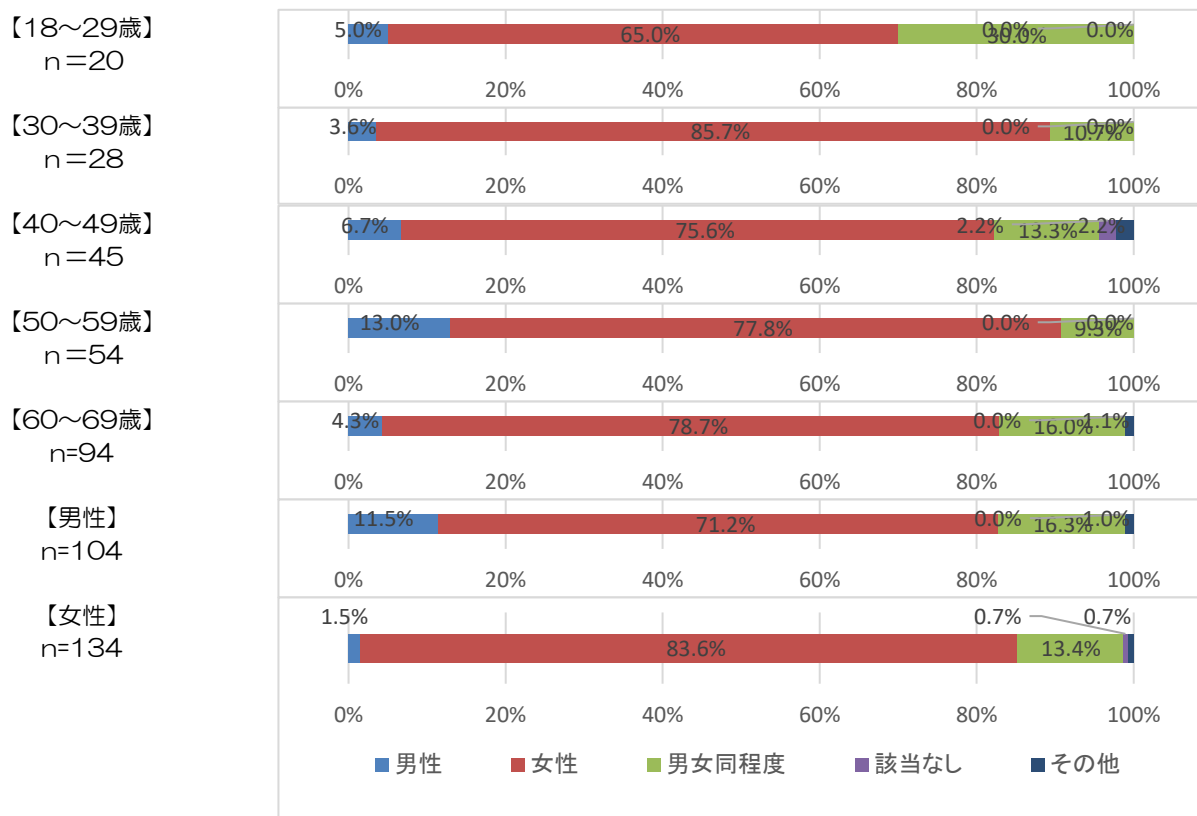
1. 生活費を得る



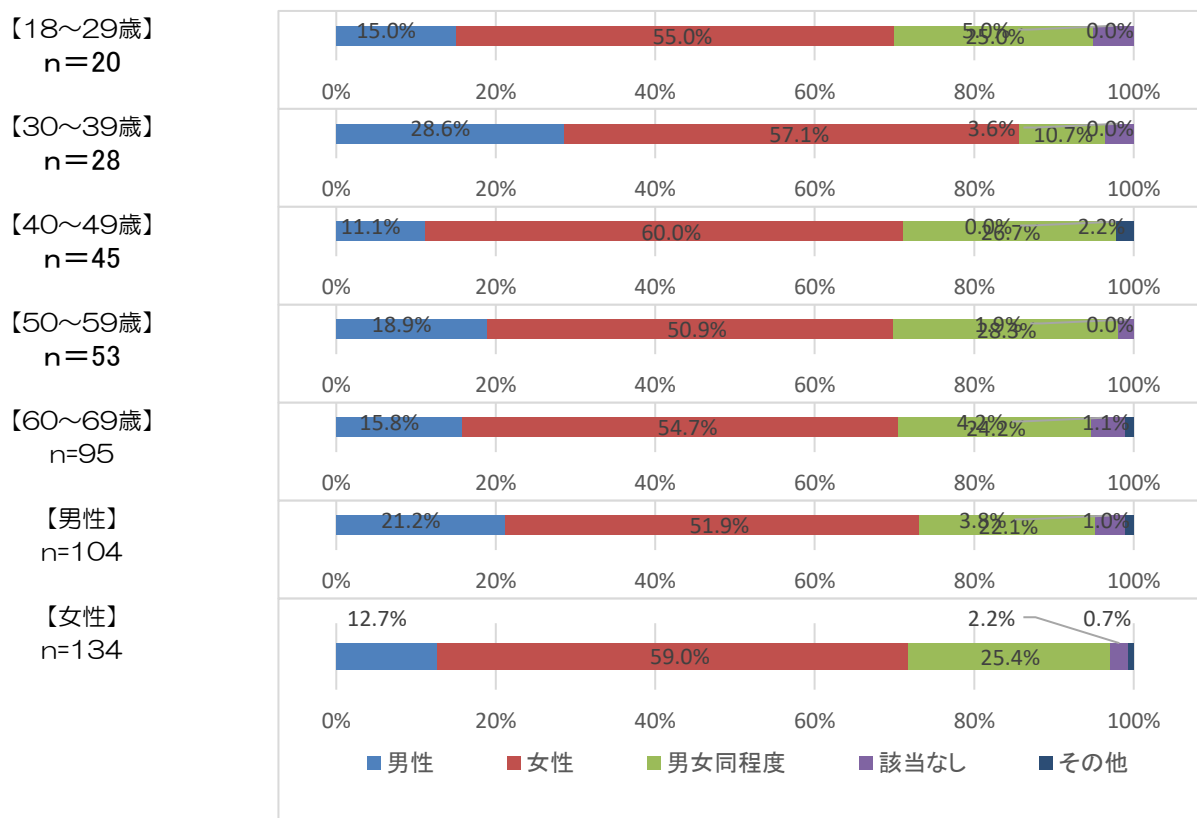
2. 掃除・洗濯をする



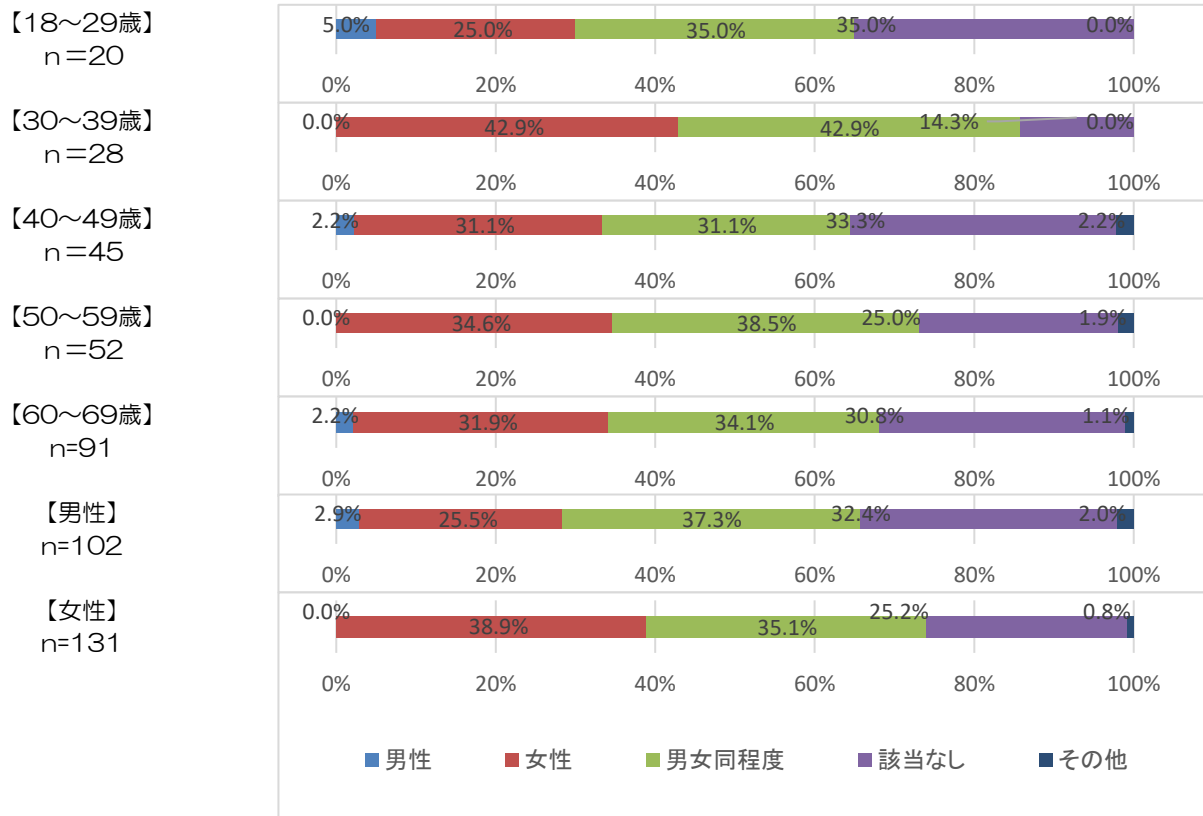
3. 食事の支度をする



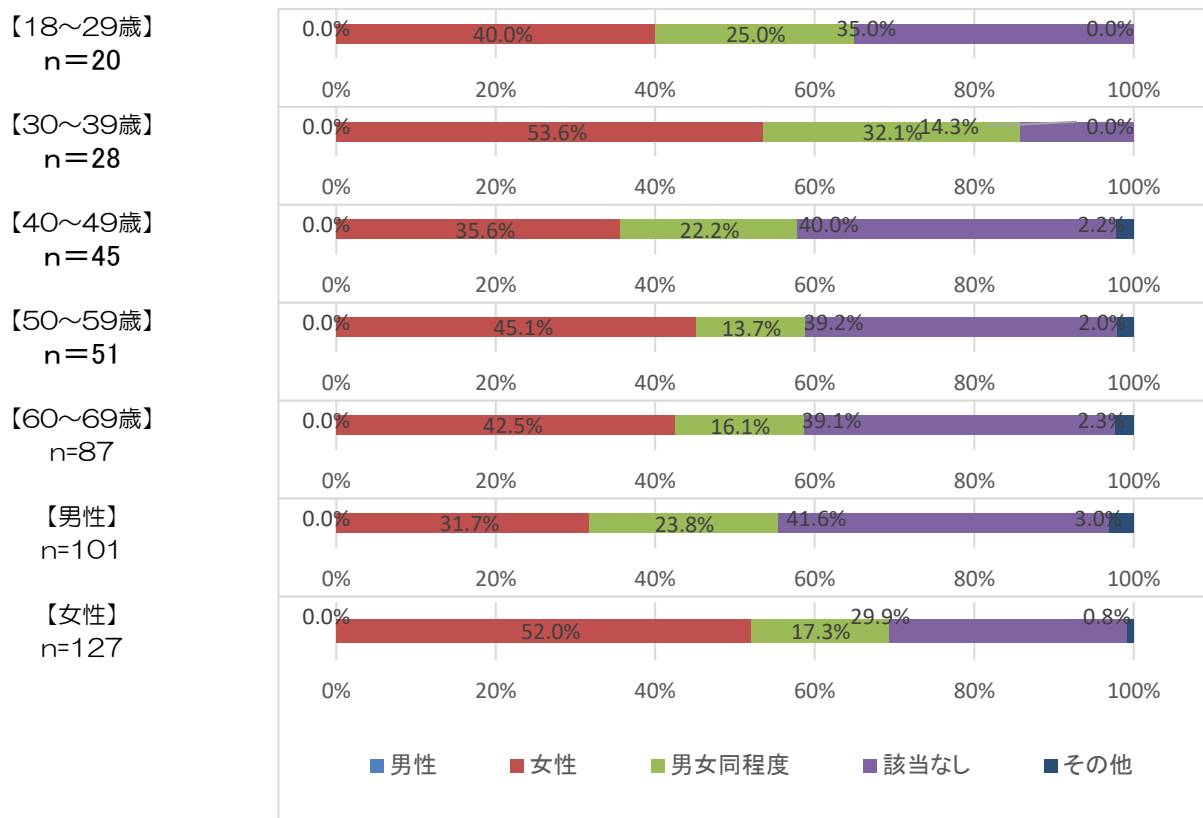
4. 家計の管理をする



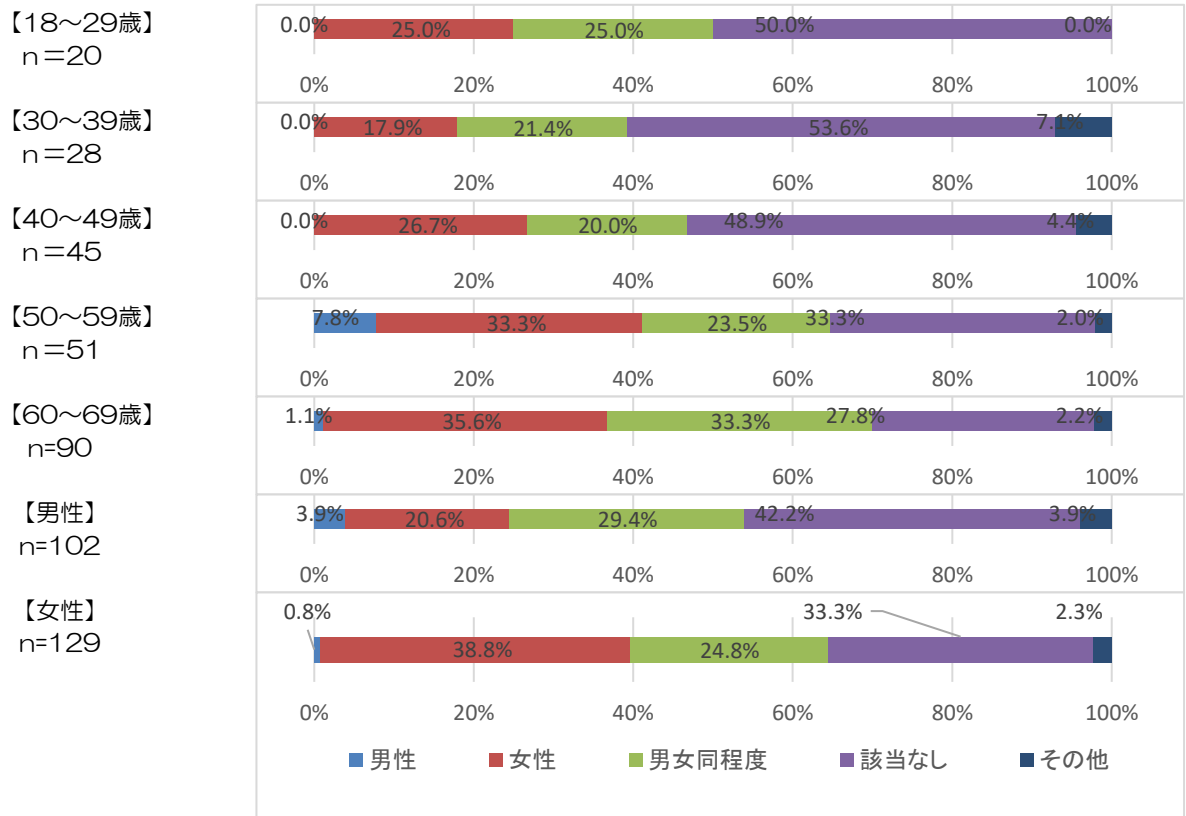
5. こどもの教育・しつけをする



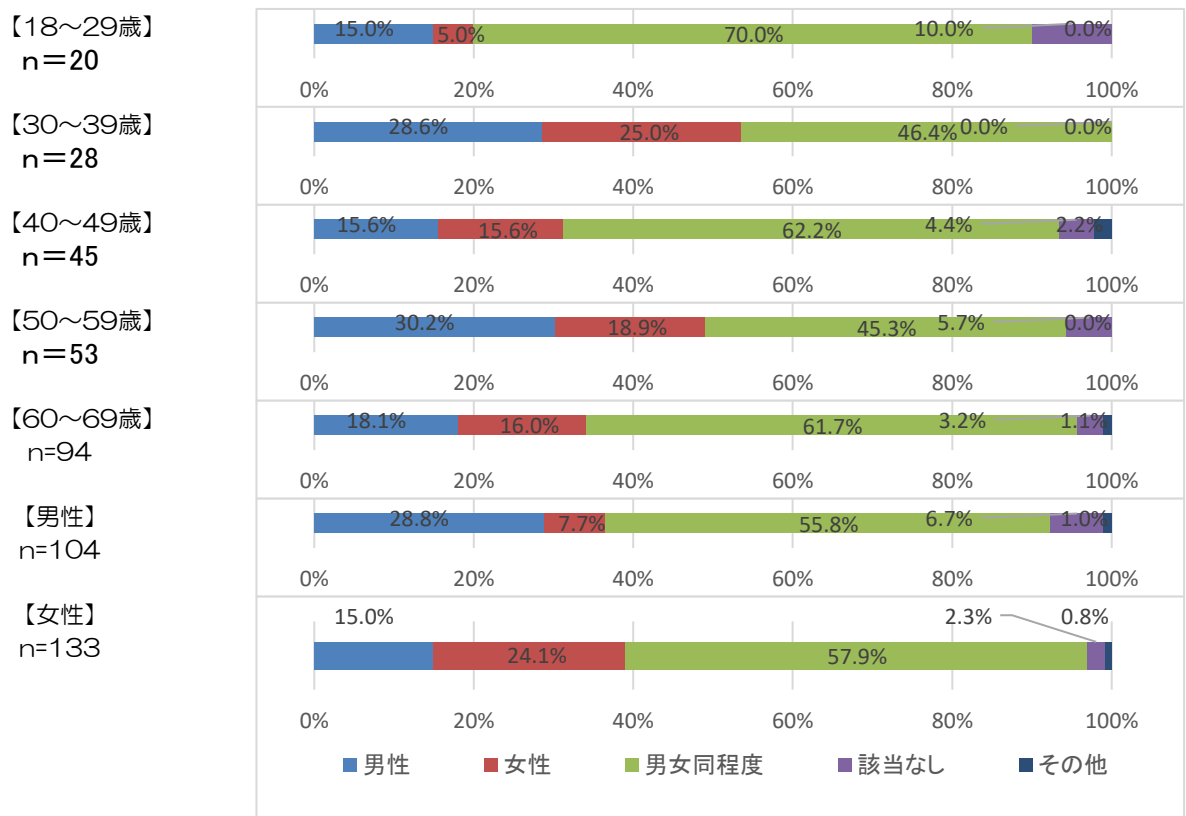
6. 乳児・幼児の世話をする



7. 高齢者の世話をする



8. 近所づきあいをする



9. 自治会等の活動に参加する

【18～29歳】
n=20

【30～39歳】
n=28

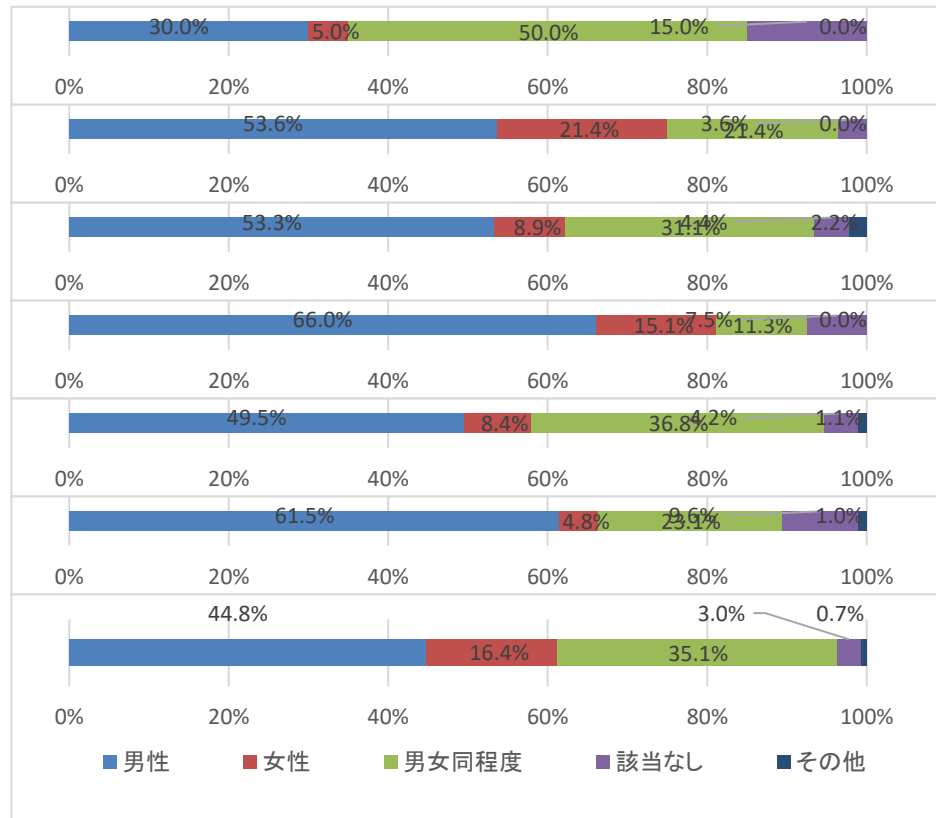
【40～49歳】
n=45

【50～59歳】
n=53

【60～69歳】
n=95

【男性】
n=104

【女性】
n=134



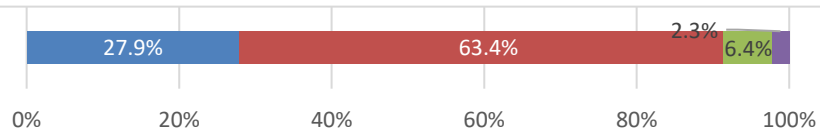
問11 あなたは、お子さんの教育方針について、どのようにお考えですか。
(あてはまるもの1つに○)

【分析結果】

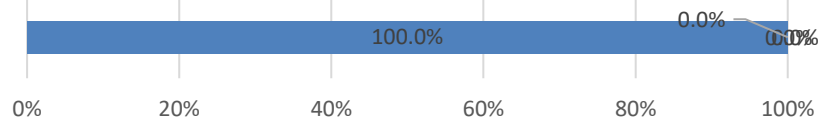
教育方針では、「男女分け隔てなく育てるものの、「男の子らしさ」、「女の子らしさ」も意識して教育する」が63.4%で最も多かった。

年代別では、若い年代ほど「ジェンダーにとらわれず男女の分け隔てなく育てる」と答えた割合が多かった。

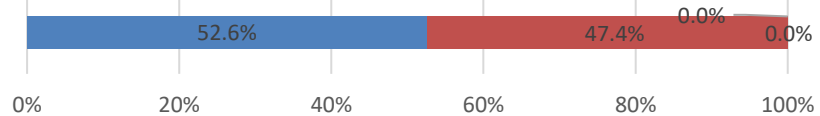
【全体】
n=172



【18～29歳】
n=1



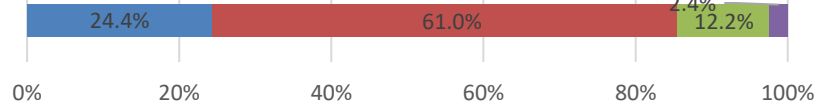
【30～39歳】
n=19



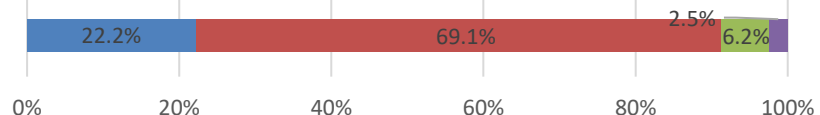
【40～49歳】
n=29



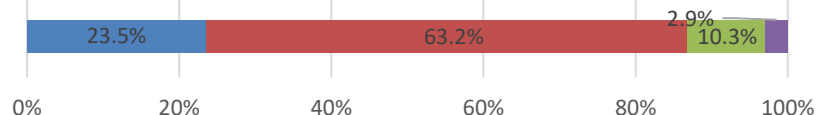
【50～59歳】
n=41



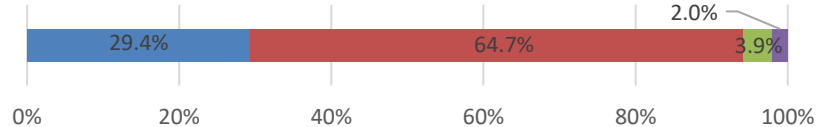
【60～69歳】
n=81



【男性】
n=68

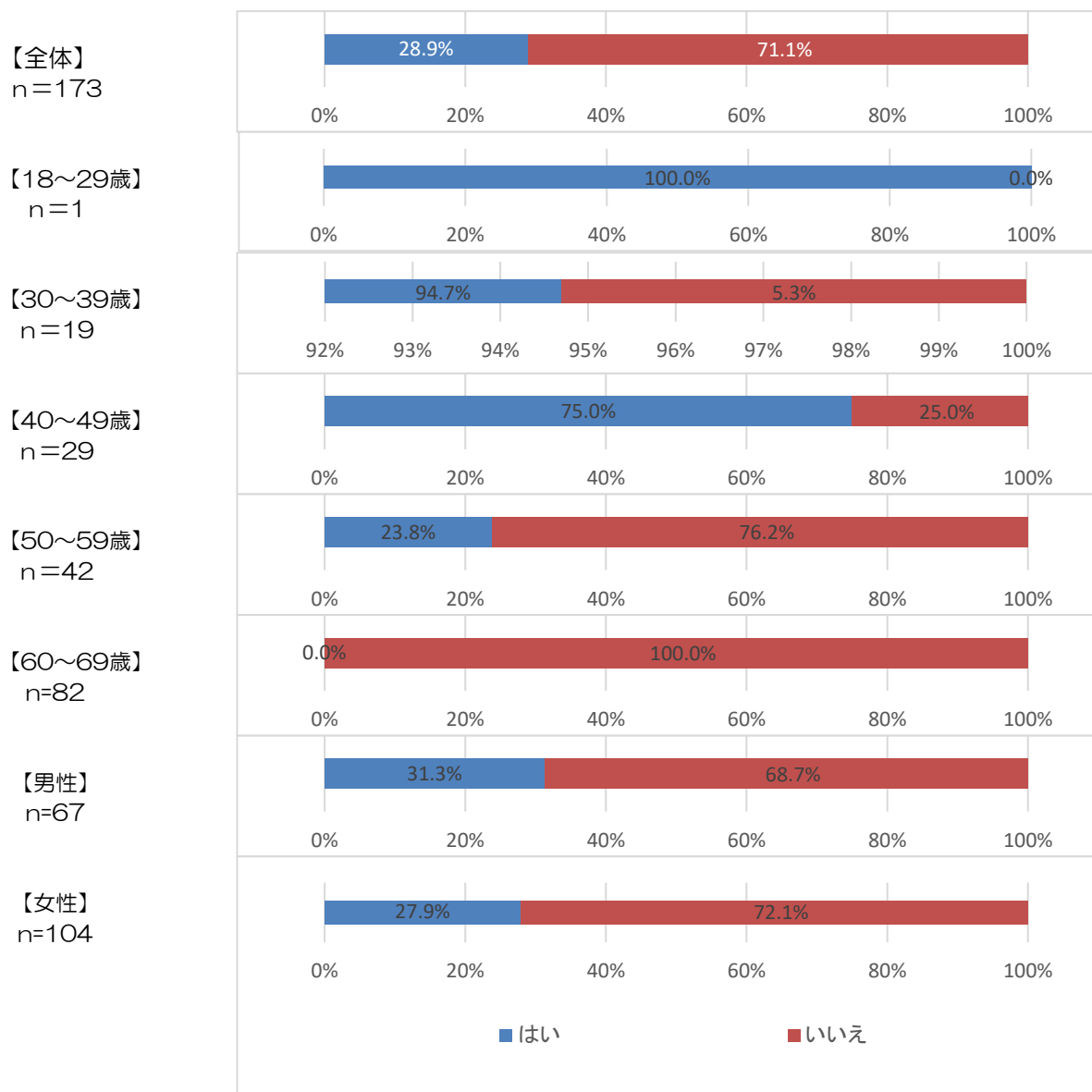


【女性】
n=102



- 「ジェンダー」にとらわれず、男女の分け隔てなく育てる
- 男女分け隔てなく育てるものの、「男の子らしさ」、「女の子らしさ」も意識して教育する
- 「男の子らしさ」、「女の子らしさ」を意識して教育する
- その他

問12 あなたのお子さんは18歳未満ですか（いずれかに○）

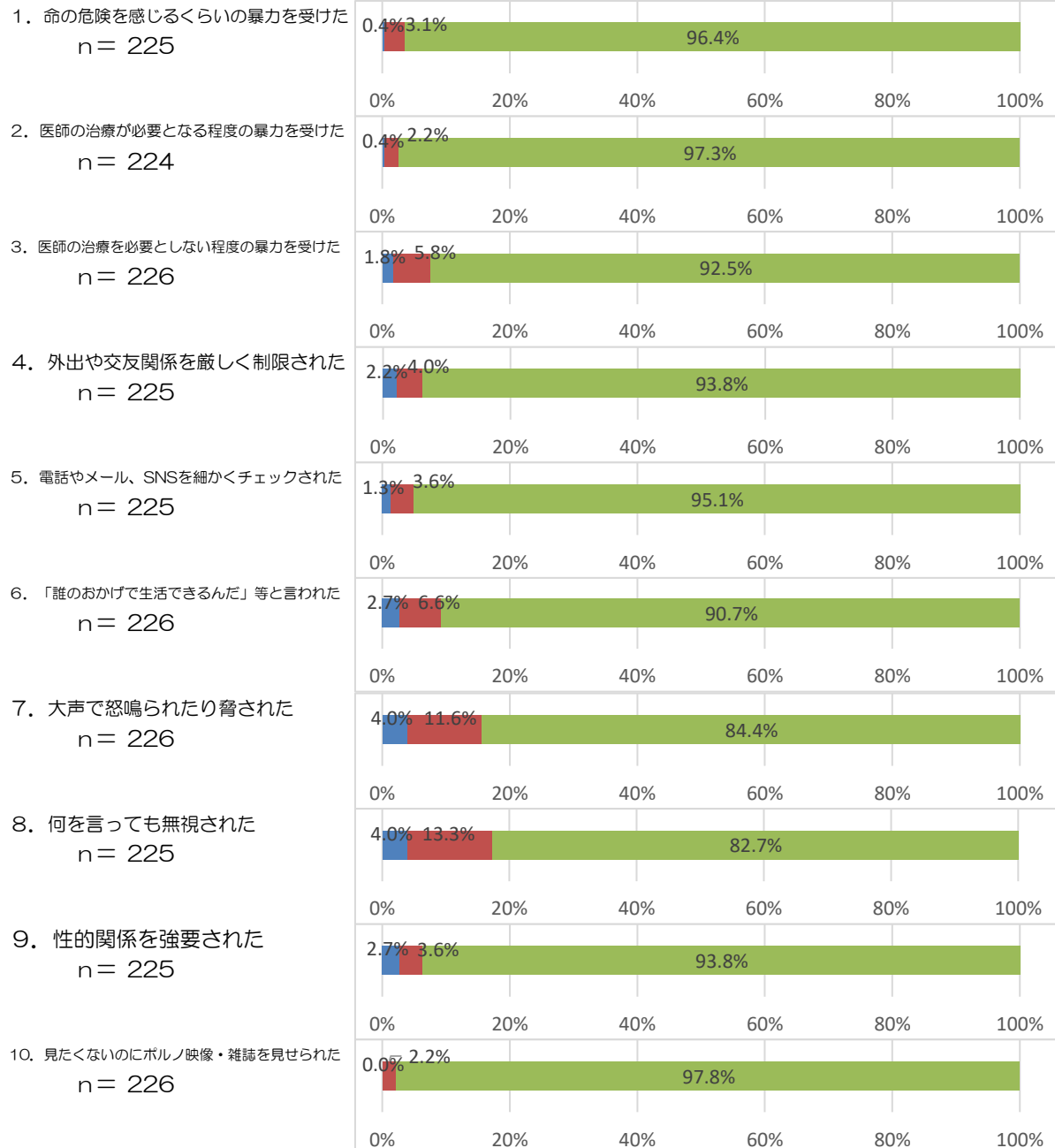


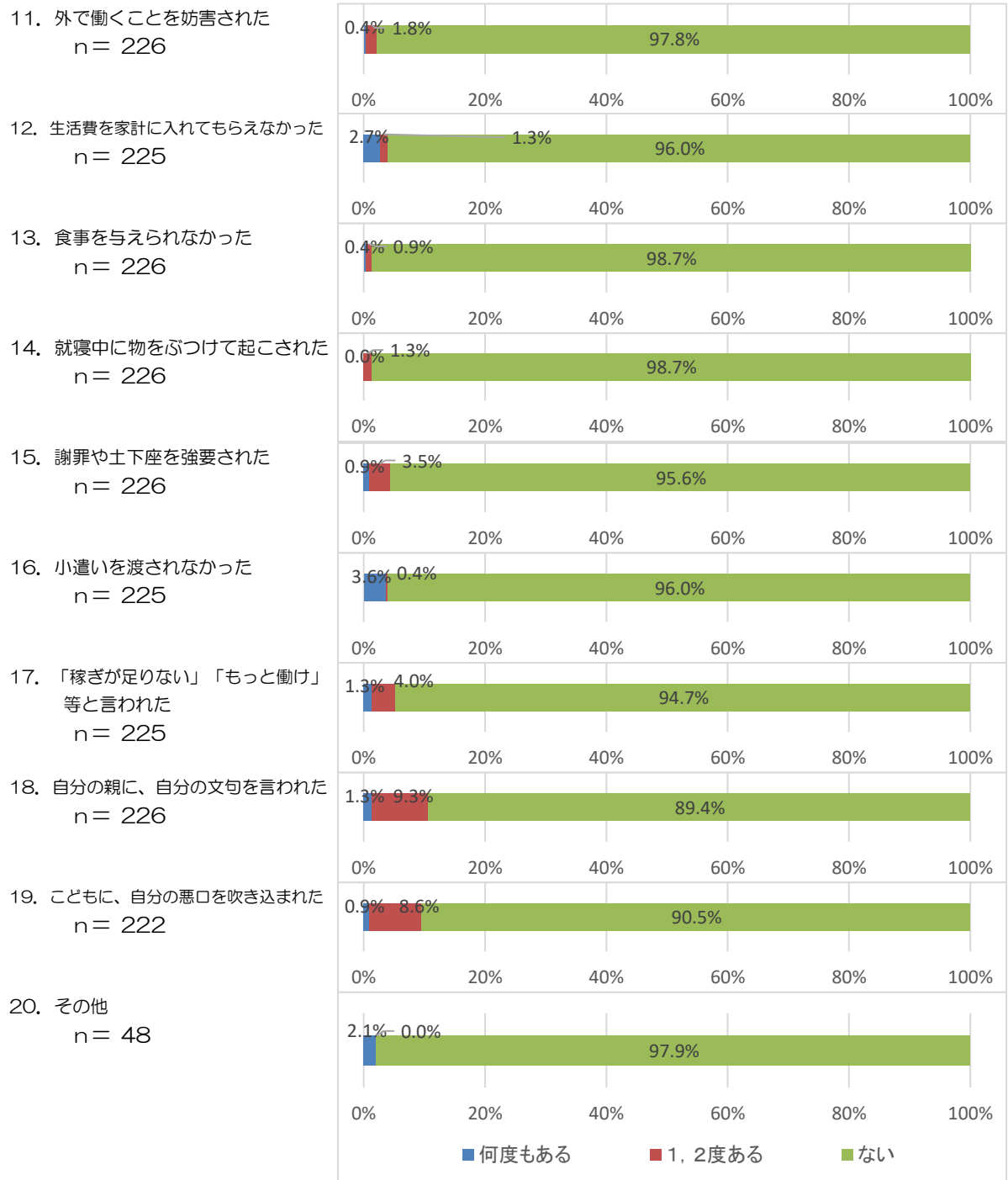
問13 あなたは、パートナー（配偶者など）から次の「1」から「20」の
ようなことをされたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

【分析結果】

パートナーからされたこととして最も多かったのは、「何を言っても無視された」で
「何度もある」が4.0%「1，2度ある」が13.3%であった。次いで「大声で怒鳴られ
たり脅された」、「自分の親に、自分の文句を言われた」の順であった。
男女別では、女性が訴える割合が多かったが、男性が訴える項目もあった。

【全体】





1. 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた

【18～29歳】
n=13

【30～39歳】
n=29

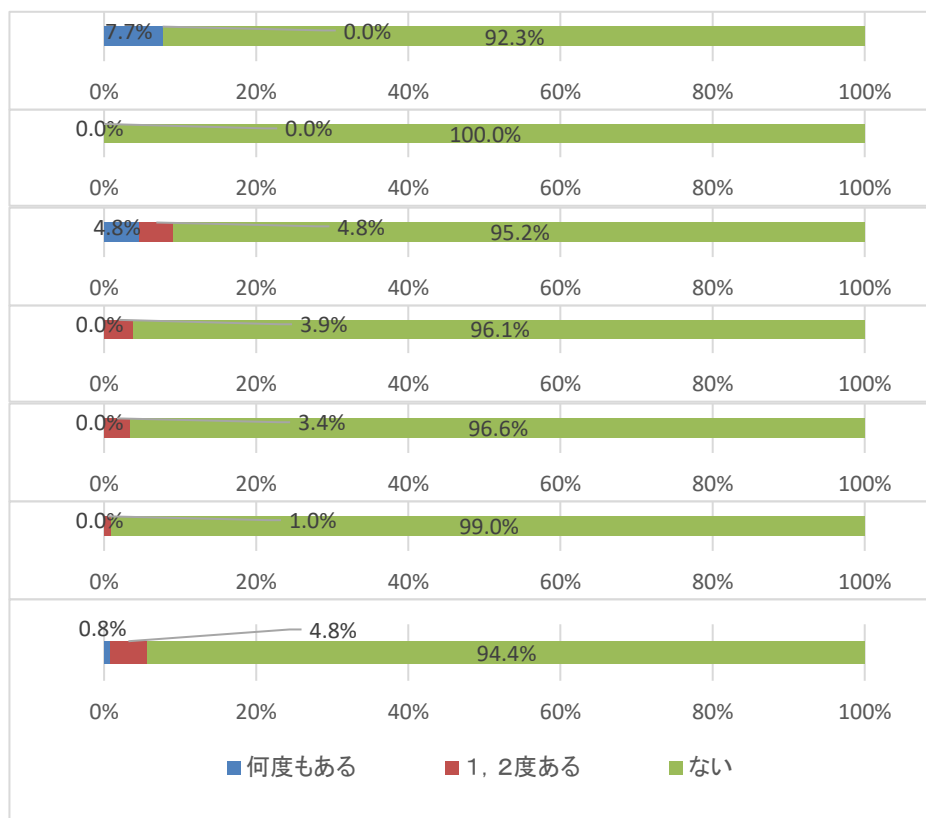
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=126



2. 医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた

【18～29歳】
n=13

【30～39歳】
n=29

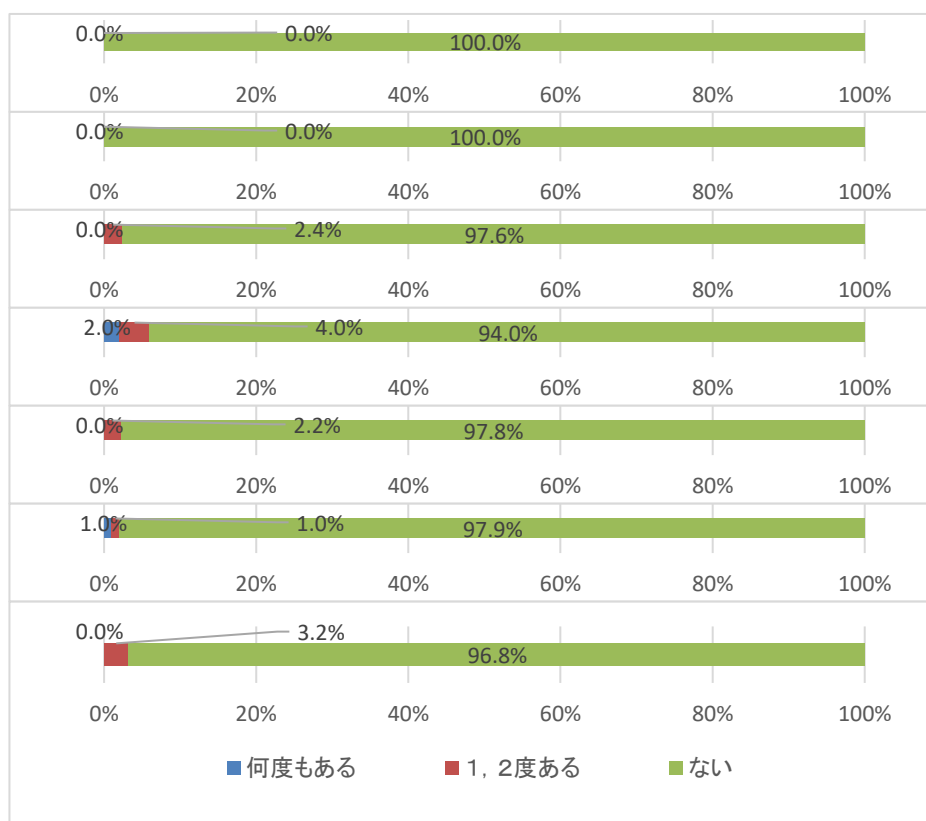
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=50

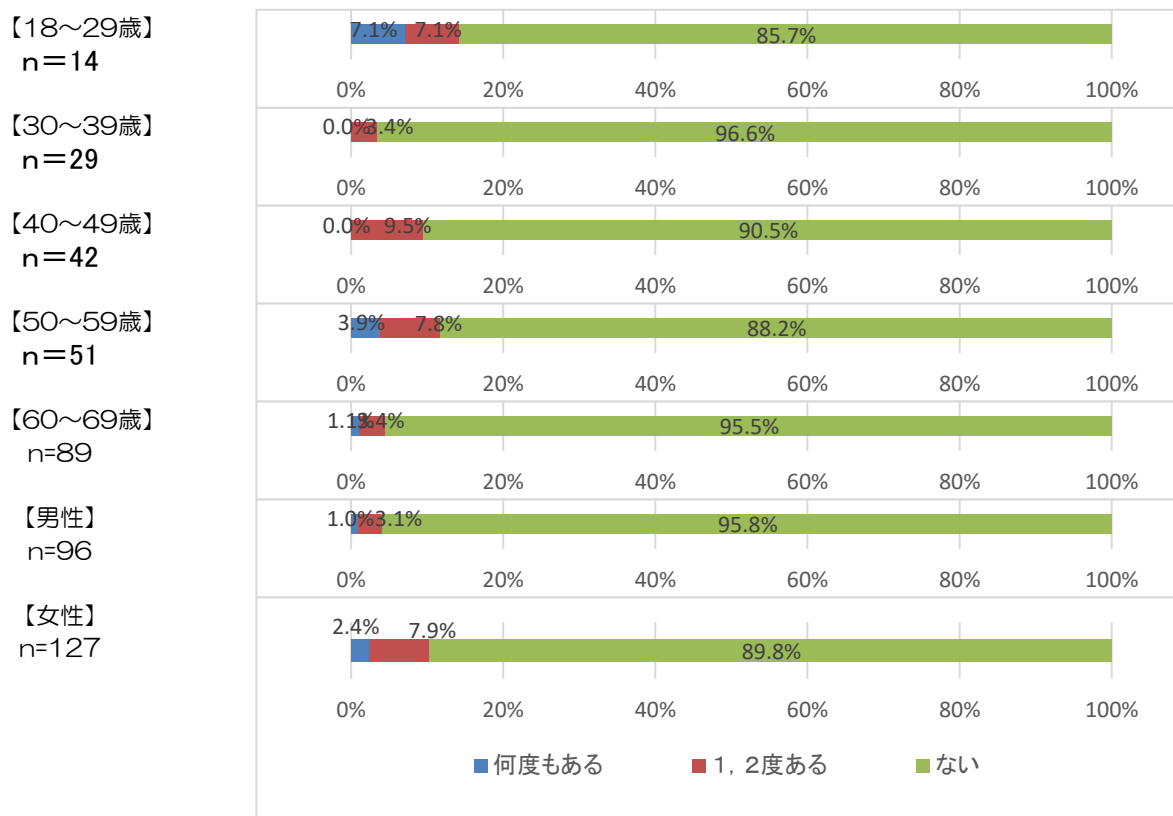
【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

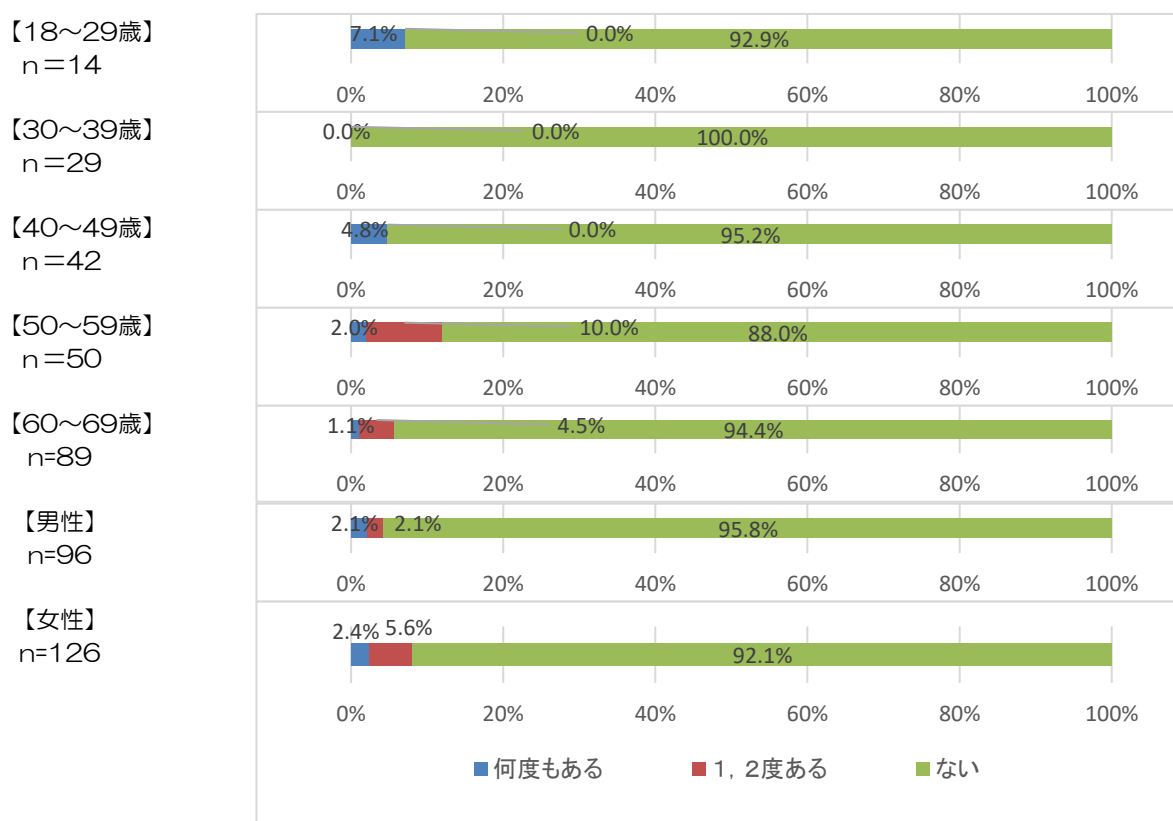
【女性】
n=125



3. 医師の治療を必要としない程度の暴力を受けた



4. 外出や交友関係を厳しく制限された



5. 電話やメール、SNSを細かくチェックされた

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

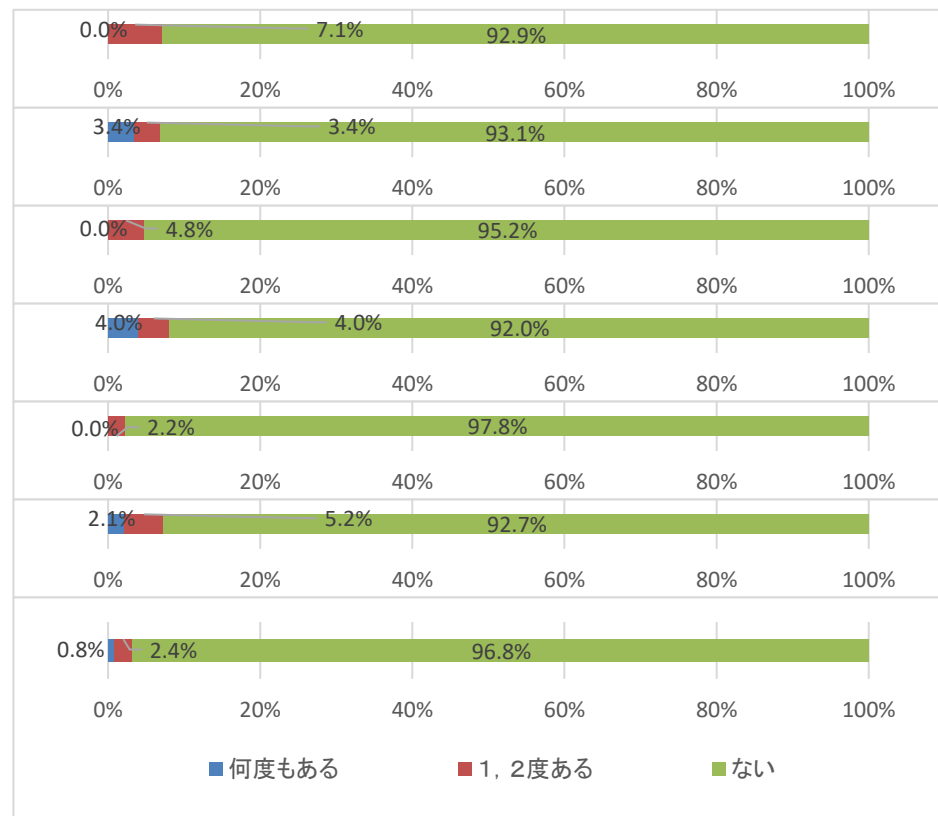
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=50

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=126



6. 「誰のおかげで生活できるんだ」等と言われた

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

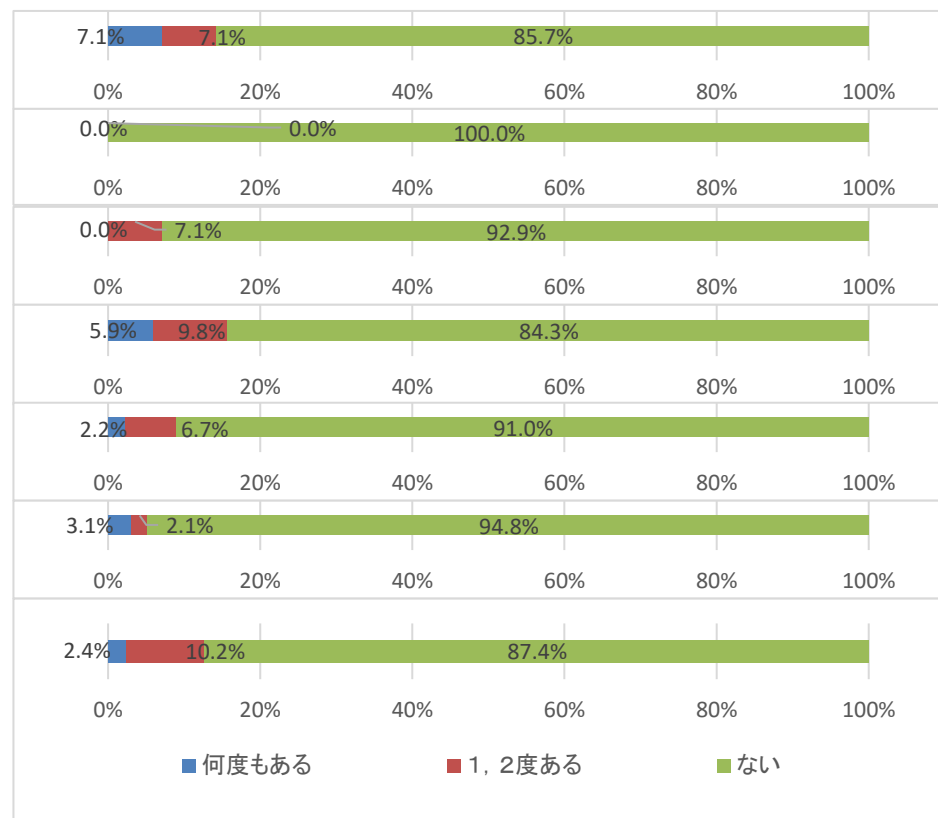
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=127



7. 大声で怒鳴られたり脅された

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

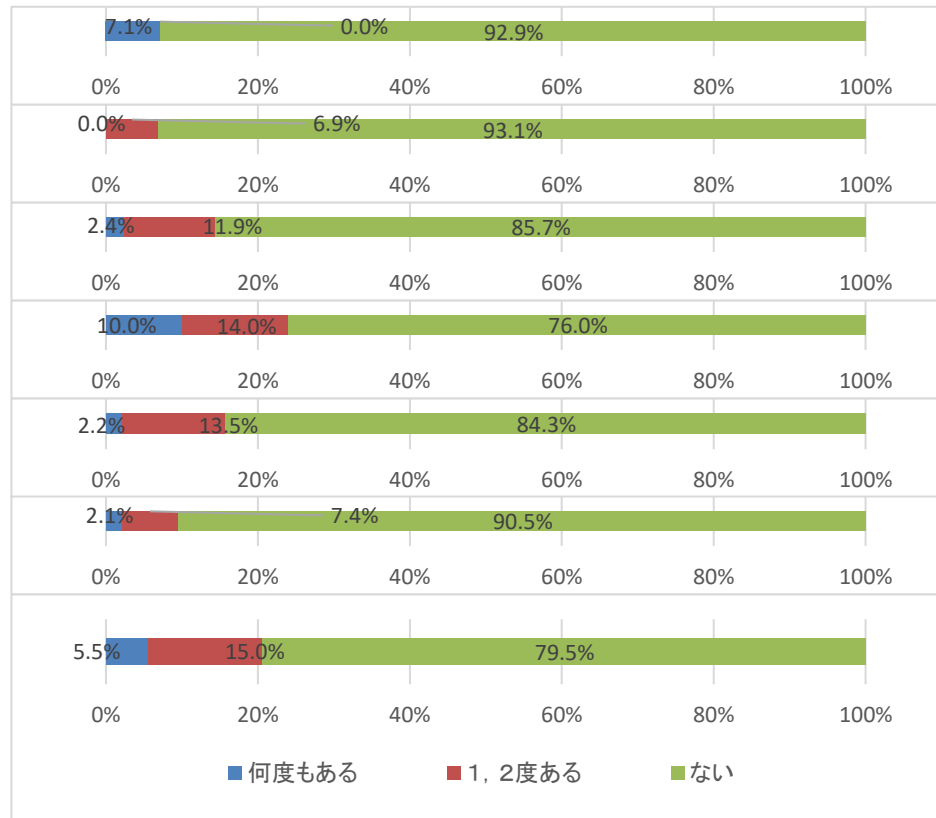
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=50

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=95

【女性】
n=127



8. 何を言っても無視された

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

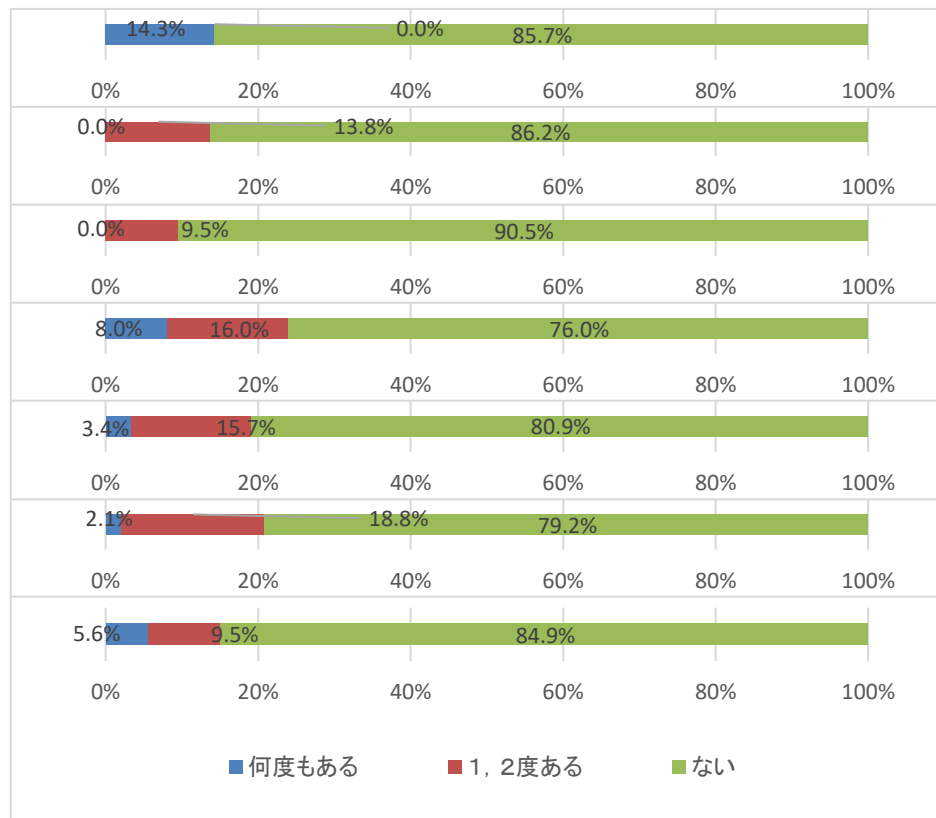
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=50

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=126



9. 性的関係を強要された

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

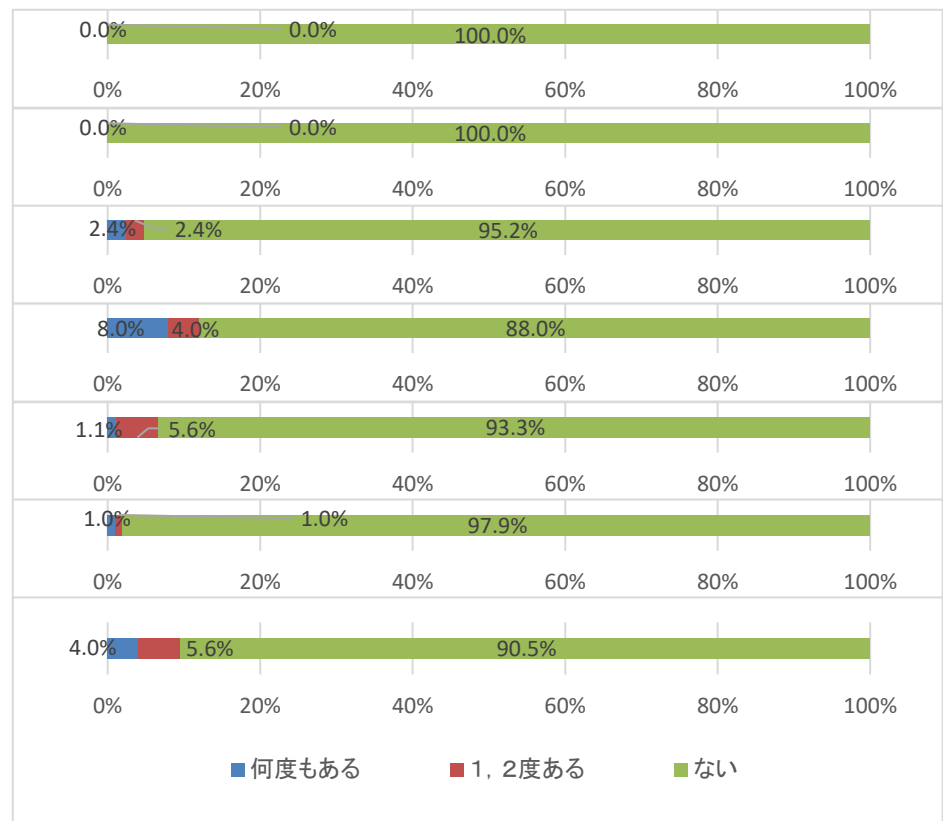
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=50

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=126



10. 見たくないのにポルノ映像・雑誌を見せられた

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

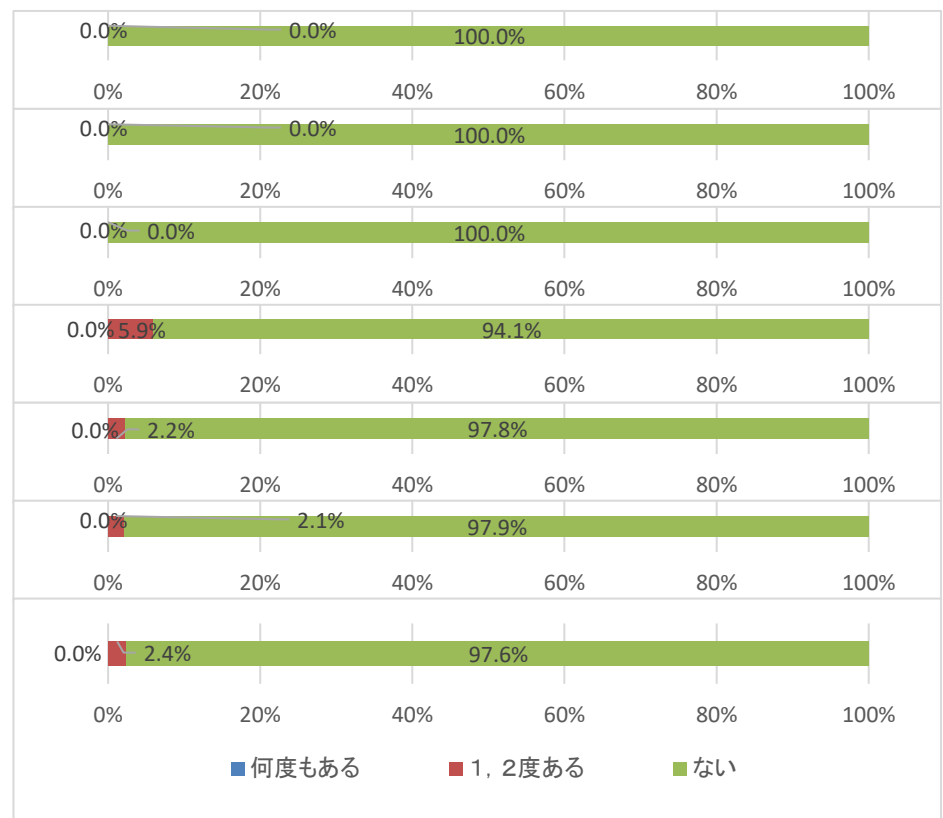
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=127



11. 外で働くことを妨害された

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

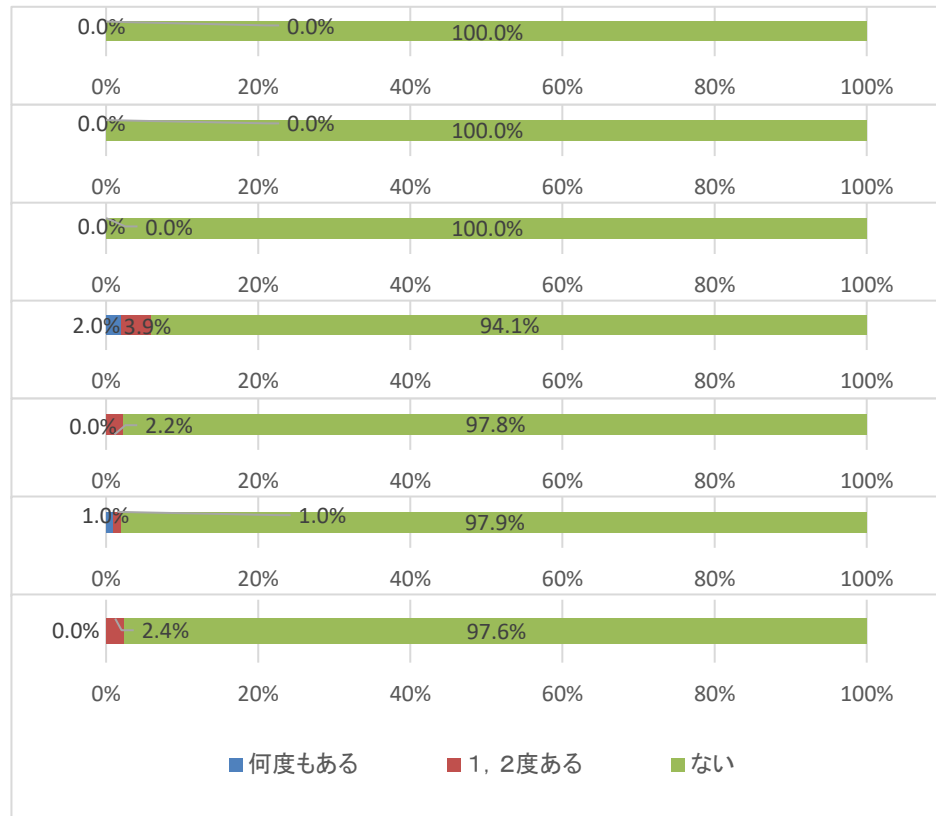
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=127



12. 生活費を家計に入れてもらえなかった

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

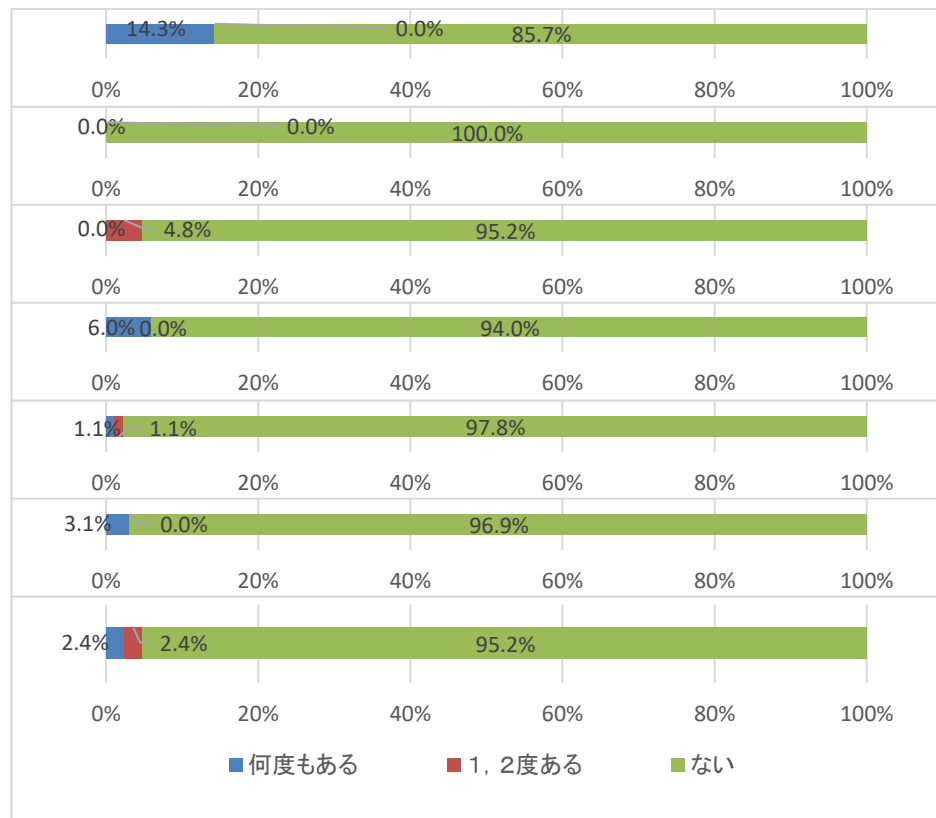
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=50

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=126



13. 食事を与えられなかった

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

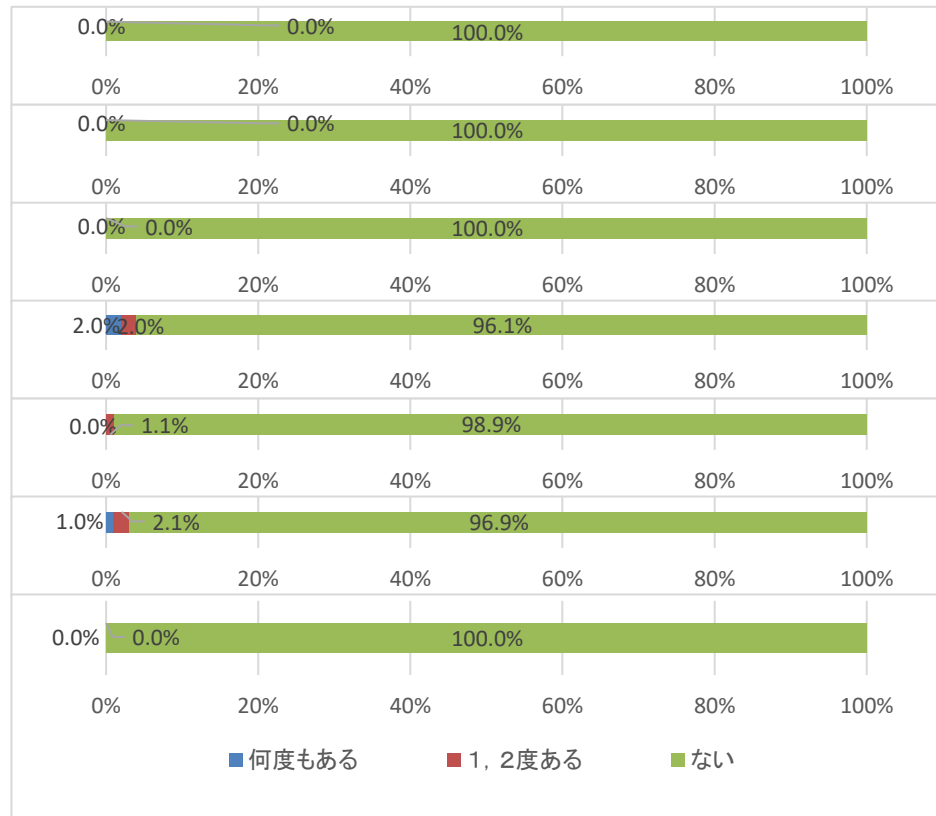
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=127



14. 就寝中に物をぶつけて起こされた

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

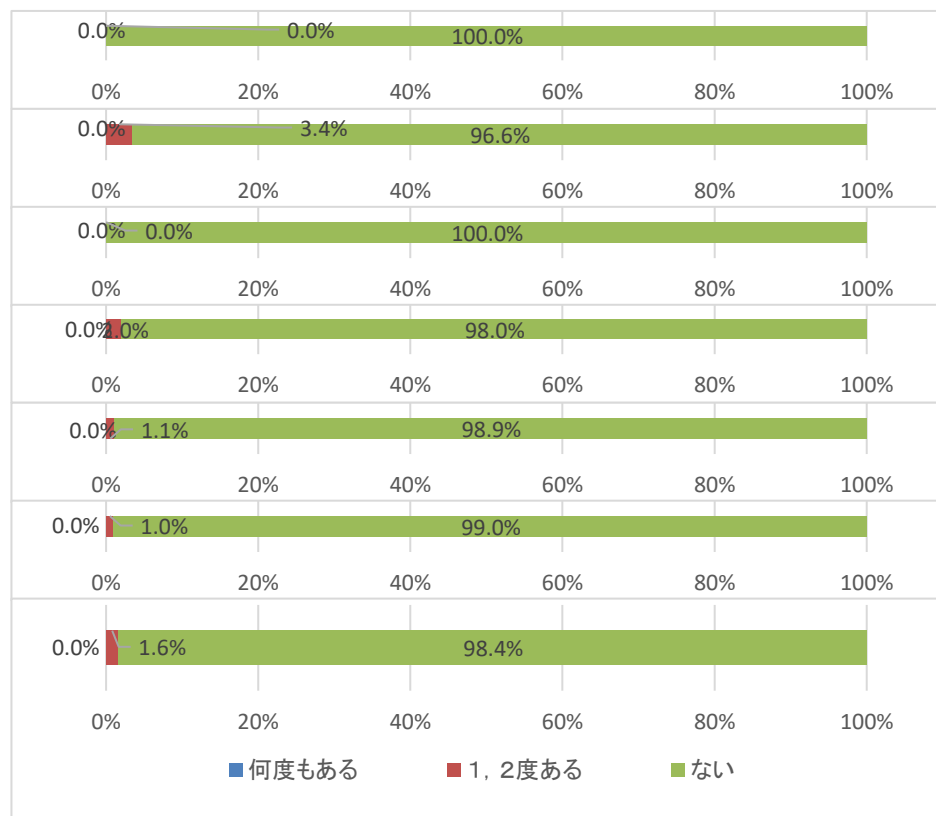
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=127



15. 謝罪や土下座を強要された

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

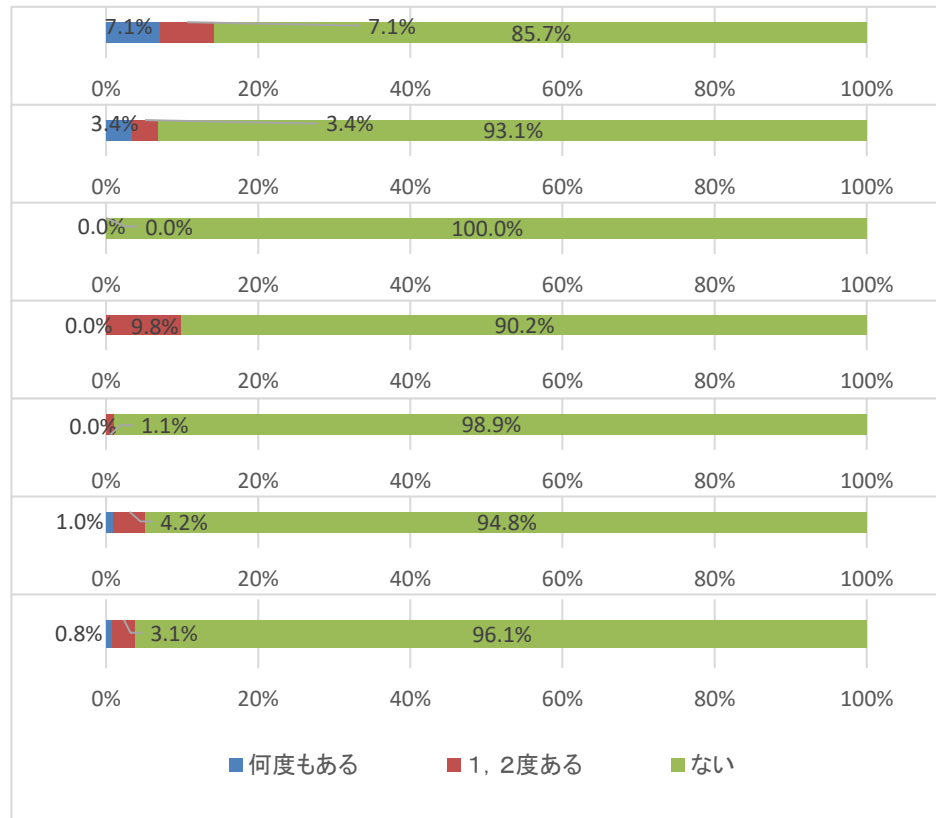
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=127



16. 小遣いを渡されなかった

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

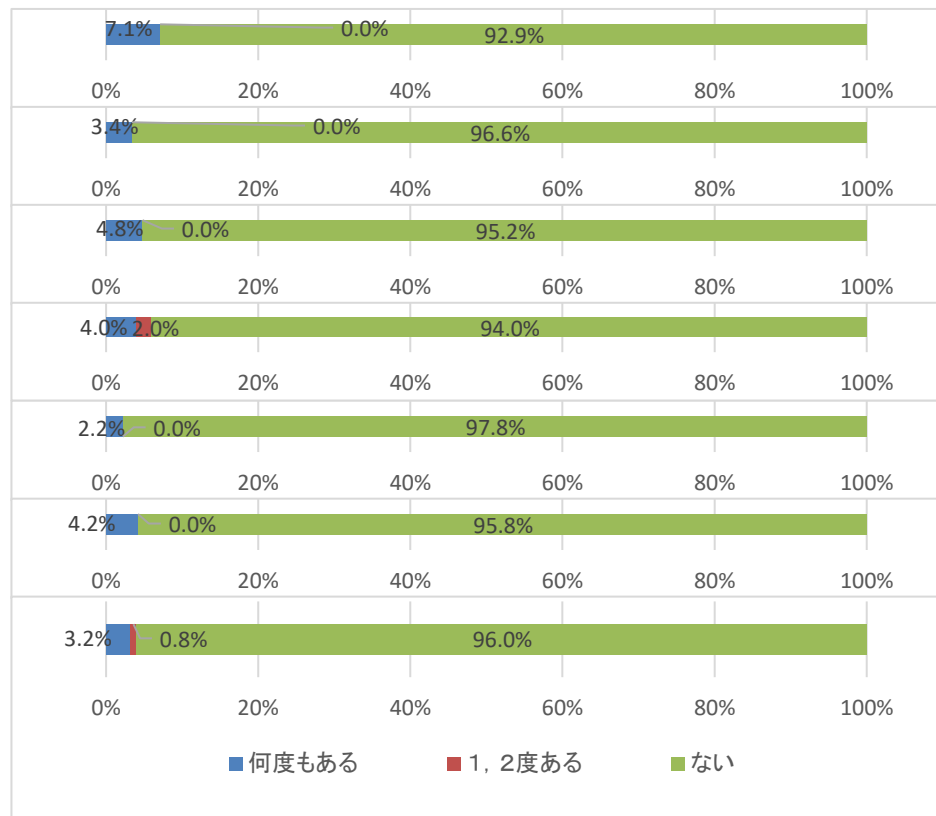
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=126



17. 「稼ぎが足りない」「もっと働け」等と言われた

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

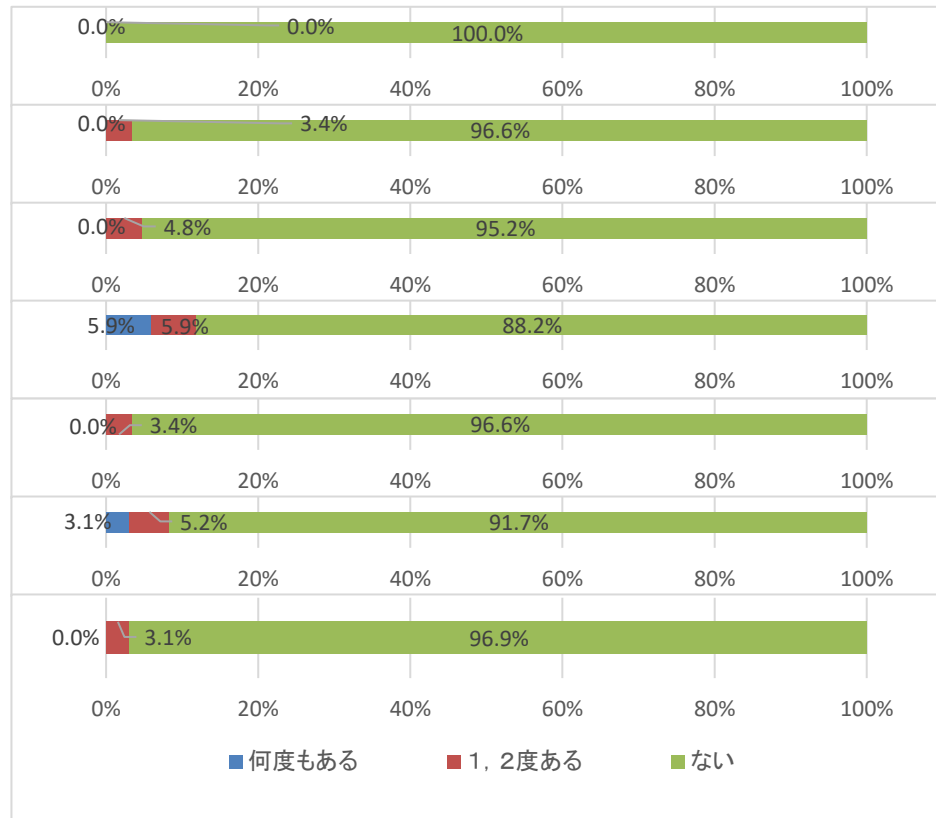
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=127



18. 自分の親に、自分の文句を言われた

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

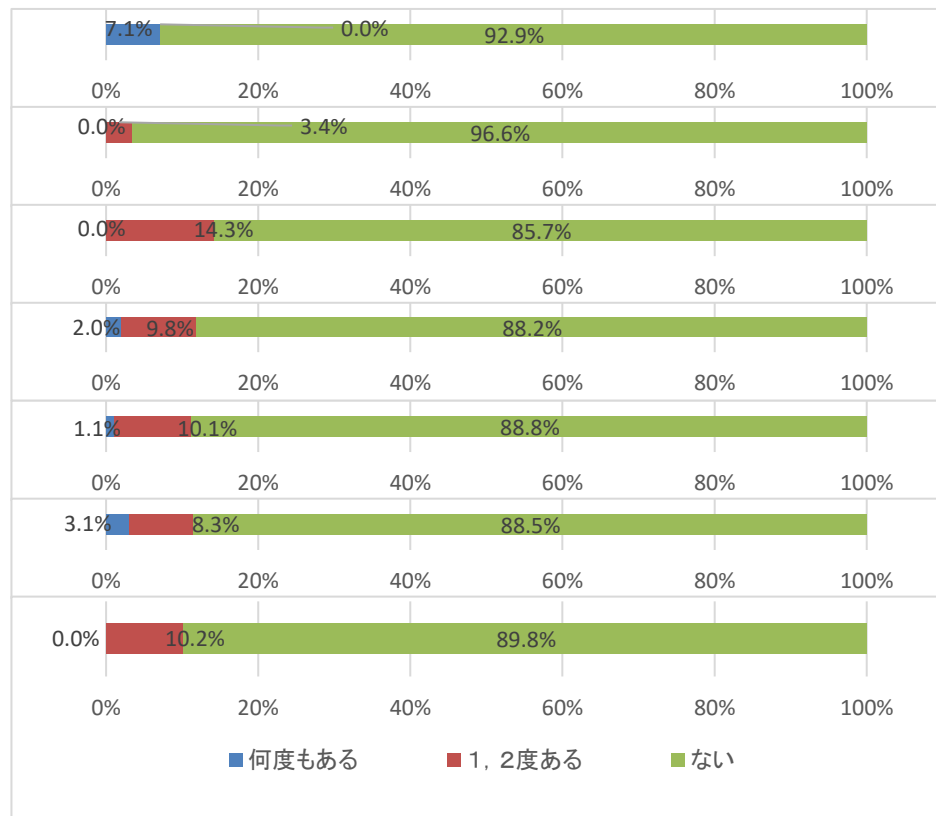
【40～49歳】
n=42

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=127



19. こどもに、自分の悪口を吹き込まれた

【18～29歳】
n=14

【30～39歳】
n=29

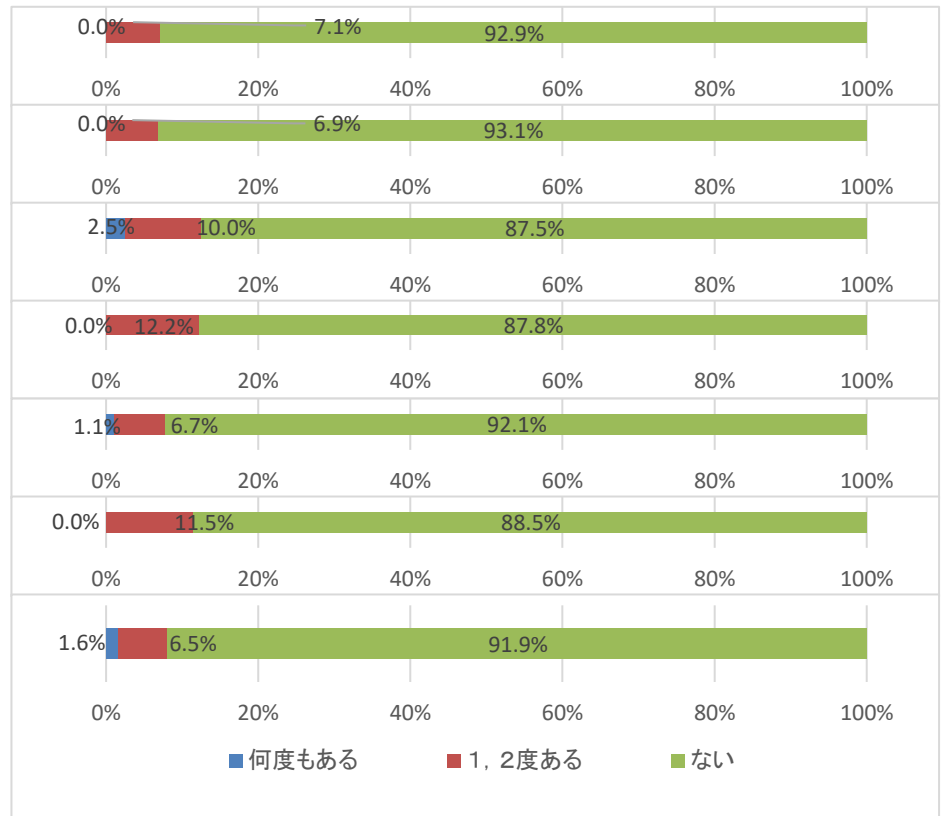
【40～49歳】
n=40

【50～59歳】
n=49

【60～69歳】
n=89

【男性】
n=96

【女性】
n=124



20. その他

【18～29歳】
n=5

【30～39歳】
n=7

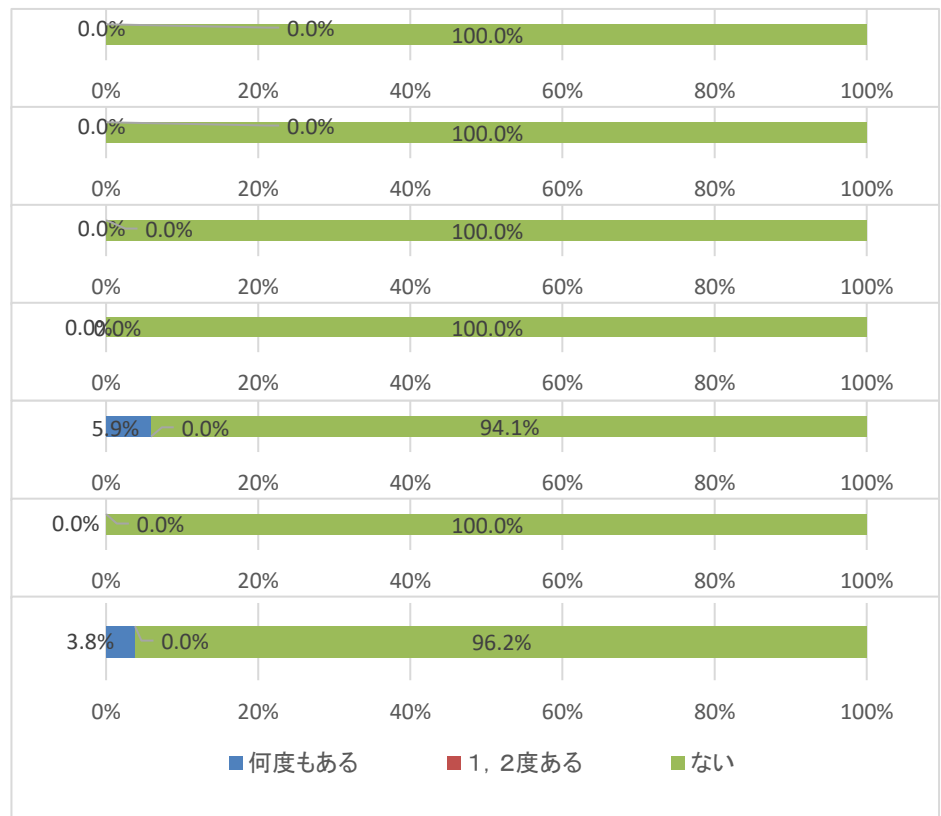
【40～49歳】
n=12

【50～59歳】
n=7

【60～69歳】
n=17

【男性】
n=21

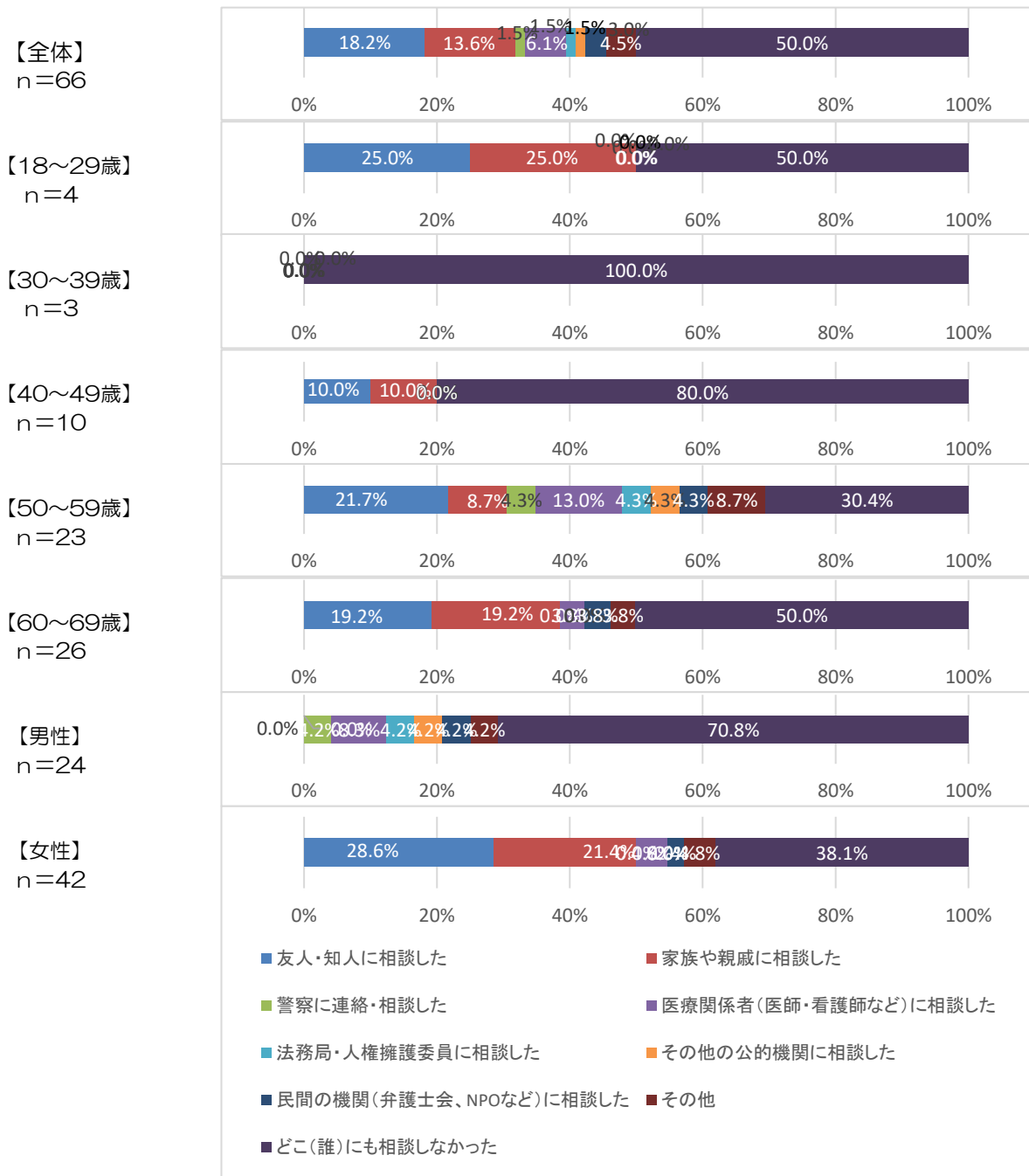
【女性】
n=26



<問13で、「何度もある」または「1，2度ある」と回答した方に伺います>
 問14 あなたは、暴力を受けたことについて、誰かに相談しましたか。
 （あてはまるものすべてに○）

【分析結果】

暴力の相談については、「どこ（誰）にも相談しなかった」が50.0%で最も多く、次いで「友人・知人に相談した」が18.2%、「家族や親戚に相談した」が13.6%であった。



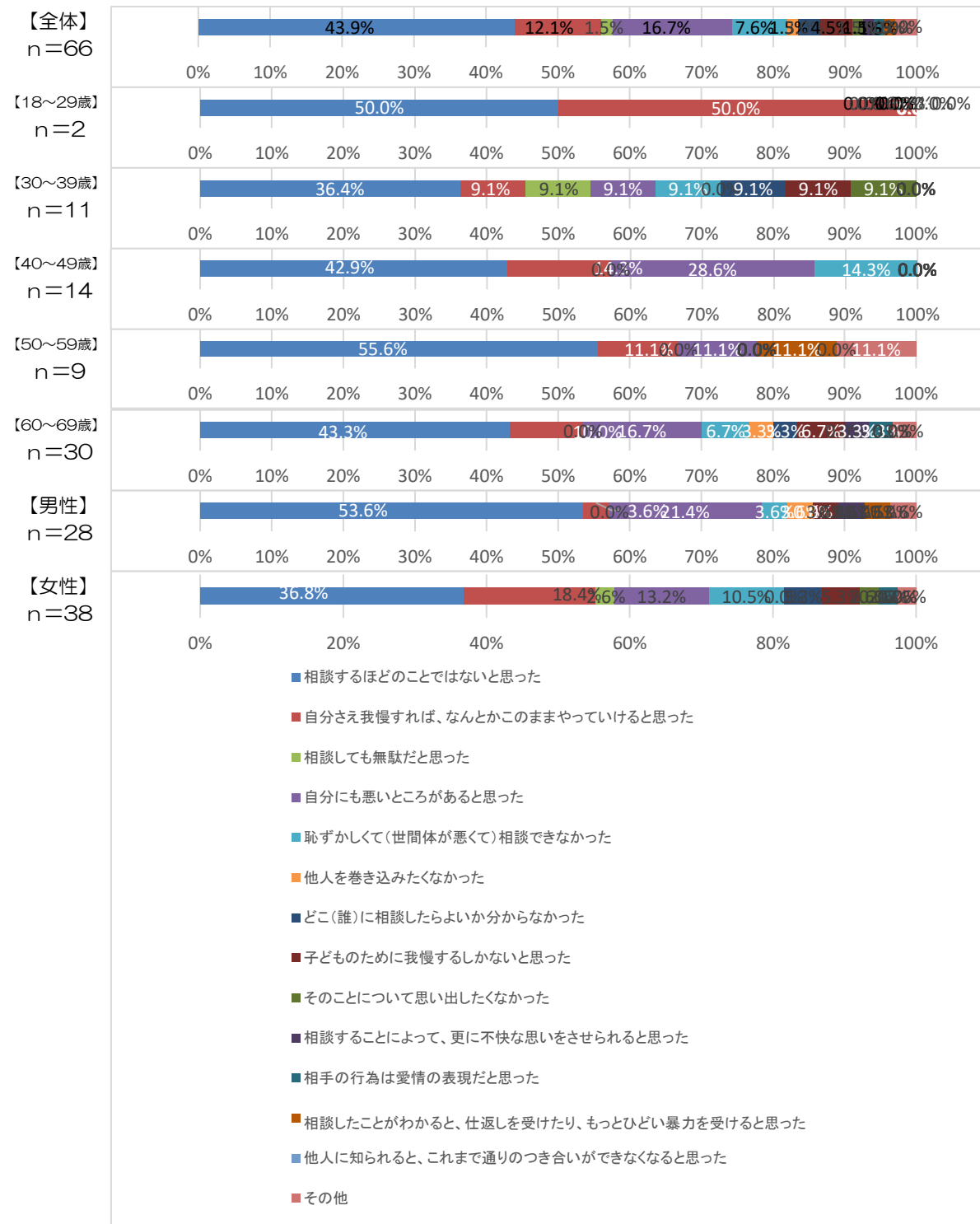
<問14で「9」と回答した方に伺います>

問15 あなたが、どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。
（あてはまるものすべてに○）

【分析結果】

相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思った」が43.9%で最も多く、特に男性からの回答が多かった。

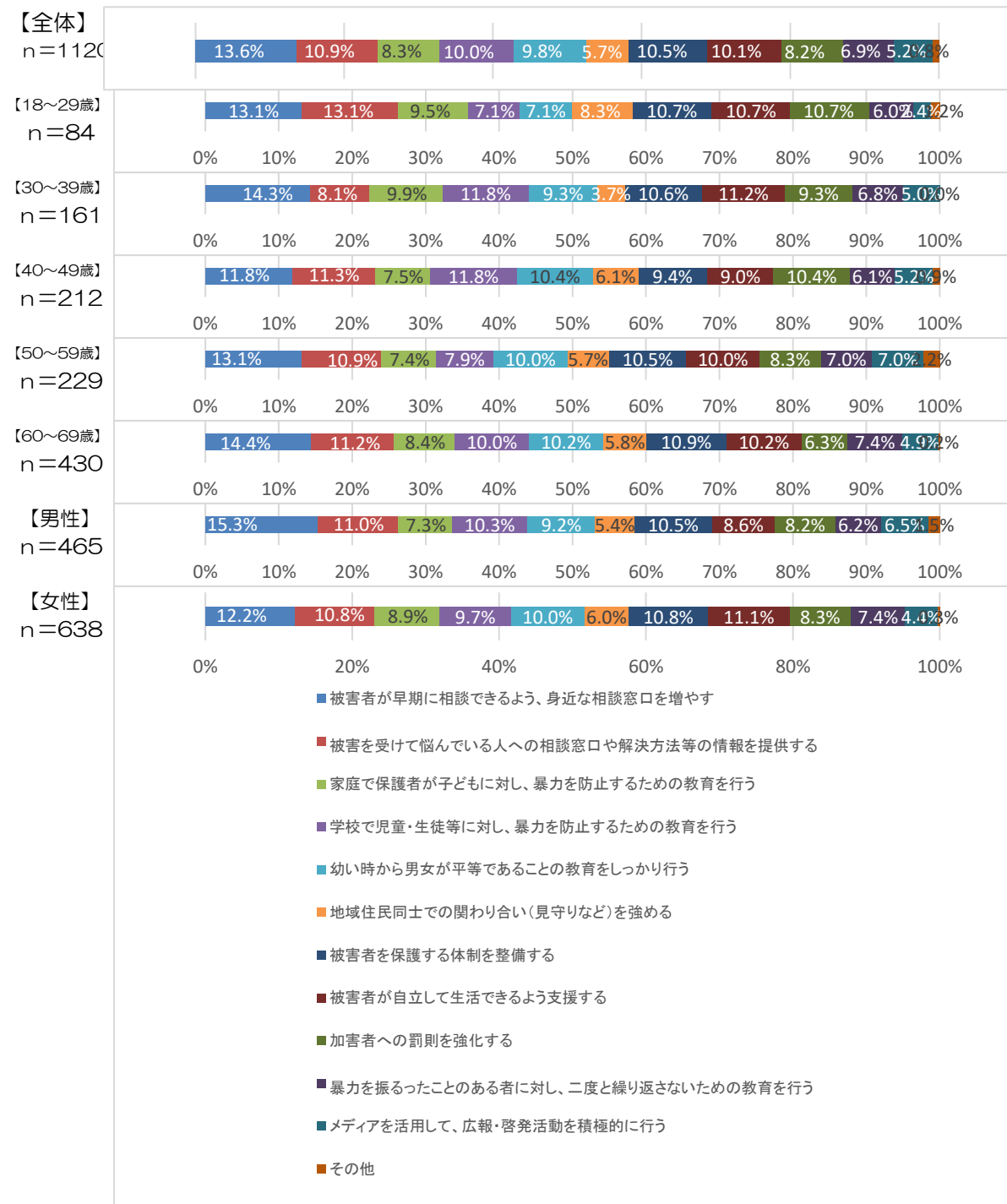
次いで「自分にも悪いところがあると思った」が16.7%、「自分され我慢すれば何とかこのままやっていけるといった」が12.1%であった。



問16 パートナー（配偶者など）からの暴力をはじめとする男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

【分析結果】

暴力の防止に必要なこととして、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が13.6%で最も多く、次いで「被害を受けて悩んでいる人への相談窓口や解決方法等の情報を提供する」が10.9%、「被害者を保護する体制を整備する」が10.5%、「被害者が自立して生活できるよう支援する」が10.1%であった。
年代、性別による比較では、特に差は見られなかった。



問17 あなたは、次の「1」 から 「6」のハラスメントを経験したり、見聞きしたりしたことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

【分析結果】

ハラスメントとして自分自身が受けたり、周りに受けた人がいると答えた割合は、「パワー・ハラスメント」が43.6%で最も高かった。次いで、「モラル・ハラスメント」29.1%、「セクシュアル・ハラスメント」19.0%であった。

男女別では、「セクシュアル・ハラスメント」、「マタニティ・ハラスメント」、「モラル・ハラスメント」、「ジェンダー・ハラスメント」において自分自身が受けたり、周りに受けた人がいる、と回答した割合が、男性より女性のほうが多かった。

【全体】

1. セクシュアル・ハラスメント

n = 258

2. パワー・ハラスメント

n = 257

3. マタニティ・ハラスメント

n = 244

4. モラル・ハラスメント

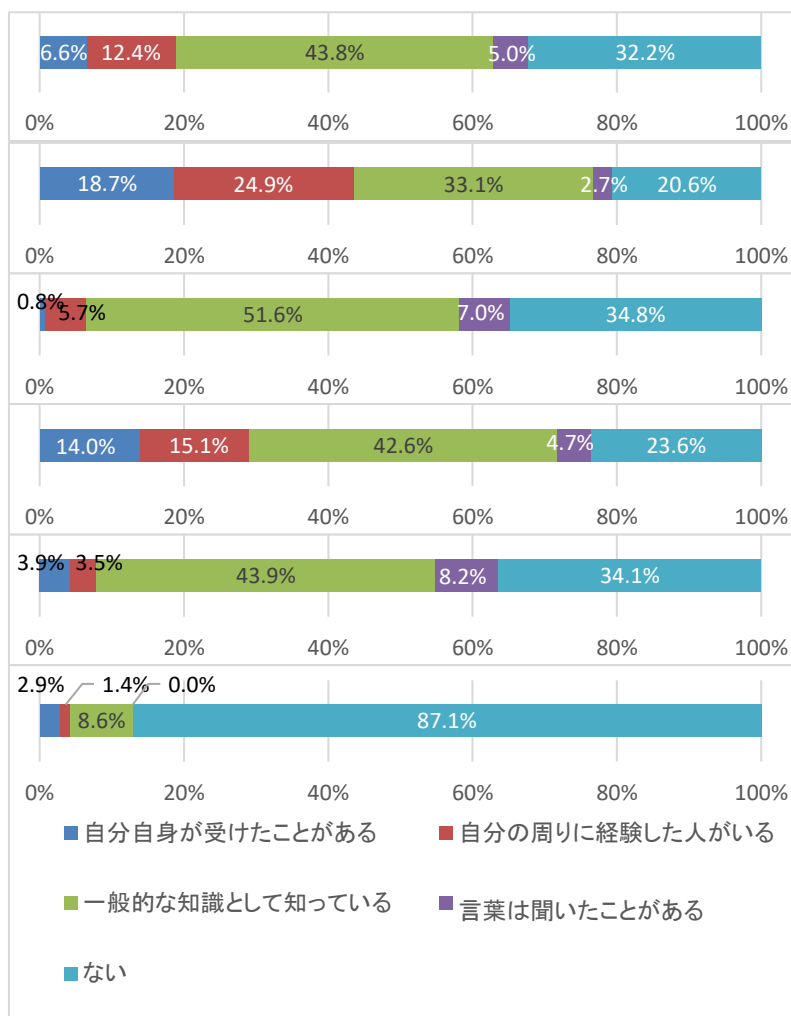
n = 258

5. ジェンダー・ハラスメント

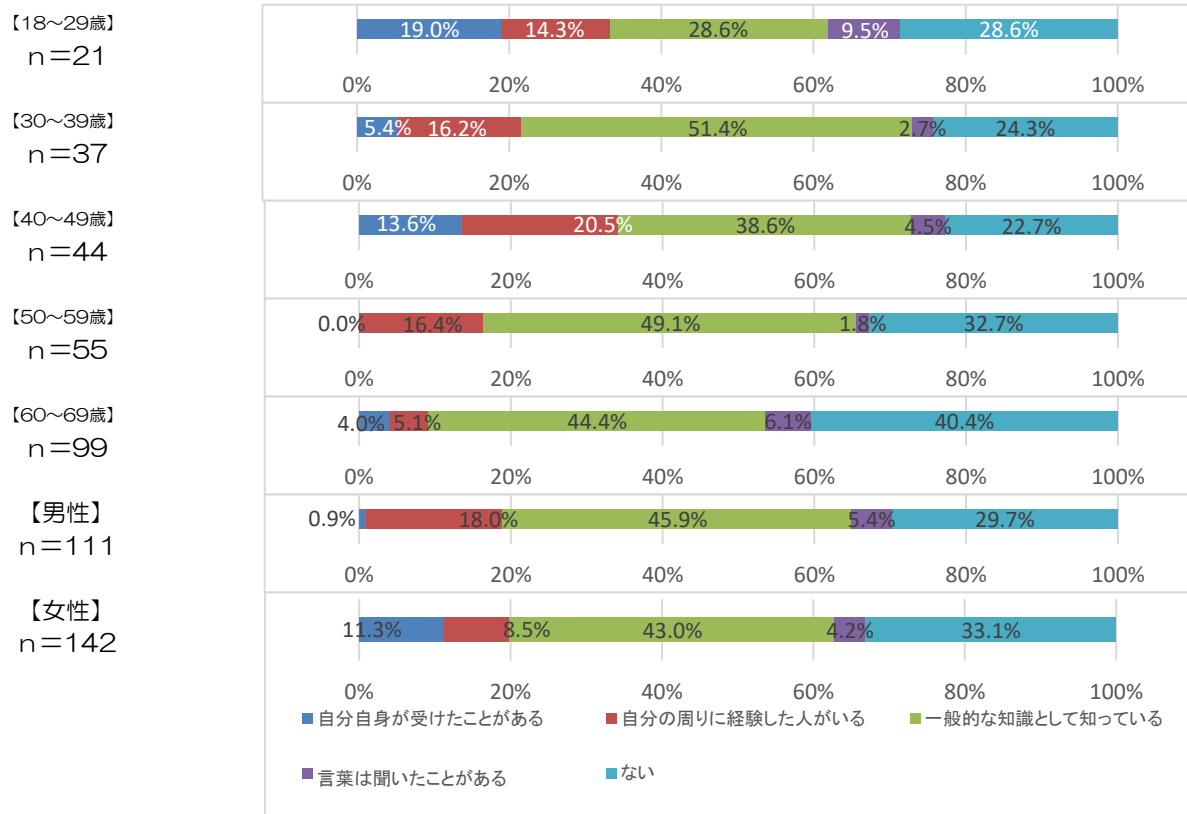
n = 239

6. その他のハラスメント

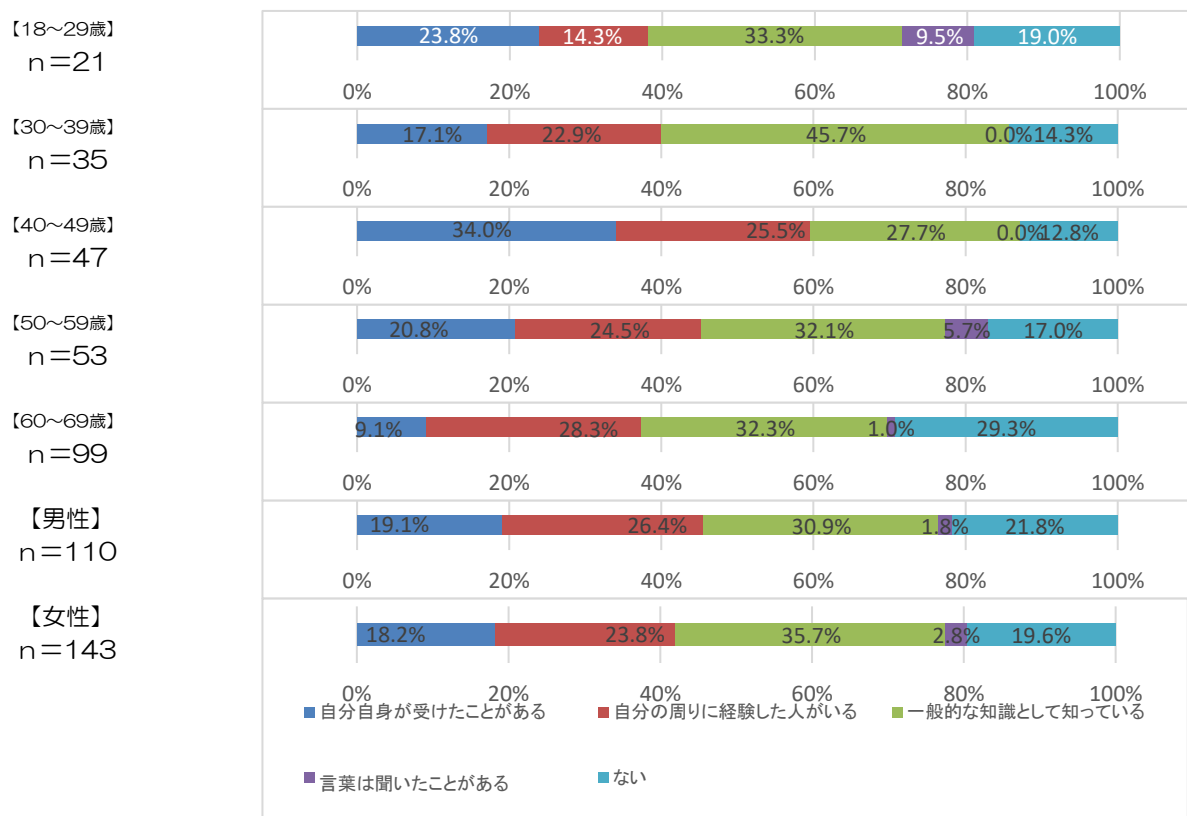
n = 70



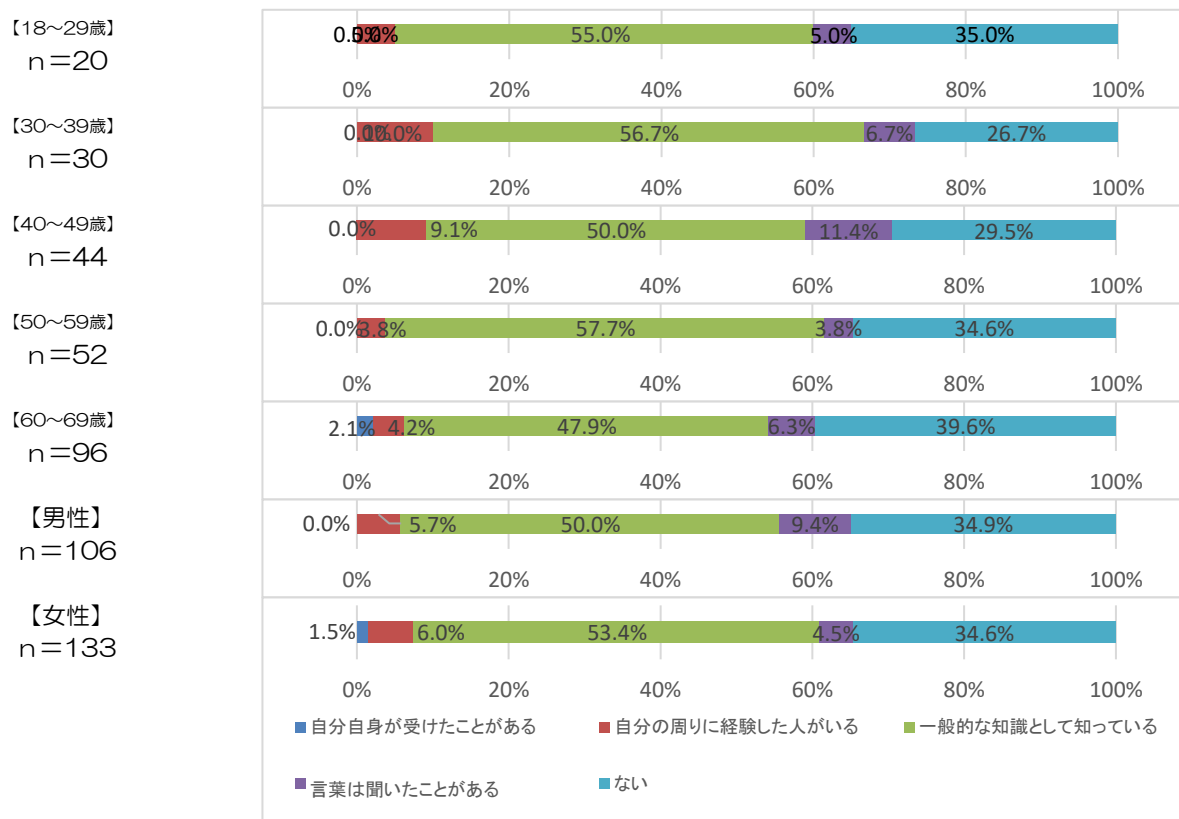
1. セクシュアル・ハラスメント



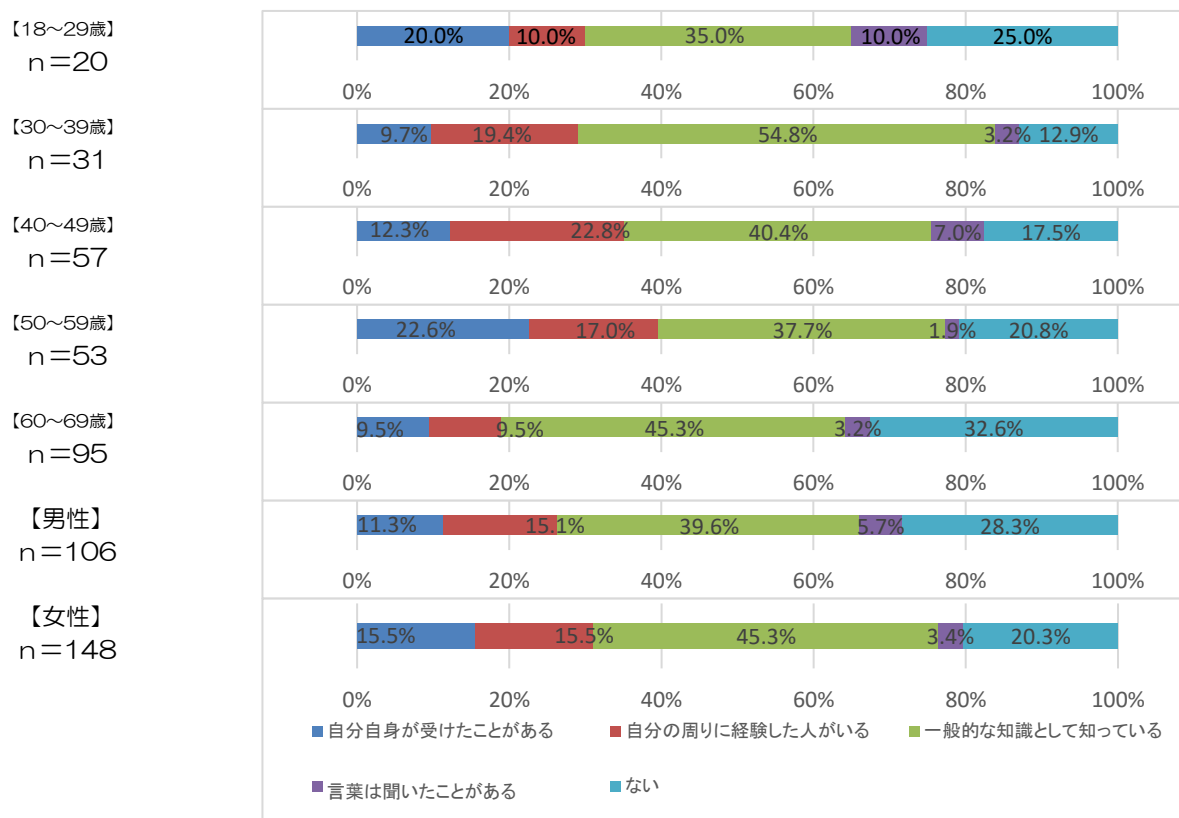
2. パワー・ハラスメント



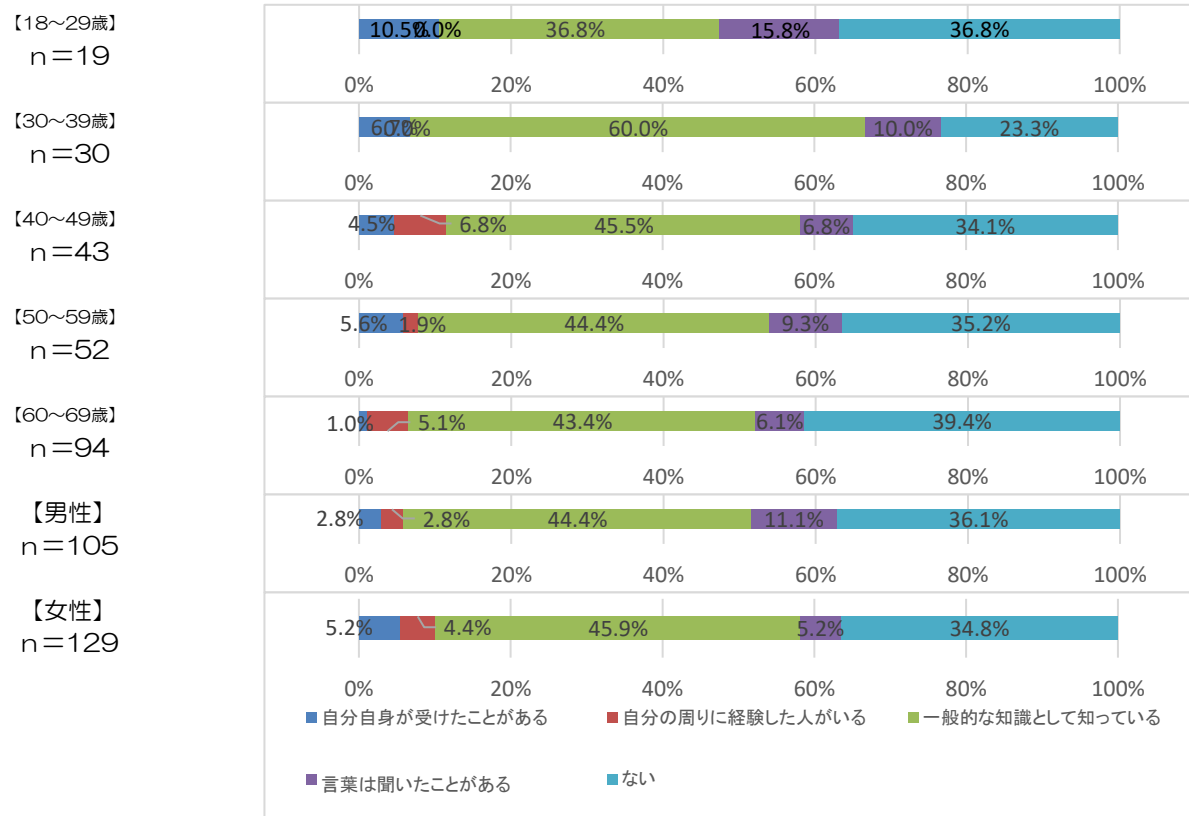
3. マタニティ・ハラスメント



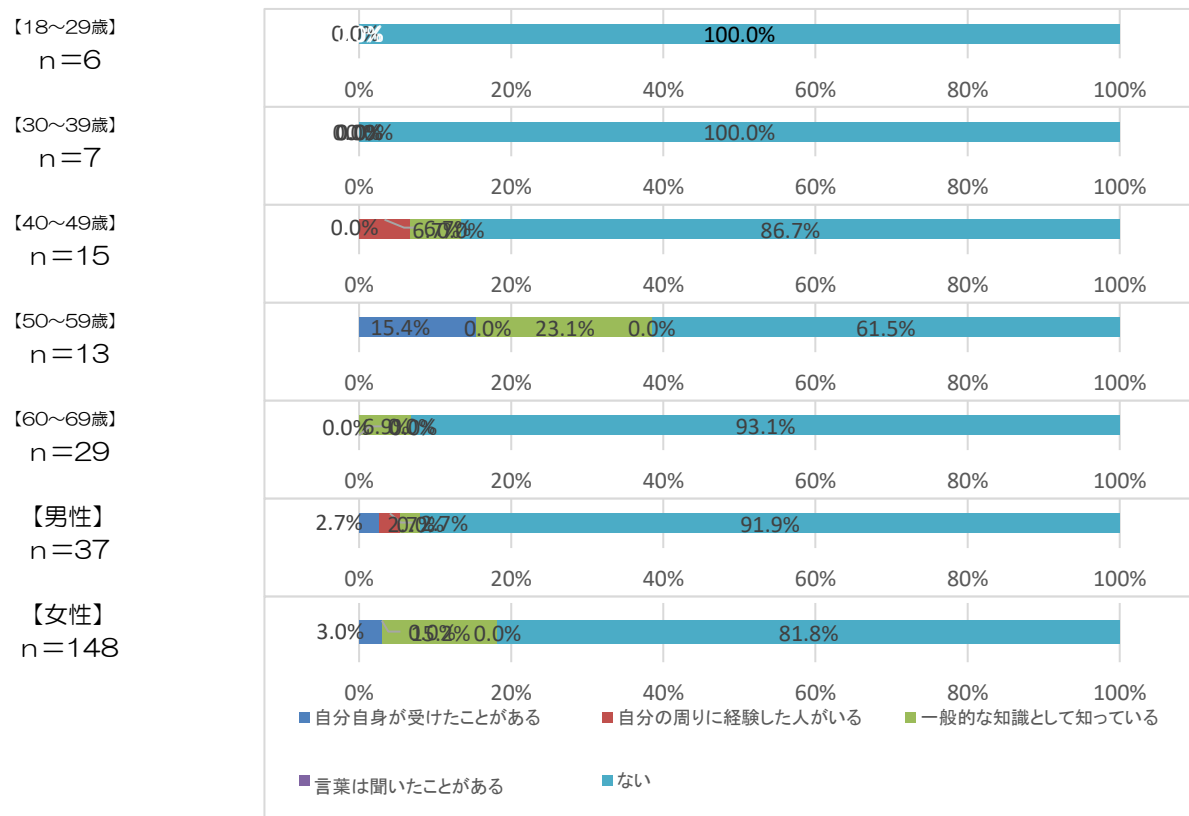
4. モラル・ハラスメント



5. ジェンダー・ハラスメント



6. その他のハラスメント

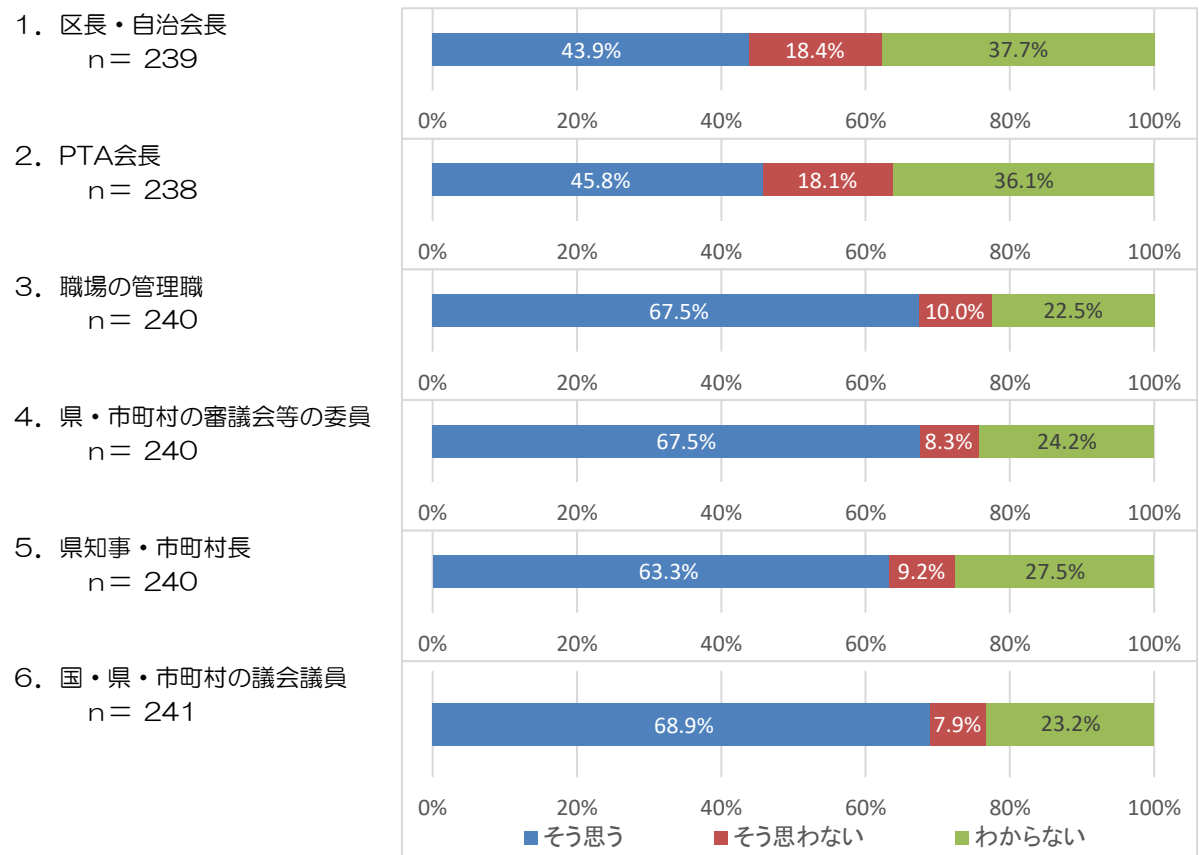


問18 あなたは、次の「1」 から 「6」の役職や公職に女性がもっと就いた方がよいと思いますか。（あてはまるものに○）

【分析結果】

女性がもっと就いた方がよい役職等については、「国・県・市町村の議会議員」が68.9%で最も多く、次いで、「職場の管理職」、「県・市町村の審議会等の委員」が共に63.5%となった。

男女別では、全ての役職において、女性よりも男性の方が、「女性がもっと役職についた方がよい」と回答した割合が多かった。



1. 区長・自治会長

【18～29歳】
n=20

【30～39歳】
n=28

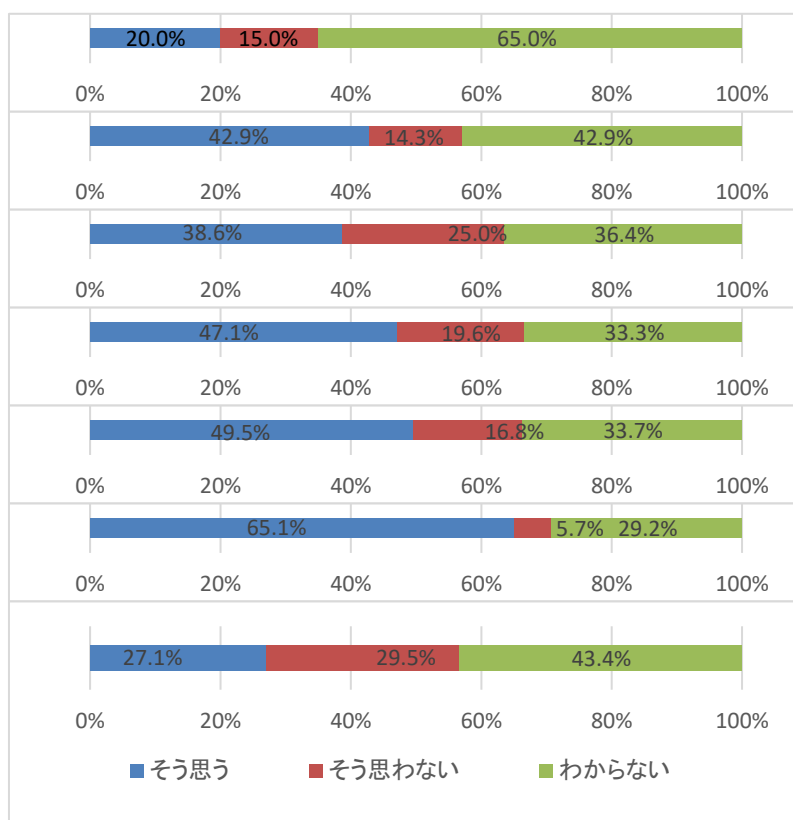
【40～49歳】
n=44

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=95

【男性】
n=106

【女性】
n=129



2. PTA会長

【18～29歳】
n=20

【30～39歳】
n=28

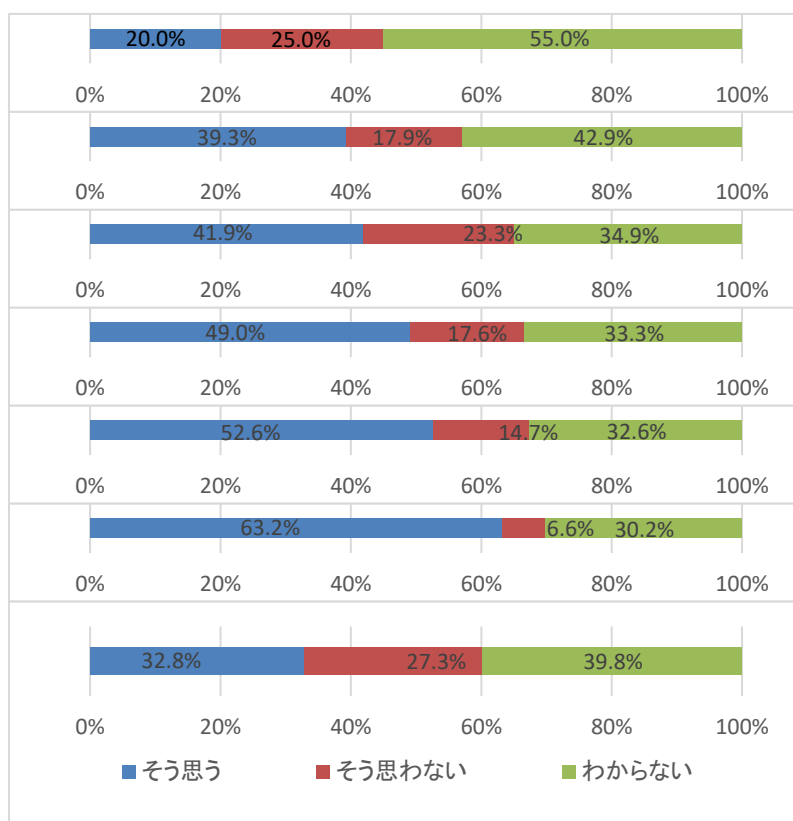
【40～49歳】
n=43

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=95

【男性】
n=106

【女性】
n=128



3. 職場の管理職

【18～29歳】
n=20

【30～39歳】
n=28

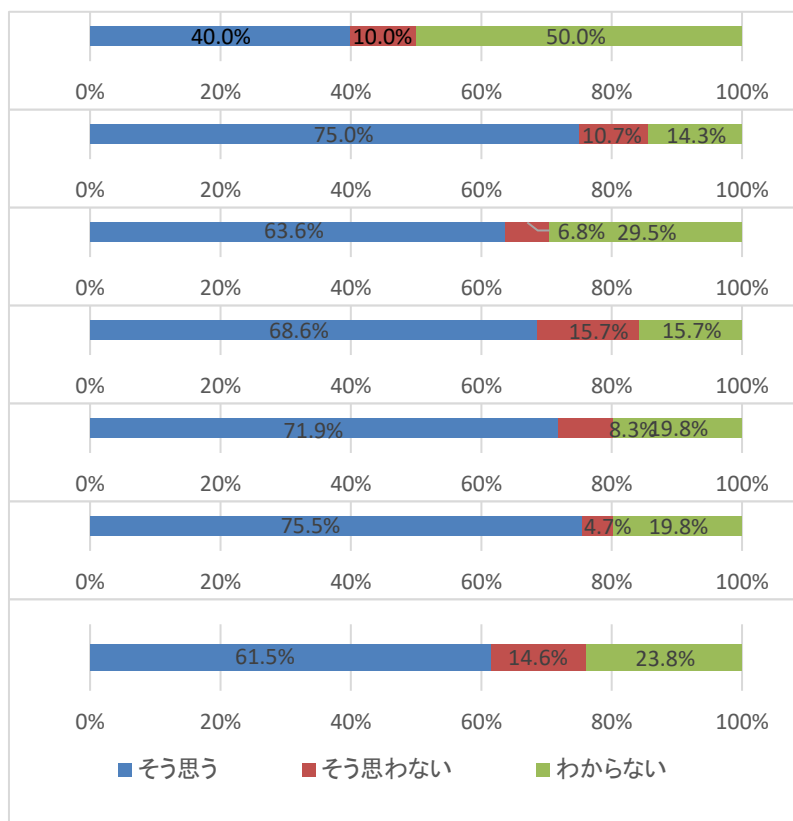
【40～49歳】
n=44

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=96

【男性】
n=106

【女性】
n=130



4. 県・市町村の審議会等の委員

【18～29歳】
n=20

【30～39歳】
n=28

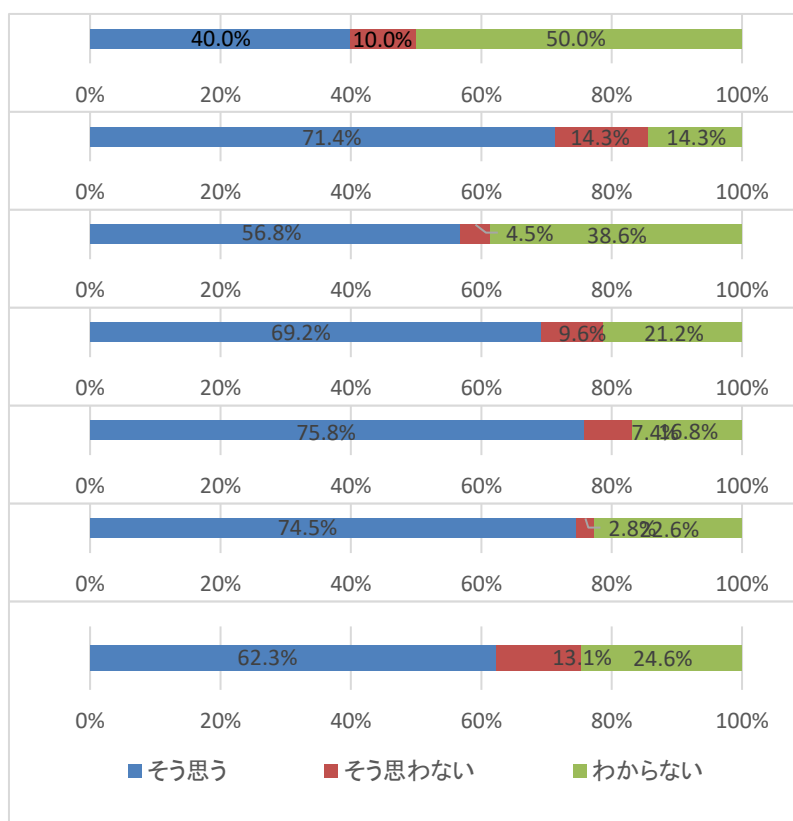
【40～49歳】
n=44

【50～59歳】
n=52

【60～69歳】
n=95

【男性】
n=106

【女性】
n=130



5. 県知事・市町村長

【18～29歳】
n=20

【30～39歳】
n=28

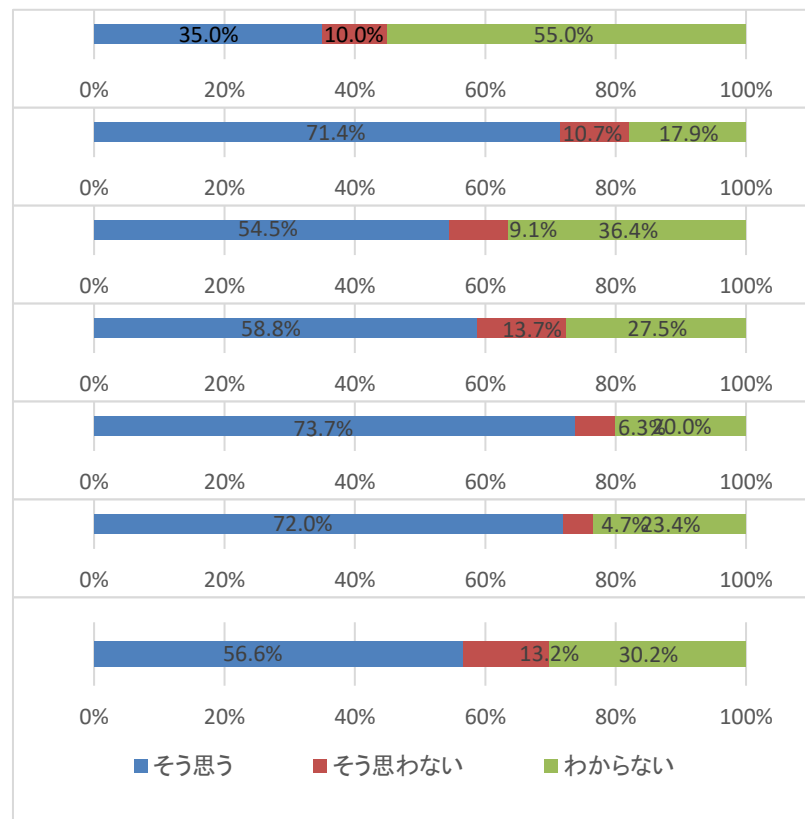
【40～49歳】
n=44

【50～59歳】
n=51

【60～69歳】
n=95

【男性】
n=107

【女性】
n=129



6. 国・県・市町村の議会議員

【18～29歳】
n=20

【30～39歳】
n=28

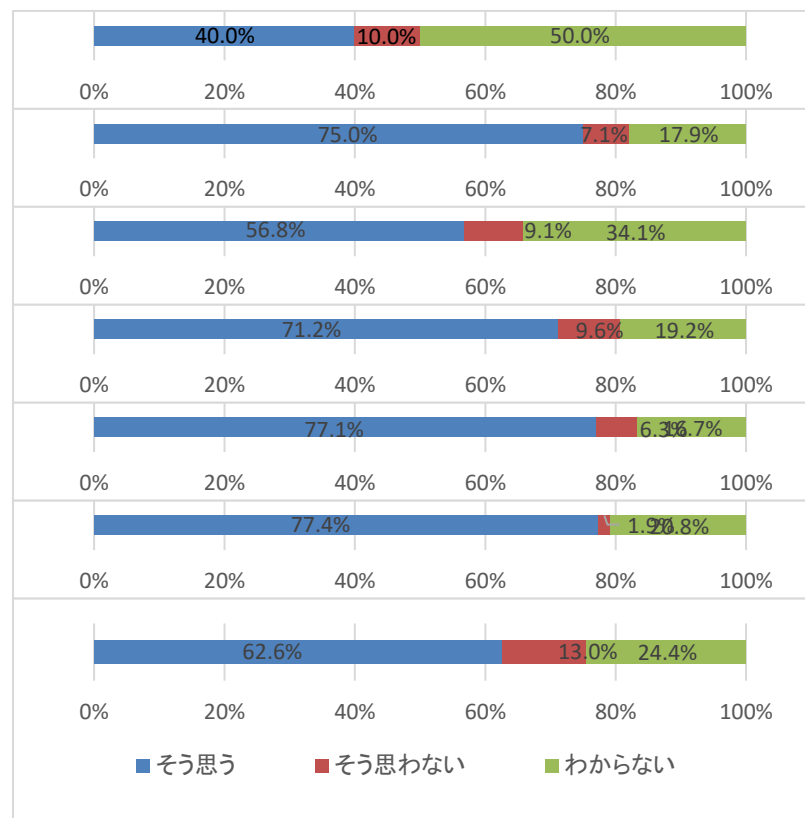
【40～49歳】
n=44

【50～59歳】
n=52

【60～69歳】
n=96

【男性】
n=106

【女性】
n=131

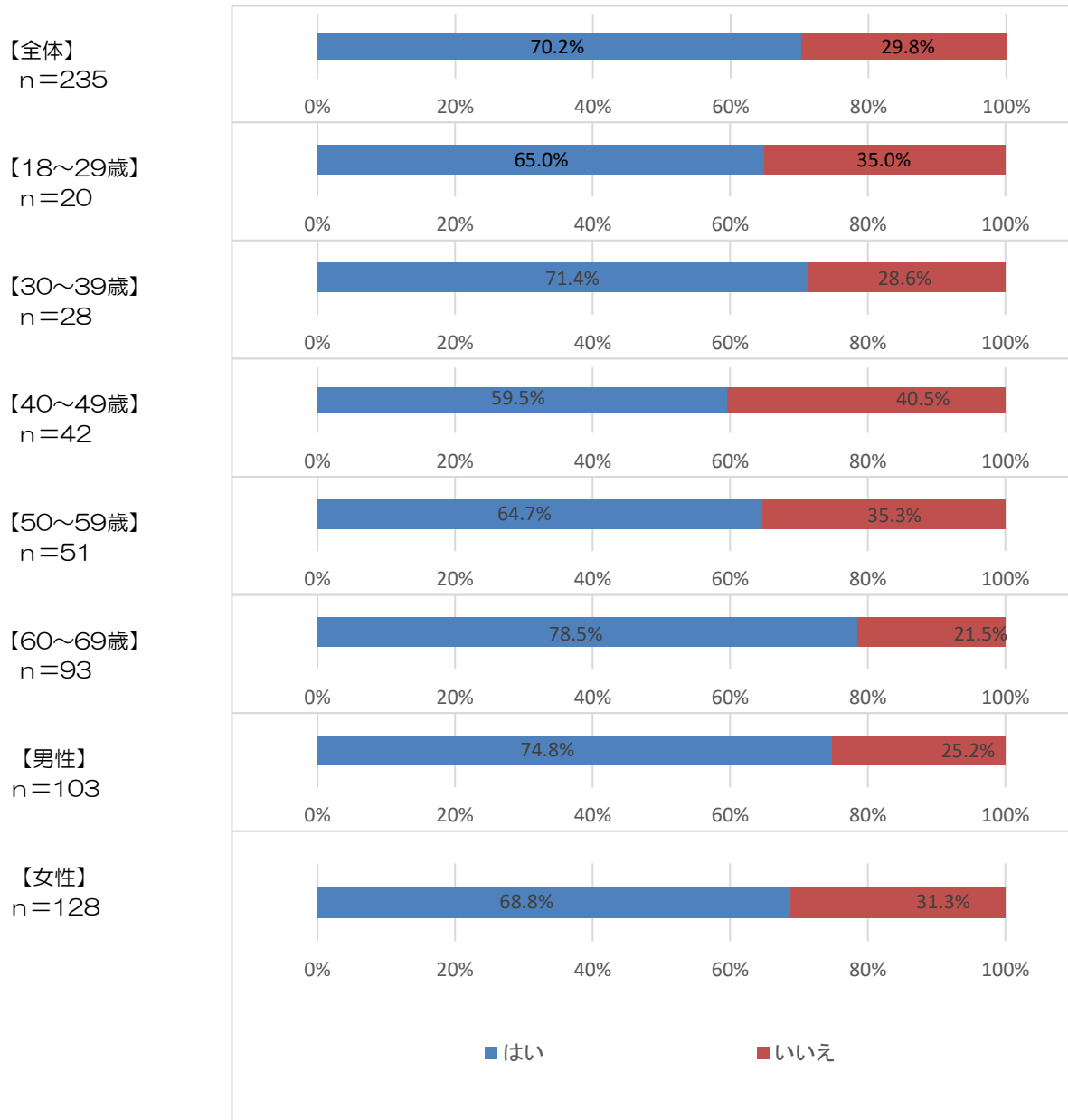


問19 あなたは、職場や地域社会において、企画や方針決定の場に女性が少ないと思いますか。

【分析結果】

「女性が少ない」との回答が、全体で70.2%で多かった。

男女別では、男性のほうが「女性が少ない」と回答する割合が多かった。



<問19で「1」と回答した方のみお答えください>

問20 そう思う理由を教えてください。（あてはまるもの2つ以内に○）

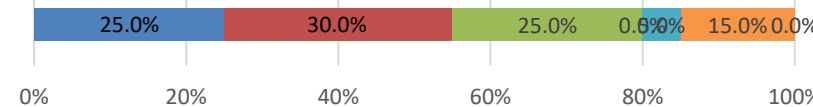
【分析結果】

女性が少ない理由については、「男女の役割分担についての社会通念や風習が残っているから」が29.0%で最も多く、次いで、「仕事と家庭を両立できる社会制度が十分でないから」が28.7%となった。

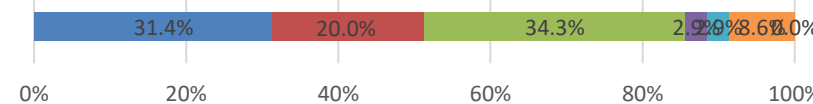
【全体】
n=335



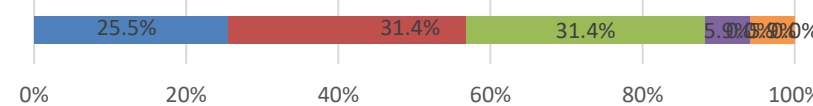
【18～29歳】
n=20



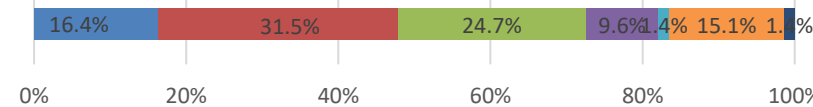
【30～39歳】
n=35



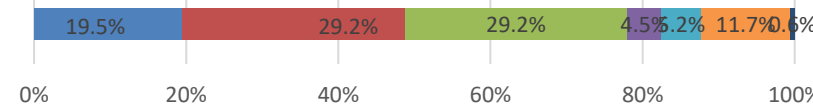
【40～49歳】
n=51



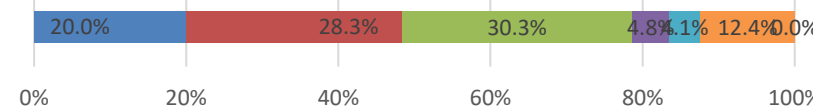
【50～59歳】
n=73



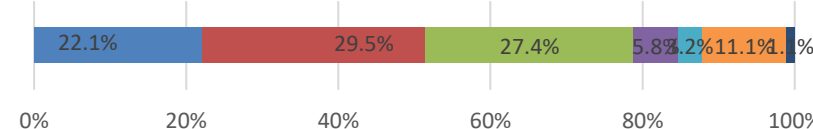
【60～69歳】
n=154



【男性】
n=145



【女性】
n=190



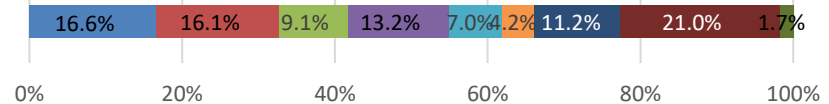
- 男性優位の組織になっているから
- 男女の役割分担についての社会通念や風習が残っているから
- 仕事と家庭を両立できる社会制度が十分でないから
- 家族の理解・協力が得られないから
- 女性に対する研修・訓練の場が不十分だから
- 女性の側に積極性が欠けているから
- その他

問21 あなたは、女性が働きつづけるために必要なことは何だと思いますか。
(あてはまるもの2つ以内に○)

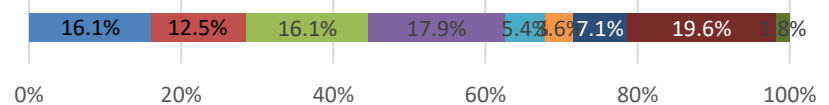
【分析結果】

女性が働き続けるために必要なこととして、「パートナー（配偶者）や職場の人など周りの人の理解があり、協力を得られる」が20.0%で最も多く、次いで、「保育施設の充実や保育時間の延長」が16.6%、「育児休業制度や介護休業制度などの導入促進」16.1%となった。

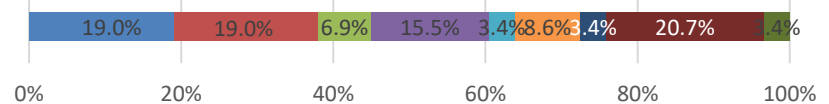
【全体】
n=529



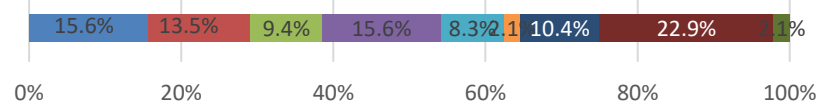
【18～29歳】
n=56



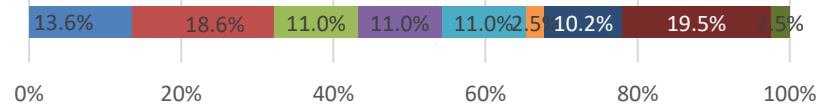
【30～39歳】
n=58



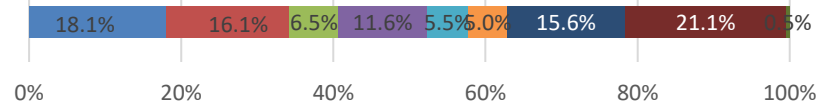
【40～49歳】
n=96



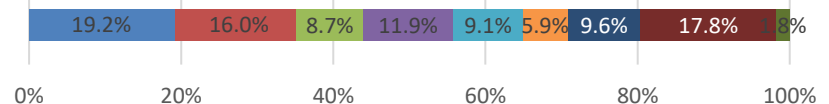
【50～59歳】
n=118



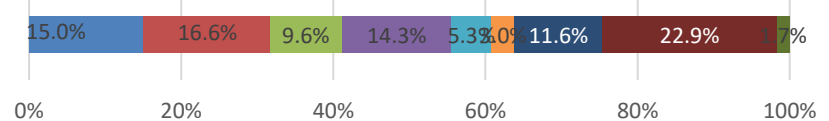
【60～69歳】
n=199



【男性】
n=219



【女性】
n=301



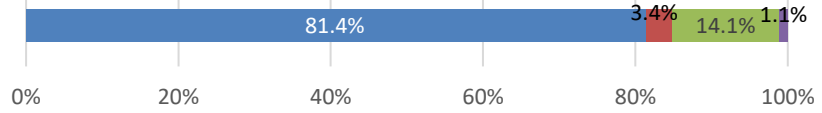
- 保育施設の充実や保育時間の延長
- 育児休業制度や介護休業制度などの導入促進
- 福利厚生施設や福利厚生制度の充実
- 労働時間の短縮や休日を増やすなどの制度の充実
- 働くうえでの性別による差をなくす
- 女性の管理職を増やして、経営・政策方針決定の機会に参加させる
- 病人や高齢者などの世話に対する社会的サービスを充実させる
- パートナー（配偶者など）や職場の人など周りの人の理解があり、協力を得られる
- その他

問22 あなたの勤務時間帯について、教えてください。（あてはまるもの1つに○）

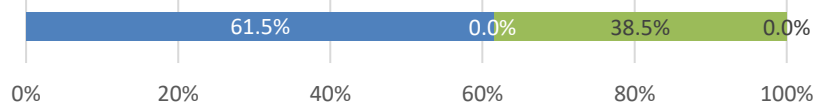
【分析結果】

勤務時間は、「日中のみ」が81.4%と最も多かった。

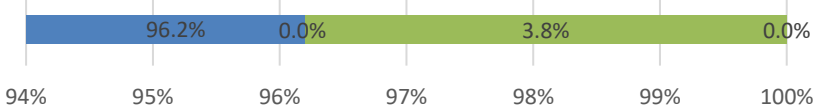
【全体】
n=177



【18～29歳】
n=13



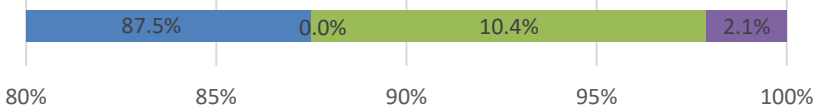
【30～39歳】
n=26



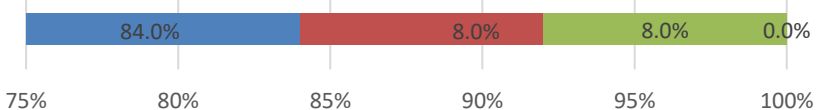
【40～49歳】
n=39



【50～59歳】
n=48



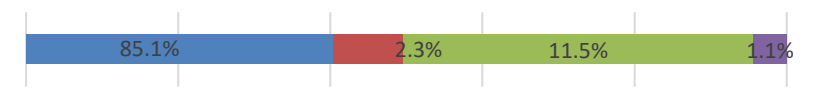
【60～69歳】
n=50



【男性】
n=88



【女性】
n=87



■ 日中のみ ■ 常に夜間を含む ■ 日中と夜間の勤務がある ■ その他

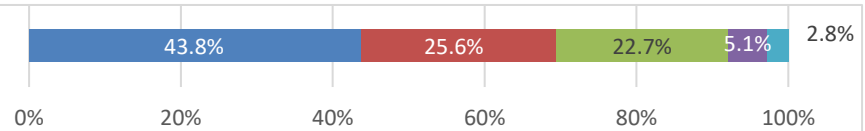
問23 残業や休日勤務について、教えてください。（いずれかに○）

【分析結果】

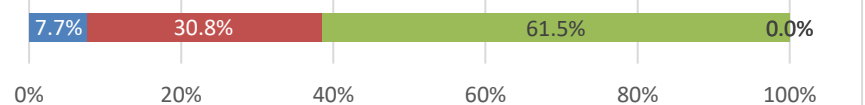
残業や休日勤務については、「ほとんどない」が全体で4割以上で多かった。
年代別では、18～29歳代で、残業や休日勤務が「常にある」と回答した割合が多かった。
男女別では、男性よりも女性の方が「ほとんどない」と回答する割合が多かった。

残業について

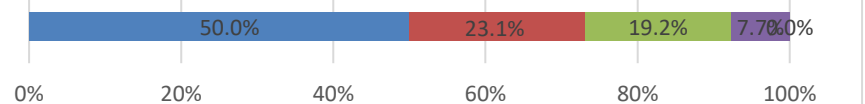
【全体】
n=176



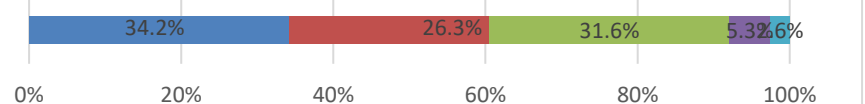
【18～29歳】
n=13



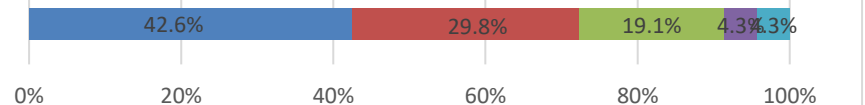
【30～39歳】
n=26



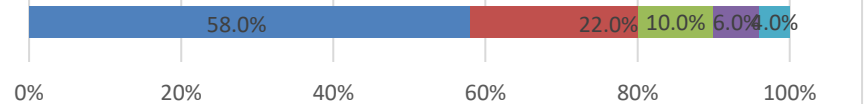
【40～49歳】
n=38



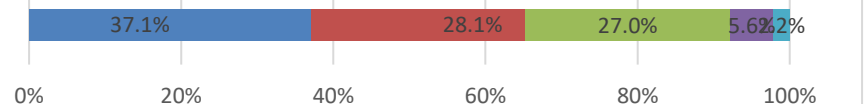
【50～59歳】
n=47



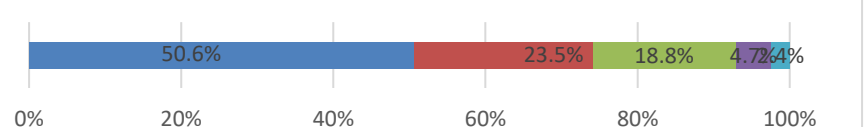
【60～69歳】
n=50



【男性】
n=89



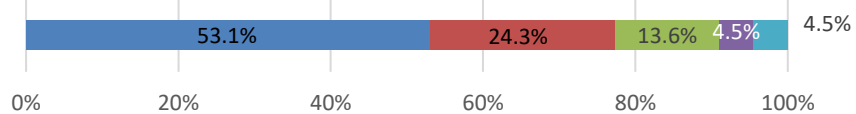
【女性】
n=85



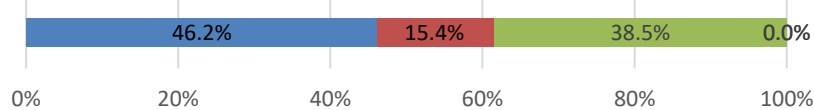
■ ほとんどない ■ 繁忙期にはある ■ 常にある ■ 雇用契約により、超過勤務はない ■ その他

休日勤務について

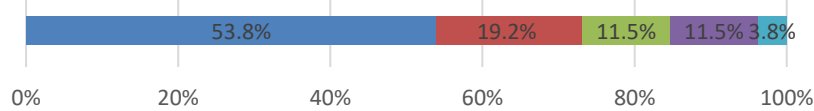
【全体】
n=177



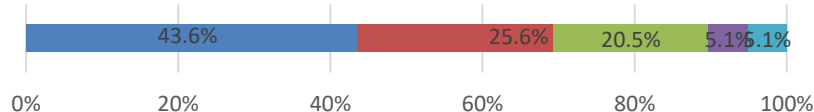
【18～29歳】
n=13



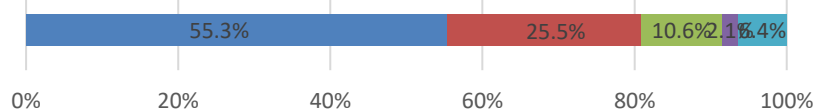
【30～39歳】
n=26



【40～49歳】
n=39



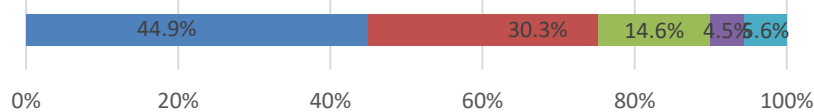
【50～59歳】
n=47



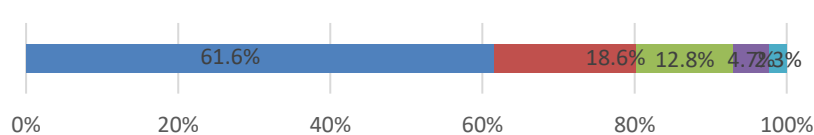
【60～69歳】
n=50



【男性】
n=89



【女性】
n=86



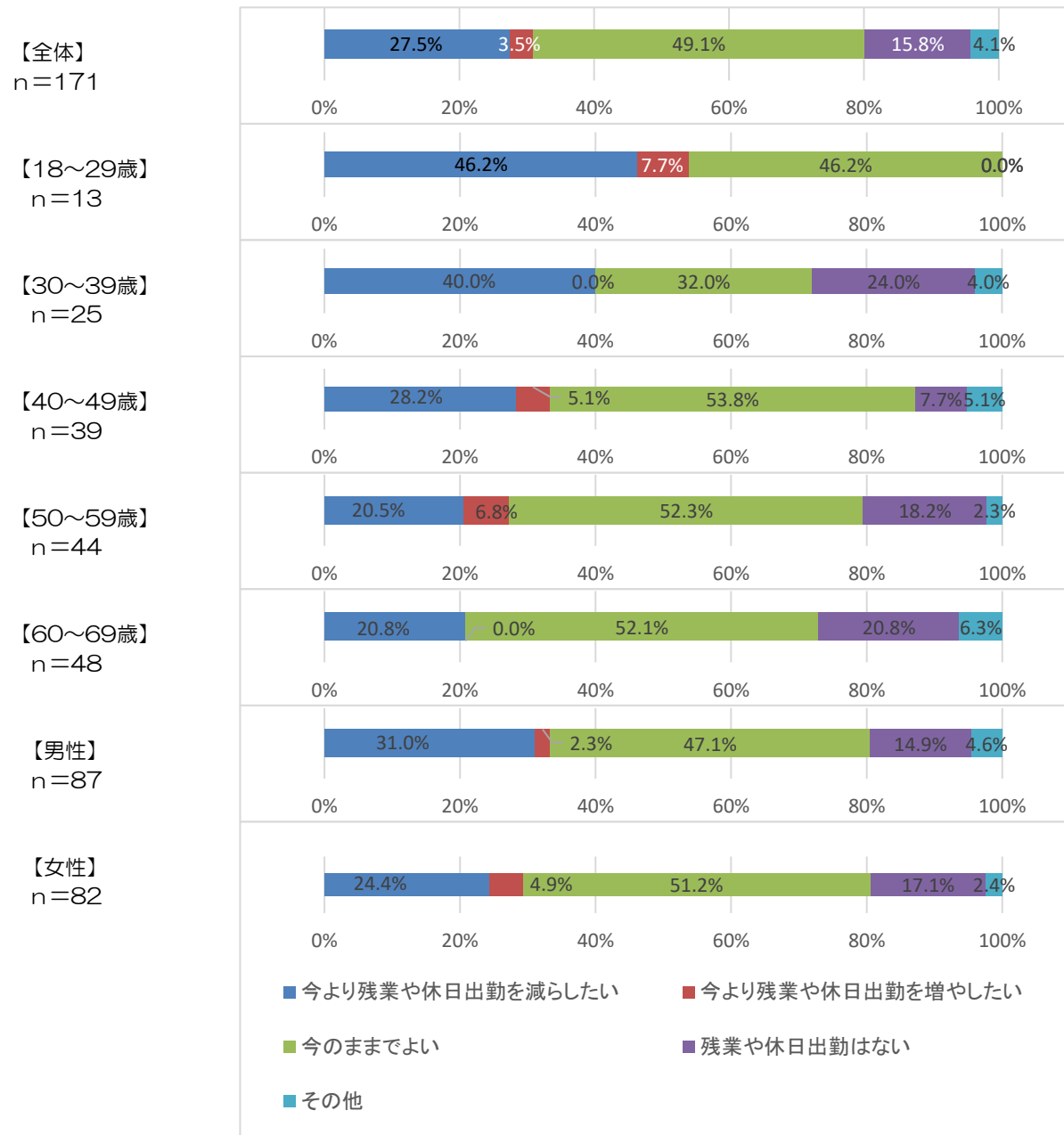
■ ほとんどない ■ 繁忙期にはある ■ 常にある ■ 雇用契約により、超過勤務はない ■ その他

問24 残業時間や休日勤務に対する希望について、教えてください。（いずれかに○）

【分析結果】

残業や休日勤務に対する希望については、「今のままでよい」が全体で49.1%で最も多かった。

年代別では、30歳代が「今より残業や休日出勤を減らしたい」と回答した割合が多かった。



問25 あなたの職場では年次有給休暇は取りやすいですか。（いずれかに○）

【分析結果】

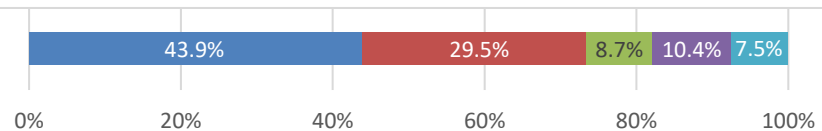
年次有給休暇の取りやすさについては、「取りやすい」が43.9%、「どちらかといえは取りやすい」が29.5%と多かった。

18～29歳代では、年次有給休暇が「取りにくい」との回答が他の年代と比較して多かった。

また、女性よりも男性のほうが「取りにくい」と答えた割合が多かった。

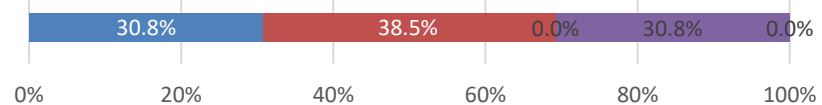
【全体】

n=173



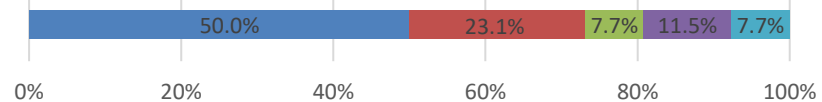
【18～29歳】

n=13



【30～39歳】

n=26



【40～49歳】

n=39



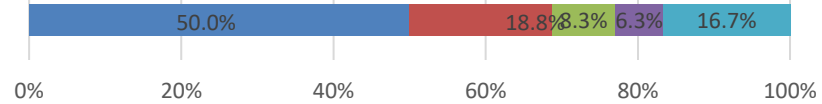
【50～59歳】

n=46



【60～69歳】

n=48



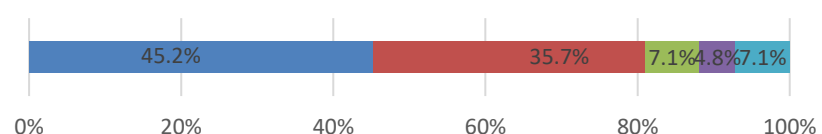
【男性】

n=87



【女性】

n=84



<問25で「3」、「4」と回答した方に伺います>

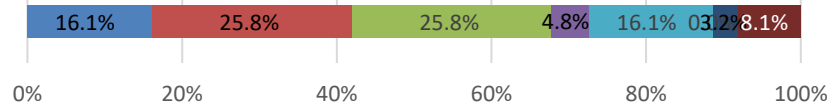
問26 年次有給休暇を取りにくい理由を教えてください。（いずれか2つ以内に○）

【分析結果】

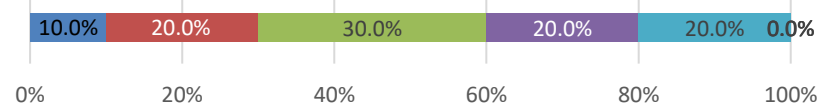
年次有給休暇を取りにくい理由については、「仕事が多忙で取れない」、「取りづらい雰囲気である」が、全体で25.8%と多かった。

18～29歳代では、「取りづらい雰囲気である」30%、「仕事が多忙で取れない」20%、「上司がいい顔をしない」20%、「取る人が少ない」20%と回答する割合が多かった。

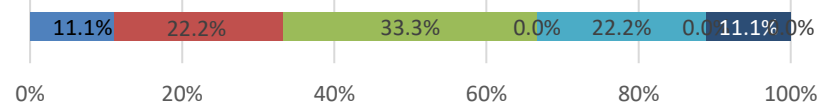
【全体】
n=62



【18～29歳】
n=10



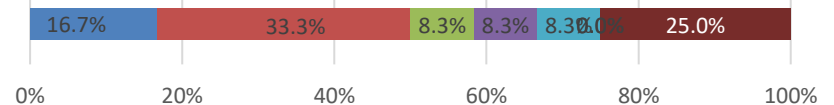
【30～39歳】
n=9



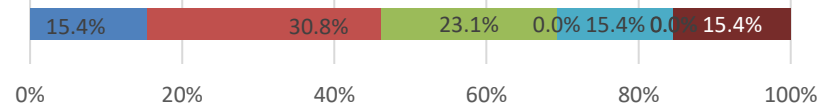
【40～49歳】
n=16



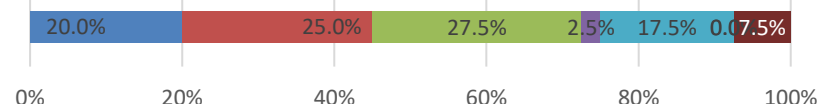
【50～59歳】
n=12



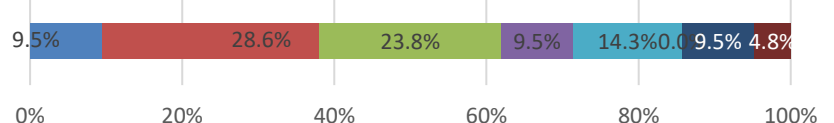
【60～69歳】
n=13



【男性】
n=40



【女性】
n=21

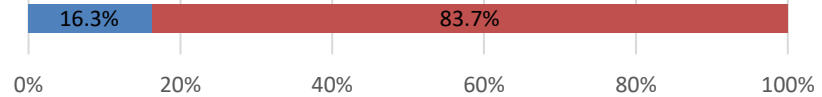


問27 育児休業や介護休業を、これまでに取得したことがありますか。
(いずれかに○)

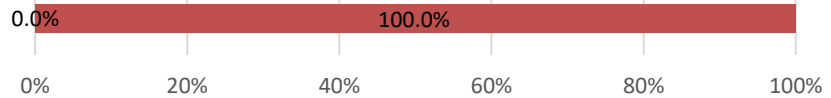
【分析結果】

育児休業や介護休業の取得については、「ない」が83.7%と多かった。
年代別では、30歳代で「取得したことがある」と回答した割合が、他の年代より多かった。
また、男性でも取得したことがある人がある結果が出た。

【全体】
n=172



【18～29歳】
n=10



【30～39歳】
n=26



【40～49歳】
n=37



【50～59歳】
n=45



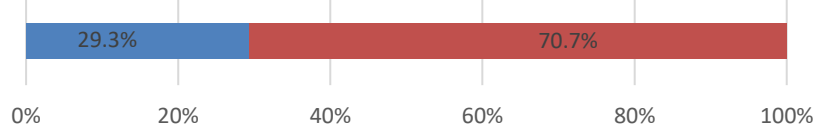
【60～69歳】
n=53



【男性】
n=88



【女性】
n=82



■ある ■ない

<問27で「2」と回答した方に伺います>
 問28 取得したことがない理由を教えてください。

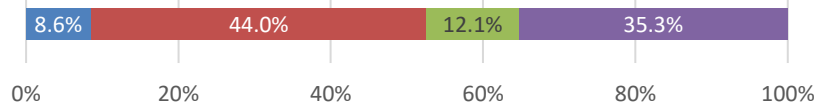
【分析結果】

育児休業や介護休業を取得したことがない理由については、「制度がなかった」が最も多かった。

年代別では、18～29歳代で「制度はあったが取得できなかった」との回答が他の年代より割合が多かった。

育児休業について

【全体】
 n=207



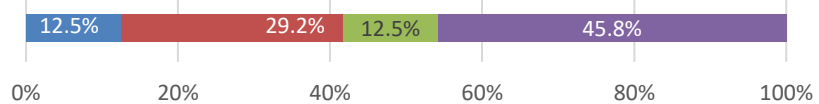
【18～29歳】
 n=19



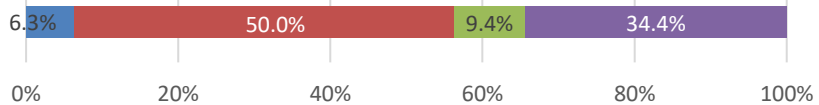
【30～39歳】
 n=23



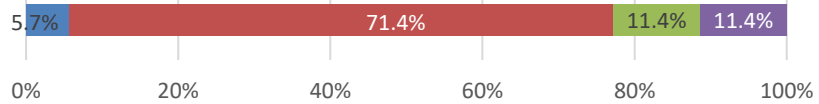
【40～49歳】
 n=37



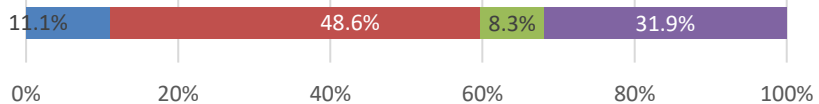
【50～59歳】
 n=44



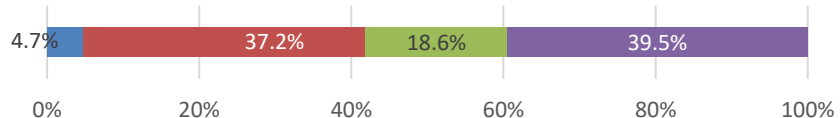
【60～69歳】
 n=75



【男性】
 n=98



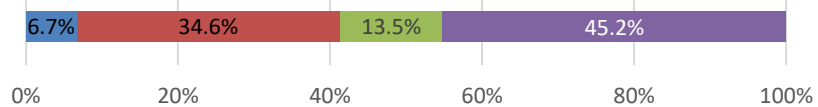
【女性】
 n=99



■ 制度はあったが、取得できなかった ■ 制度がなかった
 ■ 雇用契約で、取得の対象外である ■ その他

介護休業について

【全体】
n=104



【18～29歳】
n=8



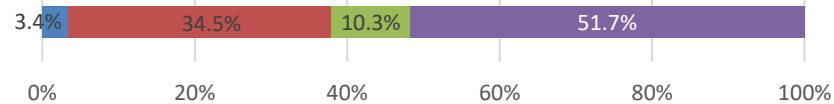
【30～39歳】
n=11



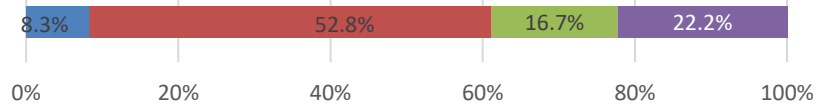
【40～49歳】
n=19



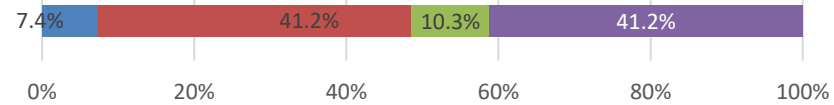
【50～59歳】
n=29



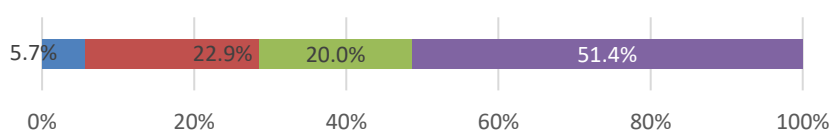
【60～69歳】
n=36



【男性】
n=68



【女性】
n=35



■ 制度はあったが、取得できなかった ■ 制度がなかった
■ 雇用契約で、取得の対象外である ■ その他

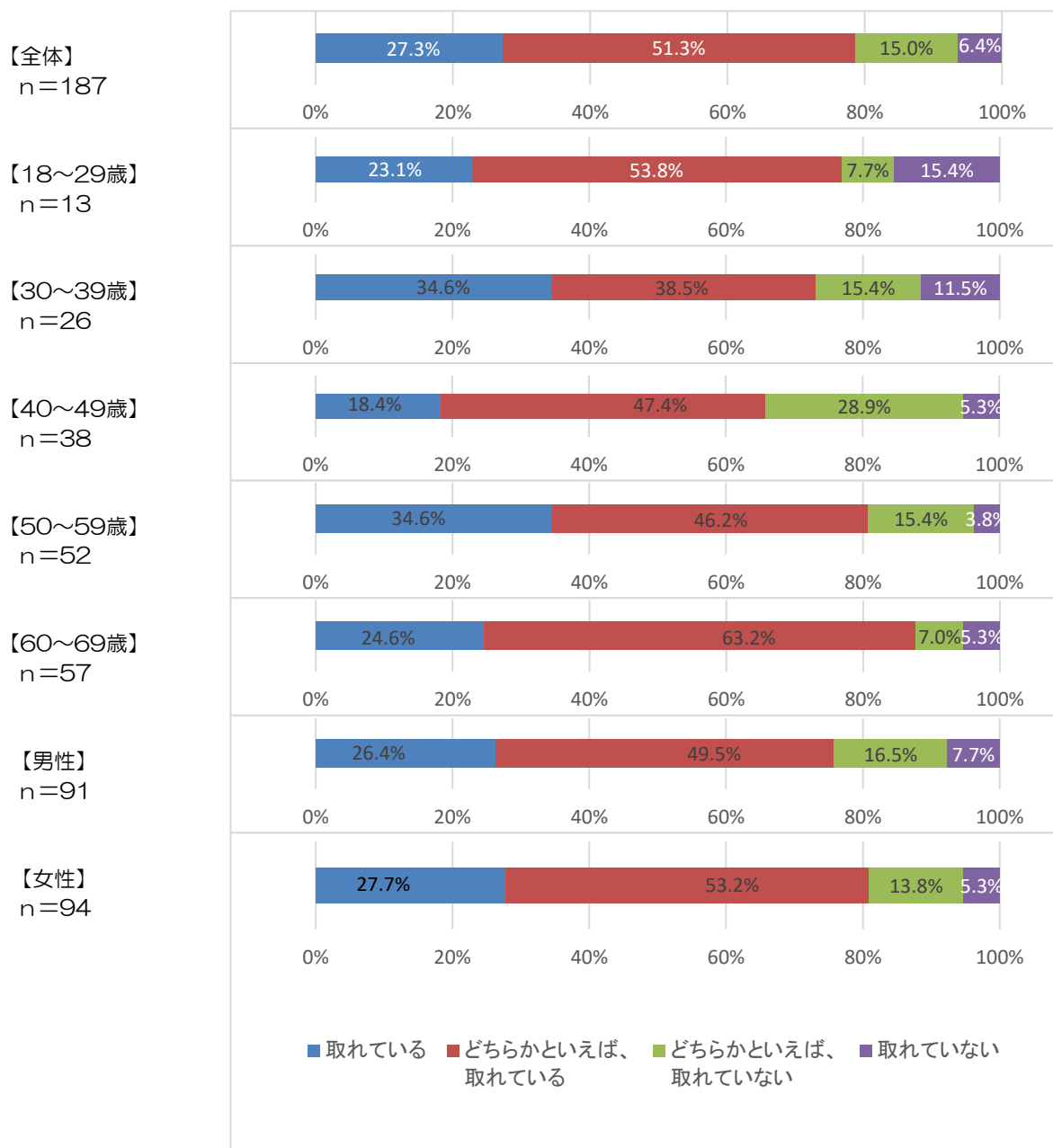
問29 あなたの今の生活スタイルにおいて、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）は取れていると思いますか。理由も教えてください。（いずれかに○）

【分析結果】

ワーク・ライフ・バランスについては、「取れている」27.3%、「どちらかといえば取れている」51.3%を合わせると、7割が取れていると回答した。

年代別では、30歳代と50歳代で「取れている」と答えた割合が約3割で、他の年代と比較して多かった。

男女別では、女性の方が「取れている」「どちらかといえば取れている」の回答が男性と比較して多かった。



<理由>

●取れている

幸い、職場環境に恵まれていること、子供達も手を離れたことで自分の時間が持てるようになった
職場と家が近いので、仕事の合間に家のこともやっています
有休が取りやすく、残業の少ない職場だから
どちらも充実している
健康に暮らせているから
時間にゆとり有り、自由に考え行動できる
全ての事柄に対して感謝して生きているので、ワークライフバランスなど自然に取れている。 (自分の思考・行動が現実を作っていることを理解している。)
マイペース
休みもある程度あるから
経済的な側面で満足できているから。
週休2日が守られているから
週3日休み 9:00~15:00までの仕事で、体に負担が少ない。
日常生活に不満がないから
すぐ家に帰れるから。
「仕事」も「生活」も定義することなく適当に気持ちを抜いているから
勤務時間も短く、主人が協力的で生活に余裕があるので。
子供が小さいので今くらいの仕事の量でいいと思うので。
平日は仕事、休日は趣味と充実した日々を過ごしてる。
過度な残業や休日出勤がないから
だいたいOK。子育て終了期なので安定してると思う。今後老後のことを課題にしていきたい。

●どちらかといえば取れている

休日をしっかり取れている
残業等がないため
仕事もプライベートも自分ですべて決められるから
家族がそれぞれ協力し、出来る事をしている。職場の環境も比較的良い
寝る時間をけずれば、いくらでもやりたいことも仕事も楽しくできるので、とれている。
学校の協力を得ているから
残業も亡く、自分の時間もとれているから
今月育休より復職し、仕事、育児共良いバランスで生活できている。
計画的に有休も取れているし、休日もたくさんある。
親がまだ元気でいてくれるので仕事を続けられる。
欲を言えば全く働かずに裕福な生活をしたい。それは無理だ。
家族の協力、保育施設の協力、職場の協力を得ながら、仕事、子育てができる環境であるため
割と自分で決めた日数で働けているから。
減座は仕事があり、適度な稼働量のため
パートなので時間が短いため
必要な時に休暇も取れ、仕事しながらも家庭を充実させられている。
自身でコントロールしている
なし
夜勤のない部署であり、子どものことや家庭業が行えている。
どちらかというと、仕事の生活を合わせているが、この生活が長いので。祖母、配偶者の協力が十分に得られている。子どもが成長したので。
仕事にも生活にも特に不満に思うこともないので
フルタイムではないので、家事も時間的には多少余裕がある。
仕事の休日数が少ないため
土、日、祭日等休みがしっかりと取れているため、好きな仕事ができる。
休日は休みだから
私生活に支障なく働けているから
バランスが悪いとの実感がない。
仕事と人生の目標に共通項を持たせている。

●どちらかといえば取れていない

仕事が忙しく家庭を犠牲にしまっている
親の介護面が増えてきていると感じている
子どもと過ごす時間が少ない。生活は仕事メイン。
休みが少ない
フルタイムで残業もあり、平日は家庭で過ごす時間が少ないため。
忙しい。
人がいない
自営なので気にならない
就業時間内で業務が終わらず、家での準備や作業を行っているため
仕事と家事に追われて、余裕がない。もう少し子どもの相手をしたい。
夜勤があり、体調管理が困難である。
障がい者雇用で精神的に追い込まれる時がある
仕事に？きがあると感じている。
給料次第
子供ともっと一緒にいる時間がほしい。
仕事为中心となり、生活面に影響を及ぼしている。
もう少し生活、自営の時間がほしい。週2日の休日では少ない。
仕事と介護がほとんどを占めているので、バランスはあまり良くないと思う。
自分より妻が忙しい。看護師で人員不足の中、思ったように休めない。その分、こどもの急な休みや地域の行事等々、夫である自分が行くことが多くなっている。
仕事のバランスが大きいため

●取れていない

仕事が多忙で生活が荒れるが手伝う人がいないため1人でどうにかするしかない
仕事が多すぎる
就業時間内に仕事が終わらない。
人手不足のため、休日出勤社員のお休みで残業があるストレスがある。
仕事中心に生活全体がまわっているかんじがする
休日予定があっても職員が少ないから出勤するよう連絡が良く来る。勤務予定を自分の知らないところで変更されてる。
多忙により勤務時間が長い
仕事に追われる時間が多すぎる
意味なく仕事に行って意味なく生きている。
夫の稼ぎがないので自分が働くしかない。

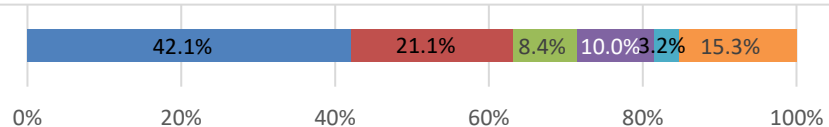
問30 あなたは、どのような生き方をしたいですか。（いずれかに○）

【分析結果】

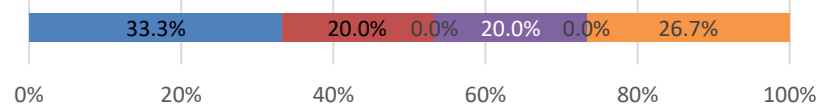
生き方について、「家庭生活・地域活動と、仕事を同じように両立させる」が42.1%で最も多く、次いで、「仕事にも携わるが、家庭生活・地域活動を優先させる」21.1%となった。

年代別、男女別で比較しても「家庭生活・地域活動と、仕事を同じように両立させる」と回答する割合が最も多かった。

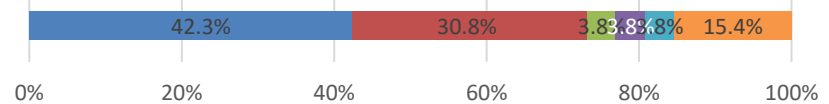
【全体】
n=190



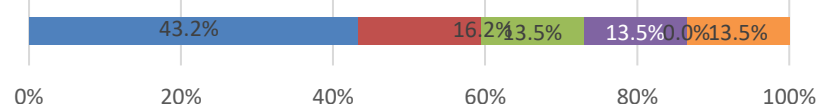
【18～29歳】
n=15



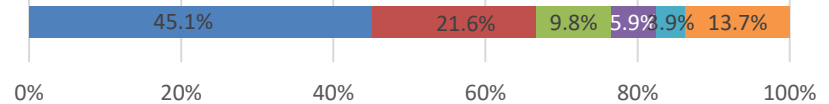
【30～39歳】
n=26



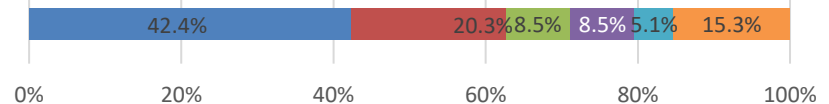
【40～49歳】
n=37



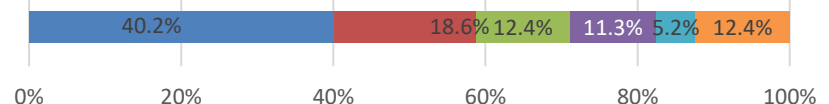
【50～59歳】
n=51



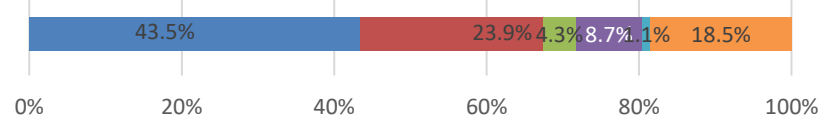
【60～69歳】
n=59



【男性】
n=97



【女性】
n=92



- 家庭生活・地域活動と、仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活・地域活動を優先させる
- 家庭生活・地域活動にも関わるが、仕事を優先させる
- 仕事よりも、家庭生活・地域活動に専念する
- 家庭生活・地域活動よりも、仕事に専念する
- わからない

問31 男女共同参画社会の実現を目指していく中で、今後長和町にどのようなことを期待しますか。（〇は3つまで）

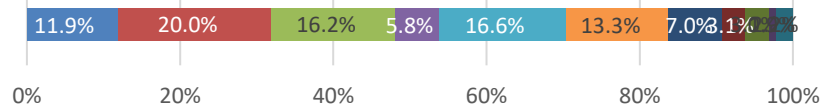
【分析結果】

長和町に期待することとして、「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場作りを促進する」が20.0%で最も多く、「子育て支援の施策を充実する」16.6%、「育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える」16.2%と続いた。

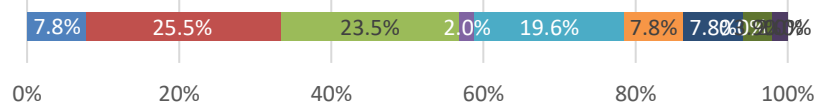
年齢別では30歳代が、「子育て支援の施策を充実する」と答えた割合が、他の年代よりも多かった。

男女別では、「子育て支援の施策を充実する」と答えた割合が、女性よりも男性のほうが多かった。

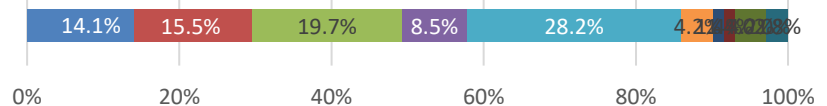
【全体】
n=586



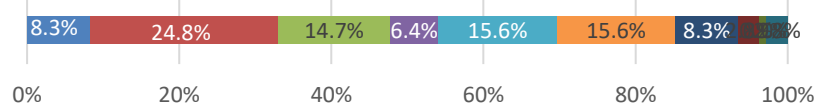
【18～29歳】
n=51



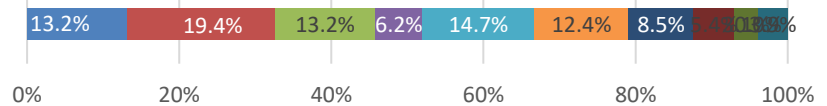
【30～39歳】
n=71



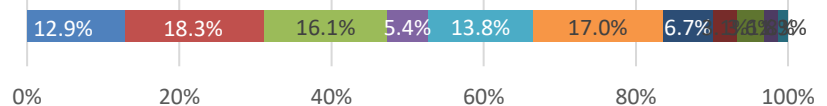
【40～49歳】
n=109



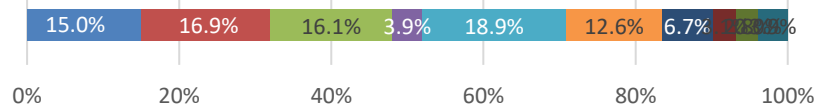
【50～59歳】
n=129



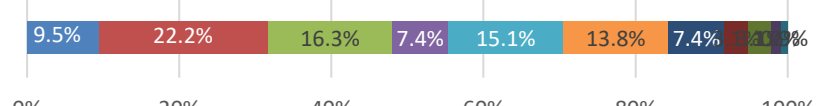
【60～69歳】
n=224



【男性】
n=254



【女性】
n=325



- 役場の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する
- 企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する
- 育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える
- 女性のための職業教育や訓練の場をつくる
- 子育て支援の施策を充実する
- 在宅高齢者対策の充実を図るなど社会参加しやすいようにする
- 男女共同参画の視点に立った教育や学習を推進する
- 女性のための相談窓口を充実する
- 男性への意識啓発および相談窓口を充実する
- DV被害者の支援体制を充実する
- その他

問32 男女共同参画社会づくりに向けて、意見や要望等があれば、ご自由にご記入ください。

自分の働いていた時は、「男女共同参画」の言葉もない時でした。今は、私の頃とは違い大部働きやすい時代となったように思います。
とは言え、まだ「育児、介護等女性が行い、男性は仕事に」が多いと思います。
又昔ながらの風習もあり、年配者の教育もあった方が良いのでは？と思います。

私は、長和町に移住してまだ7年目なので、この町のことをまだよくわかっていないのが事実です。ただ、町議員の女性が一人と知り、とても驚きました。それは、女性が立候補する以前に妨げられるのか、本当に町議員になりたい女性がいなかったのかわかりませんが、男性上位のイメージがとても強いです。男女平等で同じ人数になればとは全く思いませんが、もう少し女性の人数が増えると、意見の幅も広がると思います。
町の人口減少は、大きな課題多度思いますが、逆に人口が少ないことは、まとまりやすいことにも通じると思います。町民を巻き込んで町全体で子どもの見守りや弱者の支援など、ボランティアや仕事として困っている町民のために解決できる組織があると住みやすい町であり、男女共同参画にもつながると思います。
性別を意識するのではなく、個々の個性が生かされて充実した仕事や生活が送れる町になることを願います。

大変有意義な調査だと思いますが、調査協力をお願いの中にある「第2次長和町男女共同参画計画」に基づいた、とありますが、私は近年長和町に来たことから、内容が十分に理解できていませんでした。このことから「参画計画」のダイジェスト版のような物が同封されていれば頼子のアンケート調査に反映できるのではないかと思います。
また、このアンケート調査結果をわかりやすく町民にフィードバックしていただくことを希望します。

学校の教育が、男女平等になっていないのに、社会で、というのは難しいと思う。できないことをやめるより、どうしたら仕事や地域に関われるのかを考えた方が良いかと思う。障害があっても働けたり、学校に行かれるようになると良いと思う。

相談し代筆にて記入しました。

女性は働かないで子育てや家事をする方が良いと思います。

難しいことはわかりませんが、地域コミュニティ強化は大切なことだと思います。女性雇用促進をやたらに推進していますが、本来なら男性主体で働こうが女性主体であろうが適正な賃金で生活が成り立つことが健全な社会のあり方だと思いますが、もし我が国が働く世代の減少やその他の原因であっても男女共に家庭を持ち子どもや親世代も養うのに男女共に働かなければならない状況であるならば、それをきれいな言葉で誤魔化さず、男だろうが、女だろうが、高齢者だろうが、子どもだろうが、自らの意志で働ける物をしっかりとサポートし、働いてもらうようにしていく行政のあり方が社会的弱者をも支えていくことができる社会の形を作れるのではないかと考えています。

育休手当を10割にしてほしかった。

みんながしあわせでいられる長和町を作っていきたいと思います。地域に協力できることはできるだけ協力をしていきたいです。

男女共同参画社会づくりに向けて、よりよい社会になるよう、私も協力や勉強をしていきたいと思っています。このアンケートは大変貴重な経験でした。ありがとうございました。

若年層においては男女差別を感じることは少ない。むしろ服装などは女性の方が規定がゆるく優遇されているところもある。同一労働同一賃金が多いと思う。高齢社会における年功序列制度は反対で、能力がある人には若くても産後でも、定年退職後でもしかるべき給与や役職につくべきだと思う。男女共に得意不得意があるのに、平等という名の強要みたいなことになるのはやめたほうがよい。

地区によって差があるとは思いますが、地域の役員や役割等について、男性のシングルと女性のシングルとでは女性の方に負担が大きいと感じます。導水路普請や草刈り作業等、男性が多くの方の仕事を担当して下さっているのは承知していますが、女性の一人家庭も出労義務はあります。しかし、男性一人家庭が、日赤奉仕団、健康づくり推進委員、公民館の掃除等を行っているのはほとんど見ません。地区の人数にもよるでしょうが、少なくとも私の地区ではそれらは全て「女性の仕事」です。性差により向き、不向きはあると思いますが、女性一人家庭に求められるものは男性一人家庭にも求められて然るべきだと考えます。男性の中には、地区の大きな役を女性がやらないことに対して不愉快な陰口をきく人もいるようですが、地区全体で担うべき様々な役割について、自分以外のの人々への理解が不足しているためなのではないかと思います。私の地区では長い間、女性部の活動報告や役員名簿は女性のいる家庭だけに、女性の役員が配布していましたが、最近は区の決算報告等と共に全戸配布してもらっています。女性がどんな役割を担っているのか目にしてもらって自分のことだけでなく、広い視野で目配り、気配りをしてもらうことにつながれば、という願いで始めたことです。

都会に比べてまだまだ男性優位の職場、地域活動が多いように感じる。女性の管理職を増やすなど同性が上司になることで、理解してもらえることも増えるのではないかなと思う。町に女性議員が誕生したことで、子育て世代の視点からいろいろなことに取り組もうとしていることが嬉しい。女性も輝ける長和町になっていくと良いと思う。

むりやり女性を管理職にするとかは本末転倒

社会において、男性が多い企業は女性の管理職が少ない為、女性が活躍できる場になってほしい。長和町において、男性が町長、副町長、課長級など目立った人たちが男性ばかりなので、女性が活躍できる町になってほしい。また、男性が上に立っている町のため、女性達（現場、子育てなど）の意見が通らない。もっと女性の声を聞いてほしい。Uターンに対する人に対して、求人も全くない町なので残念。生まれ育った町に帰りたい優秀な方はたくさんいる。帰れる環境がない。町へ出稼ぎに行っている方がたくさんいるので、雇用を考えてほしい。そこから男女共同参画社会づくりが長和町でできると 생각합니다。今の子供達は、長和町から出て行く人が多いと思うので、人口減少を減らすためにも住民と一緒に長和町さん考えましょう。

町外で生まれた後、移住した。男性であれ女性であれ、個人の意思で社会に参加すれば良いと思います。人口の男女比は半々ですので民主主義の社会であれば答えは半々になるでしょう。若年層と高齢者の意識のずれの方が世の中を良い方向に向けにくい。男女の性差をなくしたいのであれば高齢者の教育が必要だと思う。

地域や企業による差も大きいかもしれませんが、40代以下の方については仕事場においても子育てなど家庭においても、「男だから～」「女だから～」という意識はどんどん低くなっているように感じています。なので、40代以下の方々に、政策決定の中心になっていただく方が男女共同参画社会づくりは進むと思います。

女性だけだとギスギスするから、同等の人数（男性）が居ると良い。柔軟な考え、意見も、聞き入れることも大事だと思う。そして、それらを取り組むことで見える、わかることもあると思う。後は、皆で同じことをしてみる（体験してみる）。

会議で何か言っても、貴重な意見をどうも、で終わるので、町の会議の結論が決まってい現場で承認したから文句いふなみたいなやりかたを変えていく必要があると思う。

出産は女性しかできないので男性の特徴、女性の特徴（体格差など）何をもって平等なのか。PTA会長（小学校）は男性しかないと聞いていますが、シングルマザーの方もいます。

パートナーの給料（収入）がよければ、そんなに働かなくても、子育て、介護の時間が取れる。収入がないので、働かないといけない。しかし、家事はほぼ女性がやっている。仕事も子育ても介護もやれ、と言われても身体がもちません。保育園が充実しているからといえ、女性の負担は減りません。保育士も女性です。自分の子どもを預け、休日の保育や延長保育もある仕事です。私はできるのなら仕事よりも家でちゃんと子どもと夫の世話をしたかったです。仕事で疲れているから家事が手抜きになるんです。女性は損です！！

田舎は特に男女共同は難しいと思います。高齢者の考え方を変えなければ難しいのでは・・・。
このような、アンケートや意見が、いかされるのか？日々悩み、生活している人や、1日1日を、必死に生き、生活に追われながらの毎日の中、本当に、心に、そして行動に期待します。ストレスになる事項など日々感じていても、見て見ぬふり、他人事になるのは、世間が、人とふれあうとか、ご近所との関わりをなくす時代になっていると思う。悪口、人の表の顔ばかりを気にするようなことがなくなるといいと、日々思っています。長和町、幸せに暮らせる町ですか？町民が、平等な暮らし、できてますか？外に向けての評価求めすぎてませんか？役場の皆が、きちんと仕事してますか？
この調査の質問と回答選択肢が偏っているので良くないと思います。
「男」「女」「仕事」「家事」など定義しすぎると逆に各人をしばり付けることになるので注意が必要だと思います。人間関係を狭く持っているとうらやまが生まれやすく、普段から社会的関わりを広く薄く持てるよう、企画があると良いと思います。
そもそも、男女共同参画社会の意味がわかりません。アンケートの答えが何かのお役に立つことを願います。
男女というよりも、まずは、人間性だと思う。マネジメントがある人、人間ができている人には、男女問わず、人がついていくと思います。「づくり」とありますが、作るモノではないと思いますよ。何も考えずに、女性が出てくる場所を。自然に男性女性が動ける場所を。考えてあげてください。
町内に65歳以上の人たちの就労場所がほしい。
一つの団体や会社で男女が共に上に立つ人がいて意見をはっきり言い合える、そして共に会社、人、が育つ団体や企業が地元にあると良いと思う。人それぞれの考えや、働き方があるのでみんなで支え、助け合い、協力できる素晴らしい地域、団体があるところで働きたい。
風土の醸成にもっと努めるべきと思う。
高齢社会、過疎、少子化の著しい地域において、男女共同参画社会又はジェンダーという意識は、なかなか持ちにくい現実がある。それは、ひとつに高齢者にとって（特に後期高齢者比率が高い地域）問題意識として現実化できないこと。従来の生活様式や慣習、風土が中心にならざるを得ない現実。町も課題とし、取り組んでくれている、若者支援をさらに拡大できる方向性を探してほしいと考えるが、一住民（町民）として考えていきたいと思う。一つ体制として感じているのが、議員の定年齢、町長の定年齢制度設定があっても良いと思いますが、いかがでしょう。
自分も妻も現在も3世代で暮らしてきました。これからもそれを望んでいます。客観的に見て、自分は割とフラットな考えで居るつもりですが、例えば、収入が今よりも多く、共働きをしなくて良い、また妻が仕事をしていない状況で考えは大きく変わるかもしれませんが、ただ、男女とも仕事、家庭、子育て、介護、をお互いがやれる環境を整えてほしいです。やらないのはもったいない。自分の職場では、時短勤務が大部浸透し、男性の育休もちらほらと、子育て経験からだと病児保育（宿泊？夜勤の方で要望があるかはわかりませんが）が足りていない？でも一番はそういうときに気兼ねなく休めればいいのですが・・・。期に・企業も収入が安定しないとこのような施策にお金はまわってこないと思いますが、何はなにと雇用安定、？いたいとおもいます。臨時、パート、正職の賃金格差、と仕事量の量、そのしわよせが男女の役割に影響が出ると思います。